

事項四 大沽事件

四四〇 二月二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽砲台占領中ノ中國軍隊ノ外国船舶ニ対ス
ル発砲ニツキ首席公使ヨリ王外交総長ニ抗議
ノ件

第六九号

二月二日外交団會議開催

目下大沽砲台占領中ノ支那軍隊ハ夜間同地水道ヲ通過スル
外国船舶ニ対シ発砲スル旨在天津英國總領事ヨリ同國公使
宛電報アリタル趣ニテ各國公使協議ノ結果本件並支那側ニ
於テ大沽砲台ニ大砲ヲ据置スルノ条約違反行為ニ対シ二月
三日首席公使ヨリ口頭ヲ以テ外交総長ニ抗議スル事ニ決シ
タリ

天津へ転電セリ

四四一 二月二十二日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

排外運動ノ取締ニツキ中央政府ニ警告方芳沢

下ヨリ当地排日運動ノ取締方ニ付中央政府ニ警告ヲ發シ置
カルレハ之等反対運動ノ阻止上ニモ好都合ナリト思考ス
外務大臣、上海、漢口へ転電シ青島、濟南、南京へ暗送セ
リ

四四二 三月三日(着) 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽方面ノ外国船舶ニ対スル不法行為ニ関ス
ル鹿鍾麟前敵總司令ノ談話報告ノ件

第二三号

前敵總司令トシテ二十八日来津セル鹿鍾麟ハ三月二日岡本
ニ対シ為シタル談

(一)馬廠陥落ハ國民二三軍力戰意ナクシテ引揚タルニ依ル自
分統率ノ第一軍ハ約三万五千アリ両三日中總攻撃ニ移ル
積ナルカ敗殘兵土匪ノ集団ニ対シ充分ノ成算ヲ有ス
(二)大沽方面ニ於テ外人船舶ニ対シ不法行為ナキ様岡本ヨリ
嚴重注意シタルニ対シ先般ノ事件ハ遺憾ナルカ右ハ事理
ヲ解セサル三軍或ハ唐之道軍ノ所為ニシテ今後同地へハ
一軍ヲ配置シタルヲ以テ重ネテ是ノ如キ不法行為ヲ繰返
ス事ナカルヘシト信ス但シ奉天軍艦來港スルニ於テハ擊

四大沽事件 四四二 四四三

公使ニ申進ノ件

第一九号

本官發在支公使宛電報
第一三号

当地方ノ排外運動ニ付テハ旧年末來數次取締ヲ要求シ居レ
ルニ拘ハラス最近留日奉天學生ノ來津ト共ニ当地排日会ノ
成立トナリ組織的ニ各種ノ運動行ハルルニ至リ輕視スヘカ
ラサル事態ト認メタルニ付二月二十日交渉員ニ対シ嚴重交
渉シ二十一日ニハ更ニ孫督弁ニ面会シテ早キニ及ンテ取締
ヲ勵行スルニ非サレハ意外ノ事態ヲ惹起スヘク所謂國民軍
ノ日本側ニ対スル態度ハ本件取締ノ実績如何ニ依リテトセ
ラルル次第ナル旨警告シタルニ我警察ノ報告ニ依レハ同日
ヨリ市街講演伝單撤布等ヲ禁シ既ニ各所ニ貼布セル宣伝
「ビラ」ヲ一律撤去セシメタル由ナリ之カ為天津國民黨員
ハ右官憲ノ取締ニ対スル對抗策トシテ中央國民黨執行委員
ニ報告シテ段執政ヲ通シテ孫岳ニ國民黨ノ運動ヲ阻止セサ
ル様要求セシムル事等ヲ協議決定セル趣ナリ就テハ此際閣

退セサルヘカラス是ノ如キ場合ニハ可成付近ニ近寄ラサ
ル様注意ヲ願ヒタシ

(三)天津ノ治安維持ハ孫督弁ノ責任ニシテ其部下ニ混成旅ニ
加フルニ警察隊アルヲ以テ充分ナルヘシト信スルモ万一
ノ場合ハ我一軍援助スル管ナリ自分孫岳ニ代ツテ督弁タ
ルヘシトハ事實無根ナリ云々

在支公使、奉天、濟南、漢口へ転電シ上海、張家口、青
島、南京へ暗送セリ

四四三 三月五日(着) 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

奉天側軍艦ニ日本及ビ英國軍艦付キ添ヒ居ル
トノ鹿鍾麟ノ抗議ニ関シ奉天官憲ニ警告方要
請ノ件

第二四号

本官發奉天宛電報第一二号

(欄外記入)
四日鹿鍾麟ヨリ大沽沖ニ來航セル支那軍艦ノ兩側ニ日本軍
艦二隻英國軍艦一隻付キ添ヒ居レルコトヲ通報シ且爆彈投
下ヲ行フ旨通報シ來レリ館員ヨリ絶對ニ斯ノ如キコトアル
ヘキ管ナキ旨答ヘ置キタル処五日入港ノ日本船員モ日本軍

四二三

艦二隻大沽沖ニ来航シ居レリトノ情報ヲ齎ラセリ渤海艦隊中或ハ我國旗ヲ掲揚セシモノアルニ非スヤト懸念セラルル処若シ右様ノ事実アリトセハ延テ当港出入ノ我カ商船ニ累ヲ及ホス惧アルニ付此ノ際奉天官憲ニ右様ノコトナキ様警告ヲ与ヘラルル様御取計ヲ請フ
外務大臣及在支公使ヘ転電セリ

(欄外記入)

三月六日海軍省寺島副官ニ確メタル処ニヨレハ本電中ノ日本軍艦ニ関スルコトハアリ得ヘカラス天津ノ駆逐艦ハ引揚ケ大沽ニモ碇泊シ居ラス又其ノ他ノ軍艦カ最近同地方ニ移動シタル事実モナシトノコトナリ

四四四 三月五日(着)

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

塘沽方面ノ実情取調及ビ出先軍憲ト交渉ノタ

メ藤井書記生出張ノ件

第二五号

塘沽運輸部ヨリノ情報ニ依レハ奉天側軍艦二隻運送船三隻四日大沽沖ニ来リ碇泊中ニテ国民軍ハ援兵ヲ増派シ砲台ニ野砲十門ヲ据ヘ付クル等戦備ヲ整ヘツツアリトノコトナリ塘沽方面ノ実情取調旁々本邦船舶保護上場合ニ依リテ

ハ出先軍憲ト交渉セシムル様藤井書記生ヲ塘沽ニ出張セシメタリ

北京、奉天、青島ヘ転電セリ

四四五 三月六日(着)

在奉天內山総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

渤海艦隊ノ日本国旗掲揚ニツキ総司令部ニ申入レノ結果回報ノ件

第七九号

本官発天津宛電報第一〇号

貴電第一二二号ニ関シ総司令部ニ申入レタル処渤海艦隊カ日本国旗ヲ掲揚スルカ如キコトハ万無カルヘシト思考スルモ直ニ電報ニテ注意ヲ為シ置クヘキ旨ヲ答ヘタリ

四四六 三月九日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ニヨル外国船舶ノ通過阻止ニ対シ鹿鍾

麟ノ代表者ニ交渉ノ結果報告ノ件

第二七号 至急

国民軍ハ大沽沖ニ在ル奉天軍艦カ外国船ノ出入ヲ利用シ大沽「バー」ヲ通過シ或ハ陸上砲撃ヲ為スノ故ヲ以テ外国船

第二八号 至急

税関ソノ他ニ達シタル情報ニ依レハ八日以来在大沽国民軍ハ「シグナルステーション」ヲ占领シ夜間標識ヲ消灯シ且ツ水先案内人ノ港外ニ出掛クルヲ禁シ居ル外南砲台付近ノ水道ニ水雷十個ヲ沈設シテ全ク船舶ノ交通ヲ杜絶セシメタリ右ノ次第ニ付キ九日午後英國総領事ト共ニ鹿鍾麟ヲ訪ヒ交渉スル管

在支公使、奉天、青島、濟南、上海、漢口ニ転電セリ

四四八 三月九日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

外国船舶ハ軍艦護衛ノ下ニ出入スル外道ナキ

モノト思ハレ日本駆逐艦ノ大沽派遣ノ必要ニ

付具申ノ件

第二九号

(三月十日接受)

往電第二八号ニ関シ

英國総領事ト共ニ鹿鍾麟ニ面会シタルニ船舶ノ交通ヲ杜絶スルニ至リタルハ全ク渤海艦隊ノ砲撃ニ原因スルモノニシテ背ニ腹ハ代ヘラレサル已ムヲ得サル措置ナルコトヲ頻リニ弁解シ居リタルモ当方ニ於テハ水雷敷設ノ極メテ危険ニ

四四七 三月九日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ガ完全ニ大沽ニ於ケル船舶ノ交通ヲ杜

絶セシメタル旨報告ノ件

シテ^{フゲキ} ナルコトヲ力説シテ之ヲ除去スルコト及船舶ノ出入ニ関シ実行可能ノ方法ヲ協議スル為鹿及日英総領事館ノ代表ヲ至急大沽ニ派遣スルコトヲ要求シタルニ結局鹿ハ敷設シタル水雷ハ触発水雷ニ非スシテ陸上ヨリ電気装置ニ依リ発火セシムルモノナルニ付普通船舶ノ交通ニハ危険ナキ由ヲ明言シタリ依テ右水雷除去ノコトハ暫ク之ヲ留保シ代表派遣ノコトヲ承諾セシメ明日午前八時日英副領事(當館ヨリハ岡本)鹿ノ代表ト共ニ大沽ニ向フコトナリタリ別ニ当地碇泊英國砲艦「フォックスグローブ」モ同地ニ下航スルコトナリタルカ結局外國船舶ハ軍艦護衛ノ下ニ渤海艦隊ノ混入ヲ防キツツ出入スルコト為ス外道無カルヘシ秦皇島ニ在リシ英國軍艦ハ當方面ニ來航ノ管ニテ又米國ノ水雷艇ハ(シキ)ニ在ル「スタンダードオイル」保護ノ為ト云フ)來航ノ途中ニ在リシカ目下大沽港外ニ在リ当地ニ在ル各國軍艦ハ英米仏伊各一隻ナルカ伊艦ハ蘆台方面ノ守備ノ兵員ヲ乗セテ八日大沽ニ赴ケリ尚商船ヲ「エスコート」スルコトトモナラハ英國軍艦ノミニ依頼スルコトハ日本ノ商船數ニモ顧ミ面白カラスト思考スルニ付右様ノ場合ヲ想像シ我驅逐艦ノ大沽方面來航ハ必要ナルヘシ

催ヲ請求シ其ノ結果ニ依リ追テ更ニ天津領事団ニ電訓スルモ差当リ日英兩國公使ヨリ各自國領事ニ別電第二四号ノ通電訓スルコトナレリ
大臣、青島、濟南、芝罘ハ転電セリ

(別電)

三月十日着在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第二二二号
在天津總領事宛電訓

第二二二号 別電

本官發天津宛電報第二四号

Pending further instruction as the result of the consideration of the Diplomatic Body, you should concert with British Colleague in making strong protest to responsible military authorities whom we assume to be Lu Chung Lin against the attempt to close the river by placing the mines or otherwise obstructing free navigation by foreign vessels and that the interested Powers reserve themselves the right to take any necessary steps to prevent such interference.

We are taking steps to convey similar warning to

北京、奉天、上海、青島、芝罘、濟南、關東長官ニ転電セリ

四四九 三月十日(着) 在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽ノ船舶交通杜絶ニ関シ責任アル軍憲ニ抗議方日英兩國公使ヨリ各自國天津領事ニ電訓スルコトシタル旨報告ノ件

別電 三月十日着在中國芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第二二二号
右在天津總領事宛電訓

第二二〇号

本使發天津宛電報

第二二三号

九日英國公使來訪在天津同國總領事ヨリ電報ニ接セリトテ(一)諾威汽船 Hubao (開礮炭鉱ノ備船) 八日午前小銃其ノ他ノ射撃ヲ受ケ天潮丸及「バイロット」船モ同様射撃セラレタリ(二)國民軍ハ大沽砲台付近ノ水道ニ水雷十個ヲ沈設シタリト(三)電文ヲ讀上ケ本使ヨリハ貴官ヨリノ電話ノ次第ヲ語り種々協議ノ結果首席公使ニ対シ至急外交団會議ノ開

the opposing forces through foreign consuls at Tsingtao and Chetoo and you should so inform General Lu.
外務大臣ハ転電セリ

四五〇 三月十日(着) 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟ガ代表派遣ヲ拒否シタルコト及ビ關係國領事會議ヲ開ク予定ノ旨報告ノ件

第三二号

往電第二九号ニ関シ

鹿鍾麟ハ大沽方面戰時窮迫ノ口実ヲ以テ九日夜突然ソノ代表ノ派遣ヲ拒ミ來リタリ依而明日午前十時英國總領事館ニ於テ關係領事會議ノ上措置ヲ協議スル管在支公使、奉天、上海、青島、芝罘、濟南ニ転電シ關東長官ニ暗送セリ

四五二 三月十日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國民軍ヨリノ連絡ニヨリ邦船數隻水先人乗船ノ上取敢エズ出港ノ旨報告ノ件

第三三二号(至急)

往電第二九号ニ関シ

藤井書記生ノ報告ニ拠レハ国民軍ヨリ水先案内組合ニ対シ水先人ヲ乗船セシムルニ於テハ今ダケ出港差支ナキ旨通告アリタル趣ニテ今十日朝不取敢貴州丸東洋丸二隻ハ「バー」ヲ通過セリ残余四隻（竜口長平富士^{サキノ}）ハ十一日朝出港ノ筈

水雷敷設ノ点ニ付テハ從來其敷設ノ事実ニ付テモ疑ヲ抱クモノ有シカ（尤モ鹿鍾麟ハ之ヲ肯定シ居タリ）十日朝「パイロットコンパニー」及藤井書記生ノ報告ニ拠レハ水雷ハ既ニ取除カレタリトノ事ナリ

又十日以来「デーシングナル」回復サレタリト云フ

在支公使、上海、青島、濟南、芝罘、関東長官ヘ転電セリ

四五二 三月十日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

関係国領事會議ノ結果海軍力ヲ以テ船舶ヲ通

過セシムル外ナシト意見一致セル旨報告ノ件

第三三三号 （三月十一日接受）

往電第三一号ニ関シ

十日議定書関係国領事會合協議シタルニ米國領事ハ此際船舶ノ通行ヲ哀願スルカ如キ態度ヲ取りテ國民軍軍憲ト協議スル事ハ各國ノ權利ノ一部ヲ「サーレンダー」スルカ如キ状態トナリテ面白カラサルノミナラス仮令何等カノ協定ヲ見タリトスルモ米國駆逐艦ヨリノ情報ニ拠レハ山東軍艦ハサル日曜以来日中ノ満潮時ニハ必ス陸ニ近寄り砲撃シ居タルニ九日ニハ夜間ノ満潮時ニモ砲撃シタリトノ事ナレハ軍艦方面ヲモ制スルニ非サレハ國民軍側トノ協定ハ何ノ効果モ齎ラササルヘシトテ各國海軍力ヲ以テ軍艦側及砲台側ヲモ制止シ一定時ニ於テ各國船舶ヲ通行セシムル事トナスヨリ外ナシト提議シタリ本官等モ鹿鍾麟力往電第三一号ノ如ク前言ヲ食ミテ代表者ヲ送ラサリシ事実並ニ奉天、青島、芝罘等ノ軍憲ト軍司令トノ連絡覺束ナカルヘキ現状ニ顧ミ米國領事ノ提議ノ如クスルヨリ外ナカルヘシト云フニ一致シタル次第ナリ

在支公使、奉天、上海、青島、芝罘ヘ転電セリ

四五三 三月十一日（着） 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

外交団會議開催ノ結果最終議定書ニ基キテ中

国政府ニ抗議スルコトニ決定ノ旨報告ノ件

別電 三月十一日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛

電報第一二三号

右在天津、濟南首席領事ニ対スル首席公使電訓

第一二二号

十日外交団會議開催首席公使ヨリ日英米仏等ノ公使ヨリ大沽問題ニ付情報ノ供給若ハ外交団會議開催ノ請求アリタル旨ヲ披露シタル後其ノ措置振リヲ付議シタルカ或ハ一般通商条約ニ基キ抗議スルモ差支ナシトノ議論出テタルモ結局最終議定書ニ基キテ支那政府ニ抗議シ且抗争中ノ軍憲全部ニ対シ同様ノ趣旨ヲ申入ルルコトニ決定セリ其ノ結果天津、奉天、濟南ノ首席領事ニ対シ首席公使ヨリ夫々別電第一二三号ノ如キ電訓ヲ發セリ支那政府ニ対シテハ首席公使カ外交次長ニ面会ノ上抗議ヲ申入ルルコトニ話合ヲ逐ケタルモ同次長不在ノ為メ午後首席公使ノ裁量ニ依リ大沽方面ニ於ケル交通妨害ノ詳細ナル事態ヲ挙ケタル後別電ノ趣旨ノ抗議ヲ為セル公文ヲ發送セル趣ナリ

天津、濟南、奉天ヘ転電セリ

（別電）

三月十一日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一二三

号

在天津、奉天、濟南首席領事ニ対スル首席公使ノ電訓

第一二三号 別電

Please communicate to Chinese Military Authority that the Diplomatic Representatives have urgently protested against the closing of the port of Tientsin to the sea by the military action being carried on at Taku and have demanded the immediate cessation by both of the mutually hostile factions of the Chinese armed forces of these acts of obstruction reserving themselves to collaborate for the protection of foreign shipping and for the maintenance of free access to the port of Tientsin should the Chinese Government fail to forthwith action to that end in fulfilment of the purposes of the Protocol of 1901.

You should add that an identical communication is being addressed to the headquarters of both continuing parties and that the protective measures indicated above would be applied against either party

without discrimination.

天津、濟南、奉天へ転電セリ

四五四 三月十一日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟ニ抗議ノ結果水先人ヲ乗セザル船舶ノ
入港ヲ認メタル旨報告ノ件

第三六号(至急)

往電第三二号ニ関シ鹿鍾麟ニ対シ「パイロット」ヲ乗セサル船舶ノ入港ヲ許可セサルハ理由ナキ不法ノ所為ナル旨ヲ指摘シ嚴重抗議ノ結果直ニ出先官憲ニ対シ当方要求通り措置スヘキ旨訓令スルコトナリ現ニ今十一日朝河南丸ハ水先無ク入港セリ尚同船ハ大沽砲台付近ニテ国民軍ノ為臨檢サレタル趣ナルカ右ニ関シテハ重ネテ鹿司令ニ嚴重抗議ヲ申入ルル旨ナリ

北京、奉天、上海、青島、濟南、芝罘へ転電セリ

四五五 三月十二日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

驅逐艦四隻旅順ヨリ天津ニ向カイタル旨通報
ノ件

ル国民軍兵士ノ検査ヲ受ケ(東洋丸富士丸ハ貨物船ノ故ヲ以テ検査免除サル)午前十一時頃「バー」ヲ通過出港セリ(竜口丸ハ吃水深キ為攔坐シ出港シ得ス明朝ノ高潮ヲ待ツ管)

次テ午前十一時入港ノ天潮亦同様検査ヲ受ケタル後無事通過入港セル趣ナリ

尚砲台ト「パイロット」組合トノ間ニハ入港船舶ハ橋頭ニ其ノ国旗ヲ掲ケ舷側ニ社旗ヲ垂レ砲台ニ接近スル際ハ一定ノ汽笛ヲ鳴ラスコトニ打合セ居レリト云フ

北京、上海、青島、濟南、芝罘、関東長官へ転電セリ

四五七 三月十二日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

出入船舶検査撤廃方鹿司令ニ要求セル旨報告
ノ件

第三八号

往電第三七号ニ関シ十一日午後岡本副領事ヲ鹿鍾麟ノ司令部ニ派シ出入船舶検査即時撤廃方要求セシメタル処鹿司令不在ノ故ヲ以テ李交渉署長に接シ岡本トノ間ニ種々ノ押問答ヲ重ネタル由ナルカ最後ニ李署長ハ私案トシテ日本官憲

第一二七号

本官発在天津総領事宛電報

第二五号

大臣宛電報第一二二二号ニ関シ

津田武官ノ報告ニ拠レハ帝國驅逐艦四隻十一日朝旅順發貴地ニ向ヒタル趣ナルニ付貴官ハ海軍当局ト連絡ノ上他国海軍ト然ルヘク共同措置ヲ取ラルル様致シタシ
外務大臣へ転電セリ

四五六 三月十二日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

邦船ノ大沽出入港状況報告ノ件

第三七号

往電第三六号ニ関シ在大沽藤井書記生ヨリノ報告ニ依レハ同書記生ハ十一日朝大沽砲台ニ赴キ国民軍ノ守備隊長ニ面会シタルニ砲台トシテ昼間高潮ノ際奉天軍艦ニシテ近寄ラサル限り出入船舶トモ検査ノ上通行セシムヘシト称シ居リタル由ナリ尚東洋丸長平丸^{サキヤ}丸(以上各船「パイロット」乗込)富士丸相模丸(「パイロット」無し)ノ五隻ノ外開灤鈺務局汽船一隻ト仏国船一隻ハ支那船客貨物ニ対ス

ト立会ノ上検査スルノ方法ヲ講スルコト本件解決ノ一要件ナラントシ居タル由ナリ

尚船舶検査ノ為砲台ヨリ船ニ兵士ヲ派遣スル場合砲台トシテハ何等小蒸汽設備無キ為船会社ニ於テ之ヲ準備セサル可カラス開灤及「バターフィールド」等ニテハ各自其ノ所有小蒸汽船ヲ(脱)シ居レル処日本側トシテハ何等是等ノ準備無ク然モ検査ヲ受ケサレハ通過出来サル状況ナルニ付已ムヲ得ス藤井書記生臨機ノ措置トシテ陸軍運輸部ノ小蒸汽船ヲ借受ケ砲台ト日本船舶トノ間ニ立チテ事実上幹旋通過セシメタル由ナリ去リ乍ラ引続キ右様ノ幹旋ヲ為スコトハ領事館ノ立場トシテ甚タ迷惑故十一日午後船会社関係者ヲ招キ十二日以後ハ是等関係者ニ於テ小蒸汽船ヲ雇ヒ入レ然ルヘキ人ヲシテ検査ヲ幹旋セシムル様示達シ置ケリ

上記ノ次第二ニシテ当地軍憲ニ対シテハ当館ヨリ嚴重抗議ヲ継続ス可キモ實際問題トシテハ検査ヲ受ケサレハ通過不可能ナルヘキニ付差当リ商船ヲシテ任意検査ニ服セシムルコトトナスヨリ外途無カルヘシ
北京へ転電セリ

四五八 三月十二日 高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀總長宛(電報)

第十五驅逐艦隊ガ国民第一軍ノ射撃ヲ受ケタ
ル旨報告ノ件

天電第一二四号 (三月十五日外務省接受)

一、旅順ヨリ塘沽へ入港セントスル我第十五驅逐艦隊十二日正午頃国民第一軍ノ猛烈ナル射撃ヲ受ケ遂ニ港外ニ引返セリ小蒸汽船ニテ出迎ヘタル運輸部ノ杉本少佐及領事館ノ藤井書記生共帰ルコト能ハス(塘沽電話)

二、「カラハン」ハ北京ニテ国民軍側ニ対シ此ノ機会ヲ以テ北清事変最終議定ヲ破棄ス可キ旨勸告中ナリト(支那新聞記者談)

關東、北京、坂西、奉天済

四五九 三月十二日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

日本驅逐艦射撃事件ニ関シ鹿鍾麟ト交渉ノ結

果報告ノ件

第四一号(至急) (三月十三日接受)

十三日議定書關係国領事會議ニ引続キ在当地各国軍艦々長

シタル旨並ニ支那側死傷ハ未タ判明セサル旨ヲ述ヘタルニ付岡本ハ往電第三九号驅逐隊司令ノ電報要旨ニ加フルニ大沽ニ於ケル我カ運輸部ノ報告ヲ告ケ我方ヨリ射撃ヲ開始スヘキ何等ノ理由無キ旨ヲ縷々説示シタル処鹿ハ事實調査後ニ非サレハ何レニ非有ルヤハ判明シ難シ右交戦カ誤解ニ基クモノナリヤ將又一方ニ於テ故意ニ射撃ヲ開始シタルヤハ本件処理上至大ノ關係有リト述ヘタル由ナリ在支公使へ転電セリ

四六〇 三月十二日(着) 在芝罘別府領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽河口航行ノ自由等ニツキ軍艦海坂搭乘ノ畢

司令ニ抗議ノ件

第一八号

本官発在支公使宛電報

第九号

貴電合第三九号末段ニ関シ

十日午後英國領事ハ公使ヨリ訓電ニ接シタル処病臥中ナレハ本官ニ於テ取扱方委任アリタルニ付同夜戒嚴司令ニ面会(一)大沽河口航行ノ自由(二)水雷敷設嚴禁ノ件ヲ目下大沽沖ニ

會議ヲ開催スル予定ナル処日本軍艦ノ当地ニ滞在スルコトハ将来各国軍艦トノ連絡上便宜ト認メラルルニ付若シ驅逐司令ニ於テ同意スルニ於テハ最初ノ計画通り通航スルコト得策ナルヘク尤モ之レカ為メニハ再び同様ノ不祥事勃発ヲ防止スル為メ鹿鍾麟ト充分打合ヲ為スハ勿論當館代表ト共ニ鹿ノ有力ナル代表ヲ大沽ニ派遣スルコト必要ナリト認メ一面驅逐司令ノ意見ヲ問合スト同時ニ他方岡本ヲシテ十一日夜十二時鹿鍾麟ヲ往訪交渉セシメタル結果漸ク代表トシテ武官及通訳各一名派遣方ヲ承諾シタルニ付十三日午前八時發濟通丸ニテ右代表帶岡本ヲ大沽ニ急行セシムルコトトセリ

右会见ノ際鹿ハ其ノ来津ニ先立チ我カ公使館側及本庄少將トモ特ニ打合セヲ遂ケ他外国ハ兎ニ角日本ニ対シテハ極力紛議ノ醸成ヲ避クヘク注意ヲ払ヒ居リタルニ拘ラス斯ノ如キ不祥事ヲ惹起セシハ遺憾ナリ乍併出先官憲ノ報告ニ依レハ「バー」通過後一定ノ地点ニ停船シ明ラカニ日本船ナルコトヲ砲台ヲシテ認識セシムヘキ約ニ反シ快速力ニテ通航ヲ企テタルニ付我カ兵ハ直ニ散兵シ射撃ノ姿勢ヲ取り空砲ヲ放チタル処驅逐艦ヨリ機関銃ノ猛射ヲ受ケタルニ付応戦

在ル軍艦海坂ニ搭乘ノ畢總司令ニ日英兩國公使ノ訓令ニ依リ強硬ニ抗議方電報アリタル旨述ヘタル処同司令ハ我方申出ヲ諒トシ同夜即時無線ニテ畢ニ電達セルト同時ニ張督弁ニモ電報スヘキ旨約セリ

外務大臣、天津、青島、濟南へ転電セリ

四六一 三月十二日(着) 在濟南藤田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽河口航行ノ自由ニツキ交渉員ヨリ張督弁

ニ打電ヲ約シタル旨報告ノ件

第三七号

本官発在支公使宛電報

第三七号

貴電第四〇号ニ関シ

十一日夜首席公使ヨリモ同様ノ電請有リタルヲ以テ英米各領事トモ打合セノ上同夜十時半交渉員ヲ往訪シ公使団決議ノ趣旨ヲ伝ヘタル処交渉員ヨリ直ニ之ヲ前線ニ在ル張督弁ニ打電スヘキ旨答ヘタリ

右不取敢

外務大臣、天津、奉天へ転電セリ

四六二 三月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

国民軍ノ大沽水道封鎖ニ関スル外交団會議ノ

議事内容報告ノ件

付属書一 三月十日付首席公使ヨリ外交総長宛公文写

二 首席公使発首席領事宛電訓写

機密第三〇五号 (三月二十三日接受)

大正十五年三月十二日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

国民軍ノ大沽水道封鎖ニ関シ外交団會議開催ノ件

本件ニ関シ本月十日ノ外交団會議ニ於テ首席公使ヨリ支那政府ニ対シ抗議スルト共ニ同公使ヨリ天津、奉天及濟南ノ首席領事宛夫々地方支那軍憲ニ嚴重抗議方電訓スルコトナリタル次第ハ不取敢往電第一二二二号ヲ以テ具報致置タル処同日ノ會議ニ於テハ各国公使共強硬ナル意見ヲ發表シ米国公使ノ如キモ相当強硬ナル主張ヲ為シタリ又英國公使ハ現場ニConvoyヲ派遣スヘキコトヲ主張セリ尚天津ニハ日

下外国軍艦ハ四隻碇泊中ナルニ過キサルヲ以テ本使ハ必要ノ場合ニハ本使ヨリ帝國軍艦ノ派遣方ヲ請求シ差支ナシト答ヘ置タリ

右往電補足旁々首席公使ヨリ外交総長宛公文写(別紙甲号)及同公使ヨリ首席領事宛電訓写(別紙乙号)添付ノ上報告ス

本信写送付先 奉天、天津、濟南

(付属書一)

三月十日付首席公使ヨリ外交総長宛公文写

(別紙甲号)

Peking, March 10, 1926.

Monsieur le Ministre,

On behalf of my Colleagues and myself, the Diplomatic Representatives of the Protocol Powers, I have the honour to bring to Your Excellency's most earnest attention that, according to the statements of the local Chinese authorities at Tientsin, a series of ten electrically controlled mines has been placed in the Taku Channel near Spit Point Buoy where the channel is

only some five hundred feet wide, and that the pilots have been notified that shipping will not be allowed in or out. The port of Tientsin is thus completely closed to the sea. It further appears that the Tsingtao naval expedition and the Kuomingchun forces stationed on the site of the south Taku forts continue an artillery duel which, of itself, prevents the safe navigation of the Taku Channel, while hostilities between the Kuominchun and the Fengtien forces have cut the railway between Tientsin and Chinwangtao.

In the circumstances, communication between Peking and the sea is entirely interrupted, in violation of the provisions of the Protocol of 1901. The Diplomatic Representatives aforementioned protest most urgently against this state of affairs, and demand that the Government of China bring about the immediate cessation, by both of the mutually hostile factions of the armed forces of China, of these acts of obstruction to open communication to the sea through the Taku Channel,

reserving to themselves to collaborate for the protection of foreign shipping and for the maintenance of free access to the port of Tientsin, should the Chinese Government fail to take forthwith action to that end in fulfilment of the purposes of the Protocol of 1901.

I avail myself of this opportunity to extend to Your Excellency the renewed assurance of my highest consideration.

(signed) W. J. Oudendyk

Minister for the Netherlands

and Senior Minister.

His Excellency

Dr. C. T. Wang,

Minister for Foreign Affairs,

etc., etc., etc.,

PEKING.

(付属書1)

首席公使発首席領事宛電訓写

(別紙乙号)

Please communicate to Chinese military authority that the Diplomatic Representatives have urgently protested against the closing of the port of Tientsin to the sea by the military action being carried on at Taku and have demanded the immediate cessation by both of the mutually hostile factions of the Chinese armed forces of these acts of obstruction reserving to themselves to collaborate for the protection of foreign shipping and for the maintenance of free access to the port of Tientsin should the Chinese Government fail to take forthwith action to that end in fulfilment of the purposes of the Protocol of 1901.

You should add that an identical communication is being addressed to the headquarters of both contending parties and that the protective measures indicated above would be applied against either party without discrimination.

四六三 三月十三日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

急海軍省へ御交渉へ上別電へ趣旨実行方我駆逐隊司令ニ訓令セラルル様御取計ヲ請フ

別電ヲ共ニ天津、奉天、濟南へ転電セリ

(別 電)

三月十三日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一三三十一号

五国公使ヨリ在大沽自国海軍官憲宛電報内容

第一三三二号 別電(至急)

On March 10th Senior Minister behalf of Protocol Powers notified Chinese Government of necessity of removing obstacles to freedom of navigation in and out of Tientsin either by placing of mines or by gunfire reserving their right to take action themselves to end for maintenance of Protocol of 1901 in case Chinese Government failed accomplish this forthwith.

Through Consular Bodies at Tientsin, at Mukden and at Tsinanfu similar notifications have since been conveyed to respective headquarters of forces engaging in hostilities at entrance of harbor of Tientsin.

Inasmuch as no effect appears to have been given

五国公使會議ノ結果大沽ノ航行ノ自由ヲ確保スルタメ必要ナル手段ヲトルヨウ在大沽自国海軍官憲ニ電報スルニ決シタル旨報告ノ件

別 電 三月十三日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛

電報一三三二号

五国公使ヨリ在大沽自国海軍官憲宛電報内容

第一三三二号(至急)

三月十二日英國公使ノ請求ニ基キ伊国公使館ニ於テ日英米仏伊五国公使會議ヲ開催シ大沽事件ニ関スル其ノ後ノ情報及意見ヲ交換シタル処(公使館接到ノ電報ニ依レハ白河河口即チ馬廠ノ東天津ヨリ約三十軒ノ地点ニ山東軍上陸シ国民軍トノ間ニ砲火ヲ交フルニ至ルヤモ計ラレサル趣ナリ)米國公使ハ其ノ請訓ニ対シ本國政府ヨリ必要ノ場合ニハ「ネーバルアクション」ニ出テ差支ナキ旨電訓ニ接シ居リ自分ノ立場ハ極メテ明カナルヲ以テ必要ノ場合ニハ即時右電訓ヲ実行シ差支ナキヤノ口吻ヲ洩シタルモ本使及英仏公使等ハ或ハ本國政府ニ請訓ノ必要アルヲ唱へ或ハ多少緩和ノ説ヲ述ヘタル結果五国公使ヨリ夫々在大沽自国海軍官憲ニ別電第一三三二号電報ヲ發スルニ談合ヲ遂ケタリ就テハ至

as yet to demand of Protocol Powers, the Ministers, representing countries having naval forces Tientsin, have agreed that it is desirable that unless free navigation has been restored in time for vessels in and out of Tientsin by morning tide on Saturday, March 13th, naval commanders should notify military authorities in command of fort at Taku and naval officer in command of Tsingtao flotilla to following effect:

In order maintain general treaty right of international commerce and particular right of free access from Capital to sea as provided by Protocol of 1901, Powers concerned demand that:

(1) All hostilities in channel from Taku Bar to Tientsin must be discontinued,

(2) All mines or other obstructions must be removed,

(3) All Navigation signals must be restored and not further molested,

(4) All combatant vessels must remain outside

Taku and refrain from Interference with foreign shipping, and

(5) All searches of foreign vessels except by customs authorities must be discontinued.

If satisfactory assurances on these points have not been received by morning tide of Monday naval authorities of foreign Powers will proceed take such measures as they may find necessary for purpose of removing or of suppressing any obstruction to free and safe navigation of channel between Tientsin and sea.

Five Ministers above-mentioned nevertheless consider it desirable that naval forces should not unless in case of absolute necessity resort to gunfire until further advised.

四六四 三月十三日(着) 在奉天內山總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張作霖ハ我が方ノ警告ニ対シ外国船舶ノ出入
ヲ阻止スル考ヘナシト答ヘタル旨報告ノ件

第(八)号

違反行為抑制ニ関シ左記要旨ノ通在支公使ヨリ請訓アリ之
ニ同意ヲ与ヘラレタルニ就テハ貴官ハ右趣旨ニ依リ地方外
交官憲トモ打合セノ上機宜行動アリタシ
尚右実行ニ関シテハ所在列国海軍ト緊密ナル協調ヲ保持ス
ルヲ要ス

依命

(在支公使請訓要旨)

日英米仏伊五国公使ハ左ノ如ク支那政府ニ通告スルコトニ
合議セルニ就テハ至急海軍省ニ交渉ノ上右ノ趣意実行方我
驅逐隊司令ニ訓令アリ度シ尤モ前記五国公使ハ海軍力更ニ
何分ノ指示ヲ受クル迄ハ絶対ノ必要アル場合ノ外砲火ニ訴
ヘサルヲ可トスル意向ナリ

「最終議定書調印国ノ代表者ハ一般國際通商ノ權利及一九
〇一年ノ議定書ニ依リ規定セラレタル首府ヨリ海浜間ノ
自由通航ノ特殊權利ヲ確保スルタメ左ノ要求ヲナス
一、大沽沖天津間ノ水路ニ於テ敵對行為ヲナスヘカラサ
ルコト

二、悉ユル水雷其ノ他障害物ヲ除去スヘキコト
三、總テノ航路標識ヲ復旧シ且破壊セサルコト

四 大 沽 事 件 四六六

本官發在支公使宛電報第三六号

貴電合第四〇号ニ関シ大沽問題ニ関シテハ再三奉天側ニ注
意スル所アリ又当地首席領事(英國)ハ未タ首席公使ヨリ
貴電合第四一號ノ電訓ニ接シ居ラサルモ本官ハ十一日英國
總領事ハ十二日夜夫レ夫レ張作霖ニ面会シ更ニ警告スル処
アリタルカ張ハ奉天側トシテハ何等外國船舶ノ出入ヲ阻止
スル考ヘ毫無ク唯浦塩方面ヨリ國民軍ニ供給セラルル武
器ノ密輸ヲ監視スルニ外ナラス同方面出動ノ軍艦中ニハ奉
天側所屬ノモノモアルモ悉ク山東督弁節度ノ下ニアル畢司
令ノ指揮スル処ナリト答ヘタリ

外務大臣、天津、濟南ヘ転電セリ

四六五 三月十三日 大角海軍次官ヨリ
永野第一遣外艦隊司令官及ビ
第十五驅逐隊司令宛(電報)

大沽自由通航ニ関スル五国公使ノ北京政府宛
警告ニ関連シ軍事行動抑制方訓令ノ件

官房機密第一八番電報
第十五驅逐隊司令ヘ

今次我驅逐艦砲撃事件ハ事重大ナルニツキ嚴重ナル措置ヲ
必要トスル処之ヨリ先キ白河航行ニ対スル國民軍ノ議定書

四、軍艦ハ總テ大沽錨地外ニ留リ外國船舶ヲ妨害セサル
コト

コト

若シ月曜日(十五日)朝ノ潮時迄ニ右諸項ニ対スル満足ナ
ル保証ヲ得サル場合ニ於テハ外國海軍指揮官ハ天津ヨリ海
ニ至ル水路ノ自由通航ニ対スル障害ヲ排除スル為必要ト認
ムル手段ヲ取ルヘシ」

四六六 三月十三日 永野第一遣外艦隊司令官ヨリ
小林海軍省軍務局長宛(電報)

我が驅逐艦射撃事件解決ニ関スル中央ノ意見

回報方要請ノ件

一遣機密第二九番電
塘沽ニ於ケル我驅逐艦射撃事件ハ目下詳細取調中ナルモ何
レ正式ニ謝罪賠償責任者処罰並帝國艦船及商船ノ自由航行
ニ関スル将来ノ保障等ヲ要請スヘキハ勿論或ハ場合ニ依リ
テハ畢軍ノ大沽差遣ヲ中止セシムルト同時ニ同方面ニ於ケ
ル國民軍ノ防備ヲ撤廃セシムルノ御詮議モ生シ来ルヤトモ
信セラル此際本職ノ所在並処置ヲ決定スル資料トシテ予メ

中央ノ本件解決ニ関スル御意見承知シ度 十三日

四六七 三月十三日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我が駆逐艦ニ対スル発砲事件ニツキ外交部陳

秘書来訪ノ模様報告ノ件

第一三三三号(大至急)

十二日午後七時外交部陳秘書曾次長ノ命ニ依リ本使ヲ来訪
先刻在天津国民軍司令部ヨリノ電話ニ依レハ日本駆逐艦隊
今朝十時石炭ヲ積取ルコトニ話合出来居リシ処十時過ニ大
沽ニ入港シタルニ付見張り人ハ時間異ナル故話合ノ軍艦ト
ハ氣付カス警告ノ為メ一発発砲シタル処軍艦ハ機関銃(電
話不明ナルモ機関銃ト聞キ取レタリ)ヲ発砲セリ詳細ノ情
況判明セサルモ打合ヲ為シタル日本側ニ手落アリシモノト
認メラル無論誤解ヨリ起リシコトト思ハルルカ将来成ルヘ
ク誤解ノ再起セサルコトヲ希望スト申出テタルニ依リ本使
ハ右ハ日本側ニ抗議セラルル意味ナリヤト問ヘルニ然リト
答ヘタルニ依リ曩ニ東方電ヨリ事件ノ梗概ヲ聞知シ居リタ
ル本使ハ之ニ対シ自分ノ有スル報道ハ至極簡單ニシテ折角
詳細取調中ナルカ尚ホ且ツ手落カ全然国民軍側ニアルコト

ハ明白ニシテ当方コソ却テ貴国側ニ抗議スヘキ立場ニアリ
從テ御申出ノ儀ハ主客転倒ト認ム此ノ旨次長ニ復命セラレ
タシト答ヘ置ケリ

天津へ転電セリ

四六八 三月十三日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我が駆逐艦ト砲台間ノ射撃応酬事件ニツキ報

告ノ件

第三九号(至急)

駆逐艦入港ノ電報ハ十一日夜接手シタルニ付十二日早朝当
館ヨリ鹿鍾麟ニ対シ予メ誤解無キ様出先軍憲ヘ訓令方ヲ要
求シ鹿ヨリ塘沽ニ通知シタル答ナリ他方大沽ニ於テハ当館
ヨリノ電話ニ基キ十二日朝藤井書記生杉本少佐ト共ニ陸軍
小蒸汽ニテ砲台ニ至リ国民軍士官ヲ同乗セシメ沖合ニ赴キ
タリ其ノ儘午後ニ至ルモ消息ニ接セサリシニ付再三電話ニ
テ塘沽ニ問合セタル処午後五時頃ニ至リ小蒸汽(此ノ小蒸
汽ニハ杉本少佐藤井書記生及運輸部員乗込ミテ出掛ケタル
モノ)ニテ帰来セル運輸部員ヨリ報告アリ右ニ依レハ杉本
少佐等ノ一行駆逐艦ニ至リタルニ駆逐艦ノ方ニテハ二隻ヲ

遡航セシメントシ同行ノ国民軍士官ハ一隻ナリトテ押問答
ヲ為セシカ漸ク右士官ヲ納得セシメタル上杉本少佐及藤井
書記生ハ駆逐艦ニ残リ又小蒸汽ニハ国民軍士官及運輸部員
乗込ミ三時四十分頃小蒸汽先頭ニ藤、薄ノ二隻進行シ小蒸
汽ハ先ツ砲台下ニ至リ(此ノ間駆逐艦ハ徐行シテ之ニ從ヘ
リ)同乗ノ国民軍士官ハ報告ノ為下降シタルニ此ノ時突然
砲台ヨリ駆逐艦ニ対シ猛烈ナル銃撃ヲ浴セタルヲ以テ駆逐
艦ハ応射シツツ一先沖合ニ引返セル趣ナリ尚十二日出入ス
ヘキ我カ商船ハ全部右出来事以前ニ無事通過セリ
北京へ転電セリ

四六九 三月十三日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

駆逐隊司令ノ電報ニヨル被害ノ模様報告ノ件

第四〇号(至急)

大沽沖碇泊中ノ蒲田驅逐隊司令ヨリ左ノ通電報アリタリ
藤、薄ヲ率ヒ充分諒解アリト信シ軍艦旗及予テ約束シアリ
タル「信号」旗ヲ掲ケ進行中河口突堤ニ配備セシメタル国
民軍ノ猛烈ナル射撃ヲ受ケタルニ付機関銃ヲ以テ応戦中重
傷一名(主計大尉辻忠臣)輕傷一名(二等兵曹服部義明)

微傷一名(中佐蒲田静三)計三名ヲ生シタルヲ以テ入院治
療ノ必要モアリ且此上強行遡航不利ナリト思ヒ大沽沖ニ引
返セリ負傷者ハ何レモ生命ニ別条ナキ見込ナルモ入院ノ為
萩ヲシテ旅順ニ帰港セシム薄モ同様射撃サレタルモ負傷者
ナシ
在支公使へ転電セリ

四七〇 三月十三日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

砲台司令官トノ打合セノ模様報告ノ件

第四二号(至急)

往電駆逐艦入港ニ関シ藤井書記生砲台司令官トノ打合ニ付
藤乘艦中ノ同書記生ヨリ左ノ通り
十二日午前七時陸軍運輸部雇北島ト共ニ砲台ニ赴キ予テ面
識アル連長ヲ通シテ大沽司令張团长ヲ訪ヒタルニ鹿司令ヨ
リハ未タ何等ノ通告ナシトノコトナリシヲ以テ総司令ニ電
話ニテ訓令ヲ仰カシメ結局鹿自身ヨリノ命ニ依リ左ノ通り
打合セタリ即チ

(一)軍旗ノ掲揚

(二)監視兵等ヲ安心セシムル為メ連長ヲシテ「デープホー

四大沽事件 四七一 四七二 四七三

ル」付近迄見学者トシテ軍用小蒸汽ニ便乗セシメ駆逐艦ニ先行スルコト(尚ホ砲台地点ニ於テ停船ヲ約セシコトナシ)

四七一 三月十三日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

駆逐艦藤、薄到着ニ関スル件

第四四号

(三月十四日接受)

駆逐艦藤、薄ノ二隻十三日午後五時半大沽陸軍運輸部棧橋ニ無事到着セリ

四七二 三月十四日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

航行自由ノタメノ障害除去ノ期限ヲ一日延期

スルコトニ同意シタル旨報告ノ件

第一三四号

往電第一三二一号ニ関シ

十三日天津ニ於ケル英國駆逐隊司令官ヨリ往電第一三二一号末段 If satisfactory 以下ニ在ル morning tide of Monday ヲ「アドミラル」ニ請訓ノ必要上一日延ハシ morning of Tuesday ト致シ度キ旨同国公使ニ電稟シ来リタルヲ以

四三二

テ同公使ヨリ關係各国公使ニ協議アリ各国公使共異議ナク本使モ之ニ同意シ置キタリ
天津ニ転電セリ

四七三 三月十四日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニツキ外交部ニ嚴重抗議ノ件

第一三五号

往電第一三三三号ニ関シ

十三日午後外交部ニ同部総長事務代理中ノ曾宗鑒ヲ往訪大沽問題ニ付来訪シタル旨ヲ述ヘ有田總領事来電ノ事実ヲ摘記シ支那政府ニ嚴重抗議スルト共ニ再ヒ斯カル不祥事ヲ発生セシメサル様即時適確且最モ有効ナル措置ヲ採ランコトヲ要求セル覚書並ニ英訳文ヲ認メ置キ前記往電陳秘書来訪ノ際ニ於ケル本使ノ言ヲ繰返シタル後其後ノ情報ニ依レハ果シテ前後ノ事実ハ凡テ国民軍側ノ不法ヲ証明シ居リ事態ノ重大ナルヲ確メタリトテ右覚書記載ノ事実ノ大要ヲ述ヘ同覚書末段所載ノ措置ヲ即時実行セラレ度シトテ右覚書ヲ手交シタルニ曾ハ英訳文ヲ通読シタル後支那国内ニ戦争發生シタルハ誠ニ不幸ノ事ニシテ之カ為友邦諸國ノ商業ニ多

大ノ影響ヲ与ヘ居ルニ對シ支那政府ハ頗ル不安ヲ感シ居レル処唯今貴公使ヨリ本件發生ニ對シ嚴重ナル抗議ニ接シ事情委細了承セリ不取敢茲ニ本件ノ為貴國軍人ニ負傷者ヲ生セシメタル点ニ對シ遺憾ノ意ヲ表ストテ更ニ支那側ノ報告ノ大要ヲ述フ可シトテ昨日五時頃天津鹿司令ノ電話ニ依レハ日本軍艦遡航ノ時刻ハ双方予メ打合せノ上十時ト約束シアリタルニ日本軍艦ハ右時刻ヲ過クルコト久シクシテ航行シ来リタル為警告信号ノ意味ニテ国民軍側ヨリ発砲シタルニ日本軍艦ハ機関銃ヲ以テ之ニ応射セリ

損害未詳トノ趣ナリシヲ以テ不取敢陳秘書ヲ派シ又日本側ノ情報ヲモ聞カシメタル次第ナルカ次テ昨夜再ヒ天津ヨリ電話ニテ事件ノ重大ナルコトヲ報告シ来レリ又本日電話ニテ天津日本總領事ト相談ノ結果誤解ノ点等ニ付共同調査ノ為メ支那側ハ師長門致中、軍需總監高震竜ヲ派遣スルコトトナレリトノ意味ヲ報告シ来レリ大様右ノ通ナルニ付委細ハ共同調査ノ結果ヲ待ツコトト致シ度ク尚本件ニ付テハ自分ヨリ今朝段執政及賈總理ニ報告シ置キタルカ貴公使抗議ノ次第ハ直ニ總理ニ報告シ同時ニ国民軍ニ對シ斯ル事故ノ再発セサル様出先官憲ニ電命方取計フヘシト約シ善後措置

ニ付テハ右共同調査ノ結果天津ニ於ケル双方ノ交渉ニ譲リ若シ解決セサル場合ニハ当方ニ於テ更ニ御相談スヘシト述ヘタルニ付本使ハ共同調査ニ付テハ未タ報告ニ接シ居ラサルヲ以テ追テ報告ヲ待テ研究スヘキモ国民軍將校カ小蒸汽船ニテ軍艦ノ先頭トナレル事実ヲ指摘シ時刻ノ点カ支那側責任回避ノ理由ニナラサル所以ヲ詳説シ且軍艦ニハ国旗ヲ掲ケ居リタルヲ以テ到底単ナル誤解ト認ムルヲ得スト述ヘタルニ曾ハ時刻云々ノ点ハ報告ノ事実ヲ述ヘタル迄ニテ責任回避ノ意ニアラス我方天津ヨリノ報告ハ電話ニテ簡單ナル為詳細不明ナリトテ共同調査ノ結果ヲ待ツコトヲ主張シ最後ニ重ネテ支那政府ヲ代表シ負傷者ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シタリ天津ヘ転電セリ

四七四 三月十四日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

岡本副領事及比高ノ塘沽行ハ共同調査ノタメ

ニ非ザル旨報告ノ件

第四五号

(三月十五日接受)

本官発在支公使宛電報

第三九号

閣下発大臣宛電報第一三五号ノ(一)共同調査云々ニ関シ岡本副領事ノ高ト共ニ下塘セシハ共同調査ノ為ニ非スシテ我驅逐艦入港ニ際シ重ネテ不祥事ヲ惹起セサル様直接監視打合ノ為ナリ右ニ付テハ十二日岡本鹿鍾麟ト会谈中鹿ヨリ塘沽行ハ驅逐艦ヲ入港セシメル為ノミナラス事實調査ヲ含ム次第ナリヤト問ヒ代表派遣ヲ承知セサル口吻ヲ漏シタルヲ以テ岡本ハ事件ノ善後処置ニ関シテハ政府訓令ヲ待ツテ改メテ申入ルルヘク今回ノ行ハ単ニ驅逐艦入港処置ノ為ナレハ右終レハ直ニ帰津スル考ナル旨ヲ明ニ告ケ置ケル趣ナリ外務大臣ヘ転電セリ

四七五 三月十四日

永野第一遣外艦隊司令官ヨリ
大角海軍次官、斎藤軍令部次長宛
(電報)

藤、薄射撃事件ニ関スル第十五驅逐隊司令報
告ノ件

(三月十五日外務省接受)

藤、薄射撃事件ニ関スル第十五驅逐隊司令報告其三
一、午後二時五十八分支那兵射撃開始同五十九分我応射
二、射撃時間十二分彼ノ屈服ヲ見テ中止 発射弾数藤八十
五薄百二十

三、当時恰モ干潮時ニシテ僅ニ二百五十米ノ狭水道ニテハ坐州ノ危険大ナリシヲ以テ反転シテ再攻撃スルノ時機ヲ得サリシナリ
十四日

(欄外記入)

十二日ノ事件ノ詳報ナリ右海軍ニ確メタリ

四七六 三月十四日

幣原外務大臣ヨリ
在上海、漢口、香港、青島、奉天、浦潮各總領事宛(電報)

大沽ノ船舶交通杜絶ニ関シ障害除去方警告ノ
狀況報告ノ件

合第五七号

在大沽国民軍ハ去ル八日以来大沽「シグナルステーション」ヲ占領シ夜間標識ヲ消灯シ且ツ水先案内人ノ港外ニ出掛クルヲ禁シ居ル外南砲台ノ水道ニ水雷ヲ沈設スル等全ク船舶ノ交通ヲ杜絶シタルヲ以テ天津日英總領事ヨリ鹿鍾麟ニ対シ嚴談ニ及ヒタル処鹿ハ自衛上止ムヲ得サル旨ヲ弁明シタルカ交渉ノ末日英及鹿側ヨリ代表ヲ大沽ニ派遣シ船舶出入実行可能方法ヲ協議セシムルコトトナリタルニ不拘九日鹿ハ右代表派遣方拒絶シ来レル等速ニ解決ノ模様ナク仍

(漢口ヘハ) 宜昌、重慶、長沙、九江ヘ転電アリタシ

(香港ヘハ) 広東、汕頭ヘ転電アリタシ

(青島ヘハ) 濟南、芝罘ヘ転電アリタシ

(奉天ヘハ) 在滿領事ヘ転電アリタシ

編註 本電ハ同日第六六号ヲ以テ在中国芳沢公使ニモ転電サ
レタ

四七七 三月十四日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

大沽砲撃事件ニ関シ謝罪、賠償要求等今後取
ルベキ措置ニツキ意見回電方訓令ノ件

第六七号

貴電第一三三三号ニ関シ近来国民軍ノ条約違反及我陸海軍ニ対スル無暴ノ行為続出ニ付テハ既ニ貴官並ニ有田總領事ヨリ其ノ都度抗議セラレタル処ナルカ支那側ハ種々口実ヲ設ケ責任ヲ回避シ解決ノ誠意無キカ如ク帝國政府ニ於テモ其ノ将来ノ影響ニ付キ注意シ居レル折柄前記貴電ノ如ク帝國軍艦ニ対シ射撃ヲ為シタルハ之ヲ議定書ニ照スモ又帝國軍艦旗ノ威信ノ点ヨリ觀ルモ極メテ重大視スヘキ性質ノモノナルノミナラス或ハ今後兵変ノ余波トシテ駐屯軍ニ対シテモ同様ノ關係ヲ惹起スヘキ虞アルニ付政府ニ於テハ此ノ際

本件砲撃事件ニ対シ支那側殊ニ国民軍側ノ責任ヲ訊シ相当ナル謝罪賠償ヲナサシムルト共ニ将来再ヒ斯ル不祥事ノ繰返サルルニ於テハ自ラ適當ト信スル嚴重ナル措置ヲ執ルコトアルヘキ旨警告ヲ与フルノ要アリト思考セラルル処貴電第一三二号ノ如ク議定書調印国ニ於テ海軍共同作動ニ出ツル場合アルヘキニモ鑑ミ本件ノ措置ハ自然各国利害共通ノ問題ナルニ付帝国单独ニ嚴重ナル措置ヲ執ルニ先チ前記調印国公使ノ諒解ヲ取付ケ之カ解決ニ付キ Moral Supportヲ得ルノ要ナキヤ將又帝国单独ニ措置スルニ於テモ其要求条件及支那責任回避ノ場合ノ措置ニ付キ貴見折返シ回電アリ度シ

天津へ転電アリタシ

四七八 三月十五日
永野第一遣外艦隊司令官ヨリ
 大角海軍次官、斎藤軍令部次長宛
 (電報)

中国側ガ警告ヲ拒絕スル場合ノ対処方針ニツキ請訓ノ件

一遣機密第四二番電
 本職利根、平戸ヲ率イ十六日夕刻又ハ十七日朝大沽沖ニ到

渤海艦隊ノ外国商船臨検防止ニ就テモ列国協調主義ニ依ルヲ可トス

二、兵力ノ行使ハ官房機密第一八番電報外交団決議ノ次第モアルニ付更ニ何分ノ令アル迄ハ絶対必要アル場合ノ外之ヲ避クル方針ニテ進マレ度
 三、貴官ノ大沽進出ニ関シテハ同方面ノ情況ニ応シ機宜行動セラレ差支ナシ

四、官房機密十八番電大沽砲台指揮官渤海艦隊指揮官ニ対スル列国海軍指揮官通告実施ノ模様電報アリ度
 依命

(欄外記入)

此ノ点ハ本電ニ次ク電信ニテ修正セラレタル趣ナリ

四八〇 三月十五日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ関スル外交部ヨリノ照会ニ対シ弁駁スベキ点回電方在天津総領事ニ依頼ノ件

別電 三月十六日着在中国芳沢公使幣原外務大臣宛

電報第一四三三号

事件ニ関スル外交部ノ照会

第一四二号

四大沽事件 四八〇

着ノ予定同所ニ於ケル渤海艦隊ノ外国商船臨検ニ対シテハ成ル可ク外国海軍ト共同シ更ニ嚴重ナル警告ヲ与ヘテ出来得ル限り和平的円満解決ニカムルハ勿論ナルモ若彼ニシテ飽ク迄我警告ヲ拒絕スルニ於テハ已ムヲ得ス之レヲ撃滅スル決心ナルトコロ事重大ナルニ付本件ニ関スル予メ御訓令ヲ仰キ度シ最後手段ヲ絶対ニ避ルヲ有利トスルノ御方針ナルカ又ハ外国海軍意向ノ大勢ニ順応スルヲ有利トスル御方針ナラハ此ノ際本職ノ大沽進出ハ却テ帝国海軍ノ威信ニ無理ヲ来スノ恐アリ暫ク旅順ニ待機スルヲ可ナリト信ス

十五日

四七九 三月十五日
大角海軍次官ヨリ
 永野第一遣外艦隊司令官宛(電報)

天津内外交通ノ自由ニ就テハ列国協調主義ニヨルヲ可トシ兵力ノ行使ハ避クルヨウ訓令ノ件

官房機密第二一番電報
 一遣機密第四二番電受領

一、天津内外交通ヲ自由ナラシムヘキ件ニ就テハ従来列国協同北京、奉天、濟南各支那官憲ニ抗議シ来レルニ付

本使發天津宛電報第三七号

外交部ヨリ十四日付覚書ヲ以テ別電第三八号ノ通照会シ来レリ右ニ対シテハ折返シ弁駁ヲ与ヘ置ク必要アリ事件ノ真相ハ累次ノ貴電ニ依リ大体明瞭ナルモ別電中先方ニ於テ最モ事實ヲ曲庇セル事項並ニ其真相可成詳細ニ電報アリタシ尚外交部ヨリ派遣ノ高参事十五日貴地ニ赴クヘク土肥原中佐モ賈國務總理ノ内囑ヲ受ケ同日貴地ニ出張ス
 外務大臣ニ転電セリ

(別電)

三月十六日着在中国芳沢公使幣原外務大臣宛電報第一四三

号

事件ニ関スル外交部ノ照会

第一四三三号(別電)

本使發天津宛電報

第三八号(別電)

三月十三日付日本公使館覚書ハ既ニ孫督弁及鹿總司令ニ対シ措置方移牒シ且本部参事黄宗法ヲ天津ニ派遣シ接洽セシムルコトトセル処效ニ鹿總司令ヨリノ報告ニ依レハ最近張團長ヨリ大沽發ノ電報ニ按シタルカ右ニ拠レハ十二日午後同團長ハ十五号ト称スル日本軍艦一隻及商船一隻ノ入港ヲ

許スヘキ旨司令ノ命ヲ奉シ當時日本側藤井杆二トノ間ニ燈船(航路標識船即チ Light boat カ)付近ニ投錨シテ上官ノ指示ヲ待ツテ入港セシムヘキコトニ協議シ藤井ニ於テ之ニ同意シ居リタル処午後四時ニ至リ日本軍艦ニ隻燈船所ニ到着シ至急駛走進行セントシタルカ當時団長ハ各商船ヲ検査中ニテ之レカ終了ヲ待ツテ各船ヲ引導シテ港内ニ進行スル予定ナリシ処其ノ際更ニ日本軍艦一隻燈船所ニ到着シタルカ該船ハ投錨ヲ為サス且汽笛ヲモ鳴サス依テ當時同海岸突出部ノ独立家屋ニアリタル該団八連ノ哨兵カ後方ニ報告シ警戒セシムル為空ニ向ツテ一發小銃ノ發射ヲ為シタルニ右日本軍艦ハ機關銃ヲ以テ我方ニ向ヒ亂射スルコト約十分間之レカ為排長司務長各一人兵八名ノ負傷及二名ノ死亡者ヲ出スニ至レリ該軍艦ハ我方ニ於テ終始射撃ヲ為ササリシ為軋シテ港外ニ引返ヘセリ右電話ニテ報告シ置キタルカ茲ニ改メテ具報ス云々トアリ右ニ関シ同司令部ニテハ前夜電話報告接到後直ニ員ヲ派シ日本領事館ニ質問セシメタルニ對シ領事ハ極メテ遺憾ノ意ヲ表シタル次第ナルカ計ラスモ本日ニ至リ日本領事館ニテハ該日本軍艦ニ將校水兵ノ負傷者数名アリ軍艦ハ既ニ大連ニ引返ヘシ負傷者ハ同地ニ於テ

臍ヲ噬ムノ悔アラント謂フニ一致シアリ就中十五日ノ「ペー、ティ、タイムス」ハ駐屯陸軍中僅ニ交通維持ニ成功シツツアルハ日本ノミ其他ハ存在ノ意義ヲ失ヘリ又日本軍艦射撃事件ニ於テ列國海軍ハ全ク傍觀シアルハ不思議ナル現象ナリ此ノ如クハ終ニ租界ヲ國民軍ノ荒ス所トナラン此上ハ吾人ハ列國軍隊及軍艦ノ駐屯ヲ以テ却テ有害ナリト謂ハサルヘカラスト説ケリ

二、支那新聞ハ一般ニ日本例ヨリ先ツ射撃シタル様ニ記載シ且ツ記者連ハ兩ク信シツツアリ其誤ヲ全ク解クニハ相當骨折レタリ

例ノ宗則久一派ハ白々敷ク日本軍艦奉軍ヲ援ケ大沽砲台ヲ攻撃スルコト一時間ニ及ヒ國民軍ニ数十名ノ死傷ヲ生セシメタリ等ト排日ノ種ニ供シツツアリ

關東、北京、坂西、奉天濟

四八二 三月十五日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

太沽砲擊事件ニ關スル津田海軍大佐ト鹿鍾麟

ノ會見狀況報告ノ件

第四七号

(三月十六日接受)

四 大 沽 事 件 四八二 四八三

治療セシムルコトトシ既ニ在北京公使館ニ報告シ抗議ヲ提出スルコトトセリトノ報告ニ接シタルカ元來同軍艦ノ入港ノ際ハ予メ上官ヲ派シ指示スルコトニ取極メアリタルニ拘ラス同艦ハ之カ指示ヲ待タスシテ直ニ闖入前進シ遂ニ誤解ヲ惹起シ剩ヘ機關銃ヲ發射シ我方將校及兵卒死傷十余名ヲ出サシメタルハ甚タ不都合ノ次第ナリ然ルニ日本軍艦ノ將校水兵中傷者二名アリトノコトナルカ果シテ負傷者アルニ於テハ何故ニ停留ノ上双方ノ検査ヲ経テ措置ヲ講スルノ準ニ出テサルヤ此点明ニ事實ト合致セス依テ此点日本公使ニ向ツテ抗議ヲ提出セラレタシトノコトナリ茲ニ外交部ハ右ノ次第日本公使館ニ通告ス

外務大臣ニ転電セリ

四八一 三月十五日

高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀總長宛(電報)

日中軍艦射撃事件後ノ外字新聞及ビ中国新聞

ノ論調報告ノ件

天電第一四〇号

(三月十七日外務省接受)

一、塘沽日本軍艦射撃事件以來当地外字新聞ノ論調ハ列國威信失墜ノ結果ナリ今ニシテ強硬ナル態度ヲ採ラサレハ

津田海軍大佐ヨリ左ノ通海軍次官軍令部次長宛

小官本日個人トシテ直接鹿鍾麟ニ面会シ今回ノ驅逐艦射撃事件ハ支那側ノ誤解ニ基クモノナル事ヲ支那側ニ於テ自発的ニ表明シ至急之カ解決ヲ図ルヲ兩國々交上ニ鑑ミ最モ望マシキ旨ヲ力説シ彼ノ態度ヲ見ルト共ニ兎ニ角責任カ支那側ニアルヲ自認セシメント努メタリ然ルニ彼ハ誤解ハ双方ニアリテ事實ハ驅逐艦カ入港ニ關スル取極ヲ守ラサリシヲ監視兵ノ一名カ射撃ニヨリ警告ヲ与ヘタルニ驅逐艦ハ却テ之ニ猛射ヲ加ヘタルモノナリト詭弁ヲ弄シ且本件ハ兩國政府間ニ正式交渉サルヘキモノト信シ既ニ詳細北京政府ニ報告セリト語リ容易ニ其非ヲ自認セス察スルニ彼ハ本問題ヲ北京政府ニ移シ例ノ支那式外交ニテ時日ヲ遷延シ彼自身ハ当面ノ責任者タルヲ避ケントシツツアルモノニシテ甚タ誠意ヲ欠クモノト觀察セラル(十五日津田)

在支公使ヘ転電セリ

四八三 三月十五日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

驅逐艦射撃事件ニ關スル前報告ノ訂正及ビ追

加ニ關スル件

四三九

第四八号

(三月十六日接受)

其後入手ノ報告ニ基キ從來ノ報告中訂正及追加ス可キ点左ノ如シ

(一)往電第三九号中運輸部小蒸汽ニ在リタル国民軍士官カ砲台下ニテ下船シタリトノ点ハ運輸部員ヨリ最初ニ当館員ニ達シタル電話報告ニ拠ルモノナルカ其後ノ調査ニ拠レハ発砲セル時右士官ノ乗レル小蒸汽ハ発砲セル突堤ノ処ト砲台トノ中頃ニ在リシカ其儘進行ヲ続ケ砲台下ニ至リテ上陸セルモノナリ然シ此時ハ既ニ撃合終リタル頃ナリシ模様ナリ

(二)該往電中入港駆逐艦ノ隻数ニ関スル押問答云々ノ点ハ藤井カ十二日午前十一時前後大沽造船所ニ在ル大沽地方ノ国民軍司令タル張团长ト面談セル際藤井ハ駆逐艦隊全部四隻カ入港スルモノト思惟シ居タルヲ以テ斯克告ケタルニ張ハ天津總司令ト電話ニテ直接打合ヲ為シタル後總司令部ヘノ通知ニ依レハ駆逐艦一隻ト商船三隻入港スル筈ニ成リ居レリト答ヘタルニ付藤井ハ隻数ハ見張所ニテ望メハ直ニ判明スル事故今此処ニテ彼是争フノ要無シト応酬シ明確ニ幾隻入港ト告ケス同所ニ於ケル打合セヲ終ヘ小蒸汽ニテ沖合ニ向ヒタルカ「ダイヤモンド・ビーコン」付近ニ至レル時

(此処ニテ通常商船ハ臨検ヲ受ク)二隻ノ駆逐艦ノ進行シ来レルヲ望ミ見タル支那士官ハ四隻ニ非スシテ二隻ノミナルカ如何ト此処ニテ再ヒ前記張团长ト藤井トノ問答ト同様ナル押問答有リタルヲ意味スル次第也

(三)公使発大臣宛電報第一三三三号陳秘書ノ芳沢公使ニ対スル談話中日本駆逐艦隊ノ石炭積込云々ノ事ハ全然誤電也当館ヨリ鹿司令ニ対シスル通知ヲ為セル事無キハ勿論大沽ニ於テモ何等之ニ該当ス可キ事実無カリシト云フ

在支公使ヘ転電セリ

四八四 三月十六日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我ガ駆逐艦ト砲台トノ射撃事件ノ経緯ニ関シ

追報ノ件

第四九号

往電第三九号ニ関シ

藤井書記生今村水先案内及岡本出張中田中海河工程局員北島運輸部雇員及小蒸汽船長等ヨリ聴取シタル所ヲ綜合シ事件ノ真相ト認メラルル所左ノ通電報ス

十二日午前八時頃藤井書記生ハ杉本少佐及北島ト共ニ小蒸

汽ニテ「パイロット・ステーション」ニ赴キ藤井ハ北島及今村水先案内ト共ニ南砲台ニ寶連長ヲ訪問シ駆逐艦入港ノコトヲ尋ネシニ鹿司令ヨリ通知ナシト答ヘシヲ以テ(此ノ時今村ヨリ驅逐艦ハ四隻ナルコトヲ告ケ又識別方法トシテ万国信号「C」旗掲揚ノコトヲ打合セタリ)同連長帶同上流造船厂付近ニアル張团长(在大沽高級司令)ヲ訪問セリ(然ルニ之レヨリ先キ他用ニテ張团长ヲ訪問セル「ハーバ・マスタール」ハ今村ノ依頼ニテ駆逐艦四隻入港ノコトヲ团长ニ告ケテ許可ヲ得只商船ノ入港ヲ先ニシ且ツ商船臨検終了後入港スルコトニ打合セタル由ナリ)今村ハ之レヨリ直ニ沖合ニ出掛ケタリ其ノ後藤井ヨリ為念改メテ团长ニ驅逐艦ノコトヲ話シタルニ事実ヲ承知セストノコトナリシヲ以テ鹿司令ニ問合セ方ヲ要求シタルカ其ノ結果ニ付テハ往電第四八号所載ニ参照アリタシ次テ一行(杉本藤井北島)ハ砲台ヘノ上陸地点ニ立寄り曩ニ南砲台ニ歸リ居タル連長ヲ伴ヒ沖合ニ出掛ケタルカ連長ハ去ルニ臨ミ部下ニ対シ驅逐艦入港ニ際シ射撃セサル旨ヲ命令シ尚ホ部下ヲシテ命令ヲ反復セシメタリト云フ一方驅逐艦ハハ十二時頃今村水先案内來艦入港手續ハ出来居レリト我商船ヲ先ニ入港セ

シメ其ノ臨検終リタル後ニテ出発スルコト及「C」旗ヲ掲クル約束ナルコトヲ告ケ駆逐艦ハ商船ノ臨検終ルヲ見届ケタル上ニテ遡航シ初メタリ連長ヲ乗セタル小蒸汽ハ所謂「ディープホール」ノ中途ニアル「ダイヤモンド・ビーコン」(普通商船ハ臨検ヲ受クルタメ此ノ辺ニ停船ス)ノ辺ニテ驅逐艦ニ出合フ打合ナリシヲ為メ打合セノ通り同所ニテ停船シ此ノ場所ニテ杉本及藤井ハ藤井ニ乗リ込ミ(此ノ時連長ハ其ノ儘停船ヲ求メタル由ナルカ今村ノ察スル所ニ依レハ其ノ間ニ砲台ニ歸リ兵士ニ更ニ訓令スル積リナリシナラント云フ尤モ連長ノ此ノ求ニハ応セサリシ也)小蒸汽ヲシテ百米余ノ距離ニ先導セシメテ前進ヲ続ケシカ其頃前方北砲台付近ニテ北康工業会社船「北康」カ南砲台付近ノ支那兵ヨリ銃撃ヲ受ケツツ有ルヲ見受ケタリ此時北島ハ連長ノ依頼ニ依リ進行ヲ中止スル様大声ニテ告ケ又小蒸汽ノ機関長タル日本(人)ハ「止レ」ノ手旗信号ヲ為シタルモ速(力)ヲ緩メタルノミニテ停船セス斯ノ如クニシテ一哩許前進シ「藤」カ突堤(Spit boatノ有ル付近)ヲ廻リタル時突堤ニ在リシ数人(此場所ニハ常ニ二十人以内位ノ兵士アルノミ)ノ支那兵ハ「藤」ノ後ヨリ突然小銃ヲ乱射シ次テ沿岸

散兵線ニ在ル兵士モ弗々發砲セリ是ヨリ囊小蒸汽ニ在リシ連長ハ驅逐艦カ停船セスト見ルヤ小蒸汽船員ニ対シ上陸地点ニ急カン事ヲ求メ小蒸汽ハ之ニ応シ全速ニテ走り居リシ為支那兵銃撃ヲ開始シタル時ハ四分ノ三哩位前方ニ在リシカ銃撃始マルト見ルヤ連長ハ盛ニ手ヲ振り又ハ「メガホン」ニテ射撃セサル様陸上散兵線ニ在ル支那兵ニ告ケ居リタリト云フ

驅逐艦ハ支那兵ノ銃撃ヲ受ケ主計大尉ノ負傷スルニ至リ初メテ機関銃ノ発射ヲ命シタリ(此点ニ関シ「薄」ノ水先案内タリシ「キャップテン・チョンソン」ハ本官ノ書面ニ対スル返報中ニ

(不明) Nothing eventful occurred until nearing the spit boat, when shots were fired from rifles from the end of the Mole, apparently causing casualties on board the Fuji which was leading. This was followed by shots from the mainland and it was after quite an appreciable time, and when shots were falling around the Suzuki that the Commander of the destroyer gave the order to open fire.

守備軍 military guard ノ援助ヲ必要トスル事アルヘキ旨ヲ首席公使ニ電報スル事ヲモ議決セリ永野司令官ハ十七日午後四時頃大沽沖着ノ事トナリタル為要求ノ容レラレサル場合ニ於ケル各艦配置等ハ同司令官到着ノ上決定セラルル事トナレリ

十五日奉天顧問ノ岡本ニ語ル処ニ扼レハ同人ハ奉天代表胡若ヲシテ列国警告接手前大沽沖ヲ引揚ケルノ得策ナルヲ打電勸告セシメタル趣ナリ

在支公使へ転電セリ

四八六 三月十六日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ノ解決ハ関係国トノ共同動作ニヨリ
措置スベキ旨意見具申ノ件

第一四〇号

貴電第六七号ニ関シ

本事件ハ偶々孫文一週年祭ニ際シ人氣盛ナル折柄勃発セル為メ頗ル民論ヲ刺激シ吾方ニ対スル論鋒急激ニ惡化シツツアルハ往電第一四一号(東方ハ檢閲ヲ受ケ削除セラルル俱有ルニ付特ニ電報ス)及ヒ東方電ニ依リ御推知ノ通ナルカ

在支公使へ転電セリ

四八五 三月十六日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五国司令官會議ノ結果十六日午後四時中国側
ニ警告文ヲ交付スルコトヲ決定セル旨報告ノ
件

第五〇号(至急)

十五日午後五時及十時ノ二回英国軍艦 Fox Glove (英国公使先任)上ニテ日英米仏伊五国司令官會議開催日本ヨリハ蒲田司令岡本副領事(通訳トシテ)列席左ノ通決定セリ警告文ハ港外ニ於テ英艦「カーライル」ヲシテ山東艦隊ニ交付セシメ砲台ニ於ケル国民軍ニ対シテハ仏伊兩國司令ヨリ手交ス

(警告時日ハ十六日午後四時海陸同時ニ行フ事
一、期限ハ十八日正午

尚警告文ハ各国司令ノ署名セル英文ヲ以テシ一応通訳ヲシテ通訳セシムルモ訳文ヲ添付セス

一、国民軍側ニ於テ要求条件ヲ履行セサル場合ノ処置トシテ列国海軍力ヲ以テシテハ不充分ト思惟スルヲ以テ駐屯

本件事態重大ニシテ且ツソノ曲支那側ニ在ルハ勿論ニ付断シテ看過ス可カラサル次第ナルモ御承知ノ通混沌タル政状ナルニ加ヘ事外交ニ関スル物ハ特ニ「ヒステリカル」ト為ル輿論ノ状況ニシテ為メニ最近支那側ノコノ種問題ニ対スル態度ハ常ニ冷静誠意ヲ欠キ動モスレハ殆ト常軌ヲ逸セル主張ヲ固執シテ憚ラサル実状ニ在リ從テ吾方ノ措置振リニ付テハ相当機微ナル考慮ヲ要スルモノ有リ今後ノ發展如何ニ依リテハ只徒ニ統制無キ民論ノ激昂ヲ助長セシムルニ過キスシテ却テ事態ヲ惡化セシムルニ終ル可ク旁本使ニ於テハ冷静且ツ嚴肅ナル態度ヲ以テ支那側ノ蒙ヲ正シ以テ事件ノ公正ナル解決ヲ計ルト共ニ一方大沽自由航行ニ関シ關係国公使ニ於テ意見ノ合致ヲ見共同措置ニ出テ来レル關係ヲ迎リ今後共共同動作ニ依リ措置シ度キ所存ニ付キ右御含ミ置キ有リ度ク尚各地領事宛貴電合第五七号中当地外交團ノ決議ハコノ際之ヲ公表スル事然ルヘキモ發表ハ本件共同措置カ大沽事件ヲ機會ニ他列國ヲ誘ヒテ計畫シタリ等ノ誤レル推測ヲ招カサル為メ寧ロ当地ニ於テ外交團ヲシテ公表セシムル事可然ト思考セラレ右様取計フ可キニ付之亦御含ミ置有リ度シ

在支各領事及香港ニ転電セリ

四八七 三月十六日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民反日侵略直隷大会ノ模様報告ノ件

第一四一号

十四日孫文紀念会最終日ニ当リ大和殿ニ於テ国民反日侵略直隷大会ヲ開キタルカ折柄日曜ニ当レルヲ以テ来会者頗ル多ク会場立錫ノ余地無キ有様ナリシカ先ツ首席ニ推サレタル于樹徳開会ノ趣旨ヲ述ヘ本日ノ此会ハ緊要無比ナリ日本軍艦カ大沽砲台ヲ撃毀シタルハ危急千万ナリ団匪事件ノ際ニ於ケル連合軍ノ大沽砲台撃破後北京侵入トナリ爾来中国ハ貧弱不振国人ハ痛恨スル処ナリ然ルニ今回奉天軍カ北塘ニ於テ国民軍ニ撃破セラレ上陸スル能ハサルヤ日本ハ憶面モ無ク兵艦ヲ率ヒテ大沽砲台ヲ撃破シ速ニ天津ニ入ラントス日本ハ畜ニ自ラ奉軍ヲ援助スルノミナラス之ニ依リテ其侵略政策ヲ実行セントスルモノナリ天津ハ北京ノ門戸ニシテ日本ニシテ之ヲ占領センカ即チ一鼓シテ直ニ北京ニ来ルヲ得ヘシ之何ゾ緊急ニシテ危険ノ甚シキ我等ノ生死存亡將ニ旦夕ニ迫ル当ニ対策ヲ講シ速ニ之ニ抵抗セント欲スト述

カ大沽ニ於テ受ケタル損害ヲ賠償スルコト(ハ)若シ右正当要求ヲ容レサルニ於テハ国民ハ直ニ日本トノ国交断絶ヲ宣シ日本公使ヲ境外ニ驅逐シ之ト宣戦ヲ辞セス

天津ニ転電セリ

四八八 三月十六日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

仏国公使ノ情報ニヨレバ中国側ガ最初空砲ヲ放チタリト言フハ偽ナルコト明ラカナル件

第一四五号

十五日五国公使会議ノ際仏国公使ハ塘沽駐屯ノ同国軍隊ヨリ大沽事件ノ報告ヲ受取リタリトテ其写シ(郵送)ヲ本使ニ手交シタルカ其一節ニ「日本驅逐艦ノ一隻カ仏国砲台前ニ至ルヤ射撃(Coups de fusil)ヲ受ケ右驅逐艦ハ直ニ機関銃ヲ以テ応射シ該射撃ヲ中止セシメタリ」トアリ右ニ依レハ鹿鍾麟ノ所謂最初空砲ヲ放チタリト云フハ偽リナルコトヲ知ルニ足ル御参考迄

天津、奉天、濟南ニ転電セリ

四八九 三月十六日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

四大沽事件 四八八 四八九

フルヤ群衆激怒シテ援奉日人ヲ打倒セヨト絶叫シ韓麟符ナル者同様ノ激越ナル煽動的演説ヲ試ミ聴衆婦女子供ヲ問ハス皆拳ヲ振ツテ痛恨シタルカ最後ニ安体誠ヨリ左記ノ抗議案七箇条ヲ提出シ満場一致通過シ

更ニ(一)国民抗議書ヲ提出スルコト(二)全国国民ニ通電シテ一致シテ日本帝國主義強暴行為ニ反対シ日貨抵制ヲ勵行スルコト(三)国民軍ニ通電シテ武力ヲ以テ日本帝國主義ニ抵抗セシムルコト(四)広東國民政府ト国民軍ニ通電シテ一致シテ日本帝國主義ニ抵抗セシムルコト(五)外交当局ヲシテ国民抗議書ニ照シ敵ニ之ヲ執行セシムル事ノ実行案五ヶ条ヲ決議シ排日の標語ヲ(不明)シテ三時頃散会セリ

記

(一)天津大沽一帯ノ日本軍艦ハ即刻撤退スルコト(二)日本軍艦ハ中国ノ允許ヲ得サルハ中国領水内ニ碇泊及航行スルコトヲ得ス(三)在支日本軍警ヲ直ニ撤退セシメ永遠ニ駐屯スルヲ許サス(四)日本ハ中国々民政府国民人民ニ謝罪シ並ニ駐支公使ヲ更迭スルコト(五)大沽砲撃ノ海軍士官及兵卒ヲ嚴罰ニ処シ尚爾後絶対ニ奉天ノ賊魁張作霖ヲ援助シテ中国ヲ擾乱シ之ニ軍器ヲ供給シ又ハ奉軍ノ戦線ニ参加スルヲ許サス(六)中国

大沽事件ニ関スル日本単独ノ要求ニモ各国ノモラルサポートヲ得ラルル見込ナル旨報告ノ件

第一四八号(極秘)

貴電第六七号ニ関シ

御来示ノ次第至極尤ト思考シタルヲ以テ十五日五国公使會議ノ際本使ヨリ試ミニ今回ノ大沽事件ニ関スル最終議定書ノ規定ヲ尊重スル事独リ外国側ノ為メノミナラス支那国民ノ為ニモ結局利益ト認メラルルニ付飽ク迄モ右規定ヲ支持スル様本國政府ニ稟議スル事トシタキ所存ナル旨述ヘタル上各国公使ノ態度ヲ探究スルニ努メタル処英國公使ハ本使ノ所存ヲ聞キ誠ニ本懷ニ堪ヘス実ハ昨年上海事件以来支那ニ於ケル事態ニ付テハ實際困難ヲ感シツツアル次第ニテ此際京津間ノ交通ヲ確保スル事最喫緊事ニ属スト述ヘ仏国公使モ本國政府ヨリ接受シ居ル訓令ニ依レハ強硬ナル態度ヲ持スルモノト認ムル旨ヲ語り次テ米国公使モ同國政府ニ於テモ現下ノ時局ニ鑑ミ支那現時ノ風潮傾向ヲ抑制スルノ時機正ニ到来セリトノ意見ナル旨ヲ披露シタルカ伊国公使ノ所存モ同様ノ述フル処ト異ナラス

要スルニ貴電末段御来示ノ二点ノ中ノ第一点ニ付テハ少ク
トモ英、米、仏、伊四国公使ハ充分「モーラル・サポー
ト」ヲ与フルモノト信セラル又日本ニ於テ单独措置ヲ執ル
ニ際シ四国公使ノ了解ヲ取付ケ其「モーラル・サポート」
ヲ得ルノ得策且必要ナルハ申迄モ無之帝國政府ニ於テモ元
ヨリ御同感ノ儀ト思考ス尚御来示ノ第二点要求条件及支那
責任回避ノ場合ノ措置振り等ニ就テハ篤ト考慮ノ上更ニ卑
見電稟ニ及フヘシ不取敢

天津へ転電セリ

四九〇 三月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ガ列国海軍司令官ノ通告ヲ尊重セザル
場合ニモ陸軍ノ助力ヲ求メザルコト並ビニ軍
艦ヨリ部隊ヲ上陸セシムルコトヲ避クルコト
ニ公使会議ノ意見一致シタル件

別電 三月十六日着在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛
電報第一五二号
五国公使ヨリ自国海軍司令官宛電報

第一五一号

Forts at Taku fails to comply with the terms in the
notification it is possible that the use of the foreign
garrison at Tientsin will be necessary to ensure com-
pliance.

The Ministers in reply wish to state that they did
not contemplate either the use of the foreign garrison
at Tientsin or the employment of naval landing force
to ensure compliance with the five demands embodied
in their notification.

The Five Ministers, who are hopeful that the ex-
clusion of the Tsingtao flotilla from entering the channel
will make easy the compliance of the Kuominchun with
the demands made upon them consider it highly un-
desirable to make use of land forces and would not be
prepared to seek from their governments except as a
last resort the necessary authorisation to that end.

天津へ転電セリ

四九一 三月十六日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

四大沽事件 四九一

本使発天津宛電報第四三号

十六日五国公使会議開催在天津首席領事ヨリ英国公使ニ宛
テタル三通ノ来電ノ内国民軍カ関係国海軍司令官ノ通告ヲ
尊重セサル場合ニハ天津ニ駐屯スル陸軍ノ助力ヲ得サル可
ラサルヤモ保シ難シトノ一節ニ対シ関係国公使協議ノ末右
陸軍ノ助力ヲ求ムル事若ハ軍艦ヨリ部隊ヲ上陸セシムル事
ハ寧ろ差控フル方然ル可シトノ事ニ談合纏リ右ノ結果別電
第四四号同文電報ヲ各自国海軍司令官ニ発スル事トナレリ
就テハ右転達方然ル可ク取計ハレ度シ

外務大臣ニ転電セリ

(別電)

三月十六日着在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第一五二
号
五国公使ヨリ自国海軍司令官宛電報

第一五二号 別電

天津宛四四号

The Five Ministers have duly considered the mes-
sage from their five naval Commandants conveying
their opinion that if the Commander in the Kuominchun

大沽事件発生時ノ詳細事情ニ関シ報告ノ件

第五一号

本官発在支公使宛電報

第四五号

貴電第三八号ニ関シテハ大体往電第四九号ニテ判明ノ事ト
信スルモ尚為念左ニ電報ス

(一)藤井書記生ハ何レノ場所ニ於テモ投錨シテ上官ノ指揮ヲ
待ツ事ヲ約束シタル事ナシ

(二)駆逐力汽笛ヲ鳴ラササリシハ事実ナルモ右ハ何等ノ約束
モ義務モナカリシヲ以テナリ勿論砲台ト水先案内人組合
トノ間ニ右ニ関スル協定アルハ事実ナリ(大臣宛往電末
段参照)

(三)司令部カ当日員ヲ派シテ当館ニ質問セシメタル云々ノ事
ハ当日午後六時頃当館ヨリ人ヲ鹿司令ノ許ニ派シテ事実
ヲ告ケシメントシ居ル折柄先方ヨリ人ヲ派シ来リ日本側
ヨリ発砲シタリ云々ノ事ヲ告ケタルヲ以テ面会セル岡本
ヨリ当方接手ノ報告ヲ告ケ先方ノ遣方ヲ詰リタルノミニ
テ遺憾ノ意ヲ表シタルカ如キ事ナキハ勿論ナリ

外務大臣へ転電セリ

四九二 三月十六日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟ノ讓歩的態度ニ鑑ミ鹿トノ交渉ニヨル
事件ノ解決ガ有効トノ津田大佐ノ意向報告ノ
件

第五二号(至急)

津田海軍大佐ヨリ左ノ通海軍次官及軍令部次長へ
本日更ニ鹿鍾麟ヨリ小官ニ面会ヲ求メ来レルヲ以テ今回ノ
事件ニ関シ賈総理ノ内囑ヲ受ケテ新タニ来津シタル土肥原
陸軍中佐ト共ニ同行会见セリ彼ノ主張スル要領ハ昨日会见
ノ時ト今尚大差無ケレトモ唯自ラ責任者トシテ事件ヲ地方
的ニ円満解決セントスル意向ヲ示シ且幾分讓歩的態度ニ出
テ来レルハ注意スヘキ点ニシテ恐ラク北京政府ノ意ヲ受ケ
タルモノト觀察セラル就テハ無力ナル現北京政府ヲ相手ト
スルヨリハ寧ロ鹿ヲ当事者トシテ問題ヲ地方的ニ解決スル
ヲ實際的ニシテ且有効ナラント思考セラル
在支公使へ転電セリ

四九三 三月十七日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

然ルニ最近支那側ノ申分ニハ或ハ発砲ノ責任ヲ吾ニ帰シ或
ハ我方ニ於テ溯航ニ関スル打合せニ違約シタリト曲弁シ居
レル処帝國出先海軍及領事官ニ於テ軍艦溯江ニ関シ鹿鍾麟
ト打合せヲ為シタルハ之ニ由リテ支那側ニ軍艦ノ隻数及航
行ノ時間ヲ制限シ得ヘキ權利ヲ認メタル次第ニ非スシテ一
ニ日支國交ノ親善ニ鑑ミ出先帝國官憲ニ於テ特ニ周到ナル
注意ヲ払ヒ今回ノ如キ不祥事ノ勃発セサシムル為砲台側
ノ誤解ヲ除カムトセル機宜ノ措置ニ外ナラサリシナリ溯航
スル帝國軍艦ノ隻数其ノ溯江ノ時期打合ノ有無ノ如キハ何
等国旗ヲ掲クル射撃力不当ナル違法行為タルコトヲ打消ス
理由タラス況ンヤ前述ノ如ク軍艦ニ対スル國際礼讓ノ上ヨ
リ看レハ全然問題トナラサル次第ナルカ右射撃ハ白昼ニ於
テ公然行ハレタル所ニシテ帝國海軍ノ報告ニ徴シ其ノ責任
支那側ニアルハ一点ノ疑ナキノミナラス十五日五國公使會
議ニ於ケル仏國公使ノ証言(北京來電第一四五号)及當時
薄ノ水先案内タリシ「キャプテン・ジョンソン」ノ有田總
領事ニ送リタル書面(天津ヨリ北京來電第四九号)ニ徴シ更ニ所信
ヲ確メ得タル次第ナリ

本件ハ帝國軍艦ニ対スル侮辱事件トシテ性質上極メテ重大

大沽事件解決ノタメ北京政府ニ申入ルベキ要
求案項訓令ノ件

第七一号(至急)

貴電第一三五号ニ関シ本件ハ御承知ノ通り当方ニ於テ極メ
テ重大ナル問題ト認メ居リ慎重考慮ノ末五國海軍ニ於テ共
同行動ヲ採レル機会ニ於テ速カニ本件ヲ解決致度考ナルニ
ヨリ貴官ハ帝國政府ノ訓令トシテ左ノ趣旨可然北京政府へ
申入レラレ度シ
今回ノ大沽事件ハ支那軍憲ノ最終議定書ニ対スル重大ナル
違反行為ナルコト素ヨリナルカ之ト共ニ帝國海軍ニ対スル
看過スヘカラサル不法行為ナルヲ以テ帝國政府ハ本問題ノ
解決ニ対シ嚴肅ナル考慮ヲ払ヒ一応抗議ヲ提出シ支那側ノ
本件ニ対スル誠意ノ披瀝ヲ期待シタリ
元来支那ハ條約上法理上外國商船ノ白河航行ニ干涉スルノ
何等ノ權利ヲ有セス況ンヤ軍艦ニ対シテハ國際礼讓ノ点ヨ
リ言フモ之ニ対シ相當ノ敬意ヲ払フヘキヲ通義トスル次第
ニシテ之ニ対スル射撃ノ如キハ理由ノ何タルヲ問ハス又過
失ニ出ツル場合ニ於テモ其ノ責任極メテ重大ナルコトハ支
那政府ニ於テモ充分承知セルコトト思考ス

ナルトコロ支那側ニ於テ淡白ニ其ノ責任ヲ明ニシ誠意ヲ以
テ解決セラルルニ於テハ帝國政府モ亦率直迅速ニ善後措置
ヲ講シ日支間ノ親交ニ妨ケナカラムルニ努力スルノ意ナ
ル処却テ曲弁ニヨリテ斯ル明白ナル責任ヲ回避シ甚シキハ
之ヲ宣伝ノ具ニ供シ事件ヲ暗暗裡ニ葬リ去ラムトスルカ如
キ微候ヲ認ムルモノアルハ支那側ニ於テ本件ヲ合理的ニ解
決スルノ誠意ナキヲ疑ハシムルモノアリ帝國政府ニ於テ頗
ル遺憾トスル所ナリ翻テ本件ノ解決此ノ上遷延スルニ於テ
ハ事帝國海軍ノ威信ニ関スルノミナラス国内ノ輿論激昂セ
ルニ鑑ミ政府ハ終ニ其ノ適當ト信スル自由行動ニ出テ以テ
本件ノ満足ナル解決ヲ俟ツノ已ムヲ得サルニ至ラムコトヲ
憂フル次第ナリ目下ノ支那ノ國際的關係極メテ重大ナル際
殊ニ兵乱ノ為既ニ列國民ノ蒙ムル悪影響ニ対シテ非難多キ
今日支那政府ニ於テモ大局高所ヨリ觀察シ斯種事件ヲ率直
且迅速ニ解決セラルルコト日支國交上此際特ニ緊要ナリト
信ス

帝國政府ニ於テ要求スル条件左ノ如シ

- 一、砲台責任者ヲ嚴罰ノコト
- 二、負傷者ニ対スル賠償 金參万円(重傷大尉二万円輕傷

五千円微傷中佐五千円)軍艦ノ損害ニ対スル賠償(本件損害ハ調査ノ上ニアラサレハ決定致シ難キモ支那側ニ於テ前号ノ賠償ヲ完全ニ承諾スル場合ニハ本号ハ必ラスシモ主張セス)

三、軍ノ責任者タル鹿鍾麟自ラ天津帝國総領事館若クハ北京公使館ヲ来訪謝罪ノコト又ハ射撃部隊指揮官ニ於テ同隊ヲ引率シ我國旗ニ対シ捧銃ノ礼ヲ以テ謝罪ノ意ヲ表スルコト

四、本件ニ関シ支那政府ヲシテ遺憾ノ意ヲ表セシムルト共ニ将来此種不祥事件ヲ再発セシメサル様保障ヲ為サシムルコト

尚本件ハ前記ノ如ク速ニ解決致シ度キニ依リ右要求中賠償金額ニ就テハ交渉ノ結果及傷者ノ結果ニヨリ尚考慮ノ余地アルヘシ又支払方法ニ就テハ此ノ際賠償ノ承認ヲ取付クルニ於テハ財政上困難ナル事情アラハ支那政府ノ債務トシテ支払其他ノ方法ヲ考慮スルモ差支ナシ

天津へ転電アリ度シ

四九四 三月十七日(着)

在芝罘別府領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

共同警告文

第一五五号

往電第一四七号ニ関シ

十六日公使會議ニ於テ伊国公使ヨリ和蘭公使ニ面会ノ上本件共同警告文ヲ議定書國首席公使タル同公使ヨリ外交総長ニ通告シ同時ニ之ヲ發表スル事ニ打合せタリ

但シ右通告文ヲ首席公使ニ渡ス場合ニハ往電第一三三二号第三「パラグラフ」it is desirable that ノ次ノ unless 以下 March 16th迄ヲ削除シ the naval commanders should notify トノ間ニ at 4 p.m. on Tuesday March 16th 挿入シ最後ノ「パラグラフ」The five ministers 以下ヲ削除スル事トナレリ尚右發表ハ十六日午後之ヲ了シタリ往電第一三三二号末段十日付外交総長宛「ノート」ハ發表スニ

天津ニ転電セリ

(欄外記入)

議定書ヲ引用セル抗議書(「テキスト」ハ電報ナシ)

(付記)

三月十六日首席公使ヨリ外交総長ニ通告セル共同警告文

On March 10th Senior Minister behalf of Protocol

税関以外ニ船舶臨検ノ権利ナキ旨畢総司令ニ
申入レタル件

第一〇号

本官発在支公使宛電報

第一号

往電第九号日英兩國領事ノ抗議ニ関シ畢総司令ハ当地戒嚴司令ヲ通シ水雷敷設ノ責任ナク軍事行動ヲ妨ケサル外國商船ニハ発砲セス又其通航ヲ妨害セサルモ間諜及兵器搭載ノ有無取調ノ為臨検ノ權利有ル旨回答アリタルニ付(十五日付機密第二四号参照)十六日午後英國領事ト共ニ畢ニ対シ税関以外ニ船舶臨検ノ權利ヲ認め難キ旨当地軍憲ヲ介シ回答セリ

英國領事ハ自国公使ニ右ト同文趣旨ヲ發電ノ答

外務大臣、天津、濟南、青島へ転電セリ

四九五 三月十七日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

警告文ヲ外交総長ニ通告シ之ヲ發表スルコト

トシタル件

付記 三月十六日首席公使ヨリ外交総長ニ通告セル

Powers notified Chinese Government of necessity of removing obstacles to freedom of navigation in and out of Tientsin either by placing of mines or by gunfire reserving their right to take action themselves to end for maintenance of Protocol of 1901 in case Chinese Government failed accomplish this forthwith.

Through Consular Bodies at Tientsin, at Mukden and at Tsinanfu similar notifications have since been conveyed to respective headquarters of forces engaging in hostilities at entrance of harbor of Tientsin.

Inasmuch as no effect appears to have been given as yet to demand of Protocol Powers, the Ministers, representing countries having naval forces Tientsin, have agreed that it is desirable that naval commanders should notify at 4 p.m. on Tuesday, March 16th, military authorities in command of fort at Taku and naval officer in command of Tsingtao flotilla to following effect:

In order maintain general treaty right of interna-

tional commerce and particular right of free access from capital to sea as provided by Protocol of 1901, Powers concerned demand that:

- (1) All hostilities in channel from Taku Bar to Tientsin must be discontinued,
 - (2) All mines or other obstructions must be removed,
 - (3) All navigation signals must be restored and not further molested,
 - (4) All combatant vessels must remain outside Taku and refrain from interference with foreign shipping, and
 - (5) All searches of foreign vessels except by customs authorities must be discontinued.
- If satisfactory assurances on these points have not been received by morning tide of Tuesday naval authorities of foreign Powers will proceed take such measures as they may find necessary for purpose of removing or of suppressing any obstruction to free and

safe navigation of channel between Tientsin and sea.

四九六 三月十七日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿司令ニ事件ノ真相ヲ認識セシメ解決ノ基礎
ヲ作ルヨウ尽力方在天津総領事ニ依頼ノ件

第一五七号

本官発天津宛電報第四七号

大沽事件善後措置ニ関シテハ貴官ノ鹿司令ニ対スル交渉ト相俟ソテ当地ニ於テ中央政府ニ対シ嚴重交渉ヲ遂クルコト勿論ナルカ御承知ノ通現政府ハ殆ト実力無ク殊ニ交渉直接ノ相手方タル外交部ハ目下総長空位ナルヲ以テ實際上責任アル交渉ヲ進ムルニ便ナラス先方ニ於テハ只鹿司令ノ報告ヲ其儘転達シテ当面ヲ糊塗スルニ過キサル有様ナリ然ルニ往電第三八号支那側覚書ニ依リ御承知ノ通鹿司令ノ報告ハ猥リニ責任ヲ回避シ事実ノ真相ヲ糊塗スルニ過キスト云ハサルヲ得ス旁此ノ際当面ノ喫緊事ハ鹿司令ヲシテ速ニ事件ノ真相ヲ篤ト認識セシメ解決ノ基礎ヲ作ルニアリト思料セラル其辺固ヨリ折角御尽力中ニテ且鹿司令ノ態度迭次貴電御来示ノ通ナル以上頗ル困難ナル可キモ此点御尽力アリタ

ク尚当地漢字新聞紙ニハ連日誇大誣罔ノ報道ヲ喧伝セラレ且我方ニ対スル非難ハ大体左ノ諸点ニアリト認メラルルニ付仮令軍艦運航ノ打合セ上齟齬アリトスルモ固ヨリ之カ為支那側責任ノ軽減無カルヘキモ右諸点ニ関スル真相詳細単ニ当方参考迄至急回電有度

- (一) 溯航時刻カ予テノ打合セト異ナレルニ至レル事由
- (二) 砲台付近通過ノ際停船ノ約有リタリトモ云ヒ又予テノ打合ニ反シ快速力ニテ航行セリトモ称シ居ル処右事実ノ真相

- (四) 当初支那側発砲ハ空砲ニ非サルコトヲ確認シ得タルヤ
 - (五) 射撃ヲ受ケタル日本駆逐艦ハ先頭ニ航行セルモノナリヤ
 - (六) 奉天軍隊又ハ奉天軍所屬艦隊ノ日本国旗ヲ乱用セル実例
- 外務大臣ヘ転電セリ

四九七 三月十七日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

警告文ヲ中国側ニ交付シタル旨ノ英国総領事

ノ談話報告ノ件

第五四号(至急)

往電第五〇号ノ通告文ハ沖合ニ於テハ午後四時十五分砲台

ニ於テハソノ後夫々交付済ナル旨英艦「フラクスグローブ」ニ入電有リソノ後ノ經過ニ付館員ヲシテ英総領事ニ尋ネシメタル処同総領事ハ左ノ通語レル趣ナリ
午後七時頃通告文交付済ノ報ヲ得ルヤ直ニ交渉署員ヲ招致シテ同写ヲ与ヘ非公式ニ鹿及ヒ孫ニ手交方ヲ求メ且領事団トシテハ支那側ニ於テ全然無条件ニ要求条項ヲ受ケ容ルル事ヲ希望スル旨ヲ付言シ置キタル処其ノ後同交渉署員帰来英国総領事ニ対シ鹿鍾麟ハ同通告文カ同人ニ対シ非公式ニ交付セラレタルハ今後本件処理上頗ル好都合ナリトテ感謝ノ意ヲ表シ本件主要条項ハ第五項「インスペクション」ニ在リト思料スト述ヘ尚砲台司令官ニ対シテハ電話ヲ以テ同通告文受領事実ハ秘密ニ為シ置ク可キ旨命シタリト語レル趣ナリ
在支公使ニ転電セリ

四九八 三月十七日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五国公使ヨリ各自国海軍官憲ニ電報シ警告文

ヲ山東艦隊及ビ国民軍二手交シタル旨通報ノ件

四 大 沽 事 件 四九九

第一五九号

本使發在支各領事及浦潮宛電報

合第五一号

大臣來電合第五七号末段帝國政府ノ承認有リタルヲ以テ五
國公使ノ決定通五國公使ヨリ夫々在大沽自國海軍官憲ニ電
報シ十五日夜在天津英國軍艦上ニ於テ日、英、米、仏、伊
五國海軍司令官會議ヲ開催シ前記五國公使決定ニ基キ十六
日午後四時英國及ヒ仏、伊兩國司令ヨリ警告文ヲ夫々山東
艦隊及ヒ國民軍ニ同時ニ手交シ期限ヲ十八日正午ト限レリ
尚右司令官會議ニ於テ公使団ニ對シ万一ノ場合駐屯守備軍
military guardノ援助ヲ必要トスル事有ル可キ旨ヲ英國公
使ヲ經テ電稟スル処有リシカ十六日五國公使協議ノ結果右
陸軍ノ助力ヲ求ムル事若ハ軍艦ヨリ部隊ヲ上陸セシムル事
ハ差當リ差控フル方可然シトノ事ニ談合纏リソノ旨海軍司
令官ニ伝達セリ又前記五國公使會議ニテハ右警告文ハ之ヲ
支那政府ニ通告スル事トナレリ

外務大臣ニ転電セリ

四九九 三月十七日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鍾麟ノ外交代表李光漢等ハ十六日ニ当館員等ヲ招待シ
(之ハ大沽事件ニ関スル意志疎通ノ意味ナリシカ如シ)
在津中ノ津田大佐土肥原中佐モ同席シタルカ其際岡本ヨ
リモ同人ニ詳細事實ヲ説明シ置ケリ尚津田大佐カ二回鹿
鍾麟ニ面会シタルコトハ往電第四七号及第五二号ノ通り
ナリ
三、右様ノ次第二付誤解ニ基ク事件トシテ可成速ニ之カ解
決ヲ計ルコト得策ナルヤニ思考セラル
北京ニ転電セリ

五〇〇 三月十七日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

兵力使用ノ危険ヲ避クルタメ警告文ノ實際ノ
処理方法ニツキ五國公使ニ電報セル件

第五六号(大至急)

(三月十八日接受)

三月十七日午後二時關係領事會議ヲ開キ大要左ノ通議定書
關係公使ニ電報セリ

英米日白仏伊ノ六國領事ハ山東軍艦及砲台ニ於テ若シ十八
日正午迄ニ警告書所載第一、第二、第三及第四項ニ付満足
ナル保証ヲ与ヘ且ツ第五項ノ主義ヲ承諾スト云フ保証ヲ与

四 大 沽 事 件 五〇〇 五〇一

四五四

驅逐艦射擊事件ハ誤解ニ基ツクモノト見ラレ
ナルベク速ヤカニ解決ヲ計ルコト得策ト思ハ
レル旨申進ノ件

第五五号

一、驅逐艦砲擊事件ノ真相ハ略往電第四九号等ニテ御承知
ノ通ニテ或ハ砲台指揮者ノ命令カ突堤ニ在ル兵士ニ迄行
渡ラサリシ結果ニアラスヤト想像セラレ(砲台ト突堤ト
ノ距離ハ約二千「メートル」アリ)右ハ砲台指揮者タル
同行セル連長ノ狼狽ヘ方ニ依ルモ窺ヒ知り得ル処ニシテ
少クトモ幹部ニ惡意アリタルモノトハ想像セラレス
何レニスルモ要スルニ手続上ノ間違ヨリ生シタル事件ト
視ル(条約ヲ無視シ通行ヲ面倒ナラシメタル結果ナリト
云フ議論ハ別トシ)可キカ如シ

二、十五日來津セル外交部黃參事ハ二回本官ヲ訪問シタル
カ事實調査ト称シ居リ又外交部トシテハ可成速ニ地方的
ニ解決シタキ意向ナリナト語リ居リタルニ付交渉ニ付テ
ハ何等ノ訓令モ受ケ居ラサルコトヲ語リ当方調査ノ事實
ヲ説明シオケリ

將又岡本ト同行シテ塘沽ニ赴キタル高震龍(鎮守使)鹿

フルニ於テハ警告書ノ条件ニ応諾シタルモノト認ムヘキ旨
双方ニ通告スル事ヲ五國公使ニ提起ス各領事ハ右ノ如キ処
置ヲ取ル事ハ双方ヲシテ覺書ノ条項ヲ応諾スル事ヲ容易ナ
ラシメ兵力ノ使用ヲ余儀ナクサルルノ危険ヲ少ナクストノ
意見ナリ蓋シ國民軍ハ敵兵若クハ間諜ノ進入セサル事ヲ希
望シ山東軍艦側ハ國民軍ニ軍需品ノ供給サルル事ヲ防カン
事ヲ希望シ居レハナリ税関ハ以上ノ目的ヲ達スル組織若ク
ハ権能ナシ第五項ノ主義云々ニ関シテハ各領事ハ次ノ如キ
方法ヲ提議セントス即チ議定書關係國ノ海軍代表ヲシテ(一)
税関(二)山東軍艦(三)國民軍ノ代表者ト共ニ「アウターアンカ
ーレージ」即チ大沽「バー」ノ外ニ於テ大沽水道ニ入ラン
トスル船舶ヲ検査セシメントスルノ案ナリ尚第四項ノ「フ
ォーレンシッピング」第五項ノ「フョーレンベッセルス」ト
ハ治外法權ヲ享有スル國ノ船舶ノミヲ意味スルモノト解釈
スヘシトノ意見ナリ
在支公使ヘ転電セリ

五〇一 三月十七日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ハ命令ノ不徹底ニヨル誤解ニ基ツク

四五五

四大沽事件 五〇二 五〇三

モノニシテ故意ニ非ザル旨ノ高震龍ノ説明ニ

関スル件

第五七号 (至急)

往電第五五号末段ニ関シ

十七日午後二時高震龍答札ヲ口実ニ岡本宅ヲ来訪シ前夜岡本ノ説明セシ事件ノ經過ハ之ヲ真相ト認メサルヲ得ス防波堤突端ノ監視兵ニ対シ砲台司令部遠ク且満潮時ニハ土堤ノ一部破壊シ突端ト陸上トノ交通絶タレ居ル為命令徹底シ居ラス無智ナル兵卒ノ事ナレハ商船同様当然停船スヘキヲ予期シタルニ其事ナカリシ為射撃シタルモノト思料ス要スルニ命令ノ不徹底ニ依ル誤解ニ基ク次第ニシテ決シテ故意ニ非サルニ付日本側ニ於テ之ヲ認メラレナハ当方説明ヲ基礎トシテ速ニ円満ナル解決ヲ図ラレタシト述ヘ居合セタル白井ヨリ貴官ニ於テ事態ヲ諒解セラレタルハ幸ナルモ鹿司令ニ於テハ如何ナルモノニヤト問ヘル処高ハ鹿司令亦自分ノ意見ニ聴従スヘシト答ヘタル趣ナリ

在支公使ヘ転電セリ

五〇二 三月十七日(着)

在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

ノ論調報告ノ件

第六八号

当地労働諸新聞ハ大沽ニ於ケル我カ駆逐艦砲撃事件ニ関シ日支關係ノ疎隔ヲ策スルカ如キ煽動の記事ヲ掲ケタルカ其ノ内「エホ」ハ論説ニ於テ国民軍ノ射撃ハ日本駆逐艦力港則ニ違反シテ進入シ来リタル結果ナリトナシ天津領事団及芳沢公使ノ抗議ヲ非難セリ

北京、天津ヘ転電シ奉天ヘ暗送セリ

五〇四 三月十八日

幣原外務大臣ヨリ
在中国芳沢公使宛(電報)

海軍力ノ使用以外更ニ陸軍ヲ使用スルコトハ

避ケタキ意向ナル旨通報ノ件

第七二号 (至急)

天津宛電第四三三号ノ次第ハ当方ニ於テモ至極同感ニシテ此ノ際陸兵ヲ使用スルニ於テハ更ニ意外ノ紛糾ト深入ノ危険トヲ覚悟スルノ要アルノミナラス地理的關係等ヨリ自然我カ方ノミ主トシテ列國ノ利用スル所トナル惧アリ従テ我カ方トシテハ海軍力ノ使用以外更ニ陸兵ヲ使用スルコトハ之ヲ避ケ度意向ナル処陸軍側ニ於テモ在天津司令官ヨリ陸

四大沽事件 五〇四 五〇五

大沽事件ニ関スル国民党機關紙民国日報等ノ

報道ニ関スル件

第五五号

往電第五三三号大沽事件ニ関シ十六日国民党機關紙民国日報

カ割合穩健ナル口吻ニテ要領左ノ如キ論文ヲ掲ケタル外他ノ各紙ハ支那側情報ト共ニ天津東京等ノ我方発表ノ事実ヲ掲ケツツ沈黙ヲ守リ居レリ

日本軍艦ハ時間及船ノ種類事前ノ通知ト異ナリ且北京消息ニ依レハ藤ノ後方ニ奉天側軍艦ノ追隨アリ再次ノ警告ニ応セサリシ為国民軍力空砲ヲ放チタルニ対シ実弾ヲ以テ之ニ酬ヒタル由ナレハ非ハ日本ニ在リ而モ日本ハ表面寛厚ナル態度ヲ以テ単ニ軍艦今後ノ航行自由ヲ要求シ責任問題ニ関シテハ曖昧ニセントスルモノノ如シ乍併此点ヲ有耶無耶ニ葬ムルニ於テハ國奉兩軍ノ局部的勝敗ニ対スル關係ハ別トスルモ國家主權ヲ無造作ニ取扱ハルル慮アリ云々

転電及暗送先前電ニ同シ

五〇三 三月十七日(着)

在ハルビン天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽ニ於ケル駆逐艦射撃事件ニ関スルソ連紙

兵使用方意見稟申アリタルニ対シ前頭我方ノミ列國ニ利用セラルル惧アル点及本件措置ハ列國共同ノ問題ニシテ先ツ公使會議ノ決定ヲ俟ツヘキモノナル旨回訓ノ次第アリ尤モ海軍側ニ於テハ万一実力使用ノ場合ノ実効ヲ期スル為メ飛行機母艦若宮急派方手配ヲ了シ居レリ就テハ右事情御含ノ上今後共可然御措置アリ度

天津ヘ転電アリタシ

五〇五 三月十八日(着)

在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ対スル各紙ノ論評報告ノ件

第五七号

往電第五五号ニ関シ

十七日「申報」「新聞報」「時報」ハ申合セタルカ如ク大沽事件ニ対スル論評ヲ掲ケタルカ其論調何レモ穩健ニシテ日本政府ニ於テモ其原因誤解ニアルコトヲ認メタルコトナレハ和平解決ヲ見ルハ遠カラサルヘシト云フ点ニ一致シ只再発ヲ防止スル方法ニ関シ「申報」ハ「結局不平等条約ノ改正ニアリ然モ其改正ハ中国ニ於テモ内争ヲ止メ外国ニ口実ヲ与ヘス寧ロ其ノ協力ヲ仰カサル可ラス」ト結ヒ「新聞

報」ハ「中国政府ハ外交団ト別ニ協議シ白河河口ヲ作戰地
帶トナスヲ得サルヘキ旨奉國兩軍ニ通牒遵守セシムル外無
シ」ト云ヒ「時報」ハ「此際日本カ強力ヲ頼ミ是非ヲ顛倒
スル態度ニ出ツルコトハ兩國国交ヲ重ンスル所以ニ非ス」
ト警告シ居レリ

尚同日「ノース、チャイナ」ハ社説ヲ掲ケ日本政府カ事件
其モノヲ認ムルニ躊躇シ報復の手段ヲ採ラストノ声明ヲ
為スコトニ性急ナリシヲ知ラハ外交団ノ怠慢ヲ非難スルハ
酷ナリ而モ外交団ノ「コンミニケ」ハ明カニ否寧口噴飯
ニ値スル程事実ト掛離レ居レリ和平外交政策ハ最早極度迄
実行セラレ此上ハ一方ノミカ如何ニ讓歩スルモ何等解決ヲ
見サル程度ニ到達セリ吾人ハ干涉セヨト云フニ非ス只事実
ヲ事実トシテ認メ之ニ對シ適當ノ処置ヲ講ス可シト云フニ
アリ今日支那ニハ半打以上ノ小独立國アリ北京政府ハ是等
ノ最モ貧弱ナルモノヨリモ無力ナルハ掩フ可ラサル事実ナ
リ列國ハ先ツ支那ニ内乱ヲ誘起スル北京ノ朦朧政府ノ承認
ヲ取消スヘシ次ニ各省ノ有力者ノ會議ヲ招集スヘシ是支那
ヲ救フ唯一ノ途ナリ外交団カ其警告ヲ外交部ニ送ラスシテ
大沽ノ國民軍ニ宛テタルハ意味深キコトナリ何トナレハ一

司令官ハ同艦ヲ訪ヒ左ノ意味ノ回答文ヲ手交セル趣ナリ
貴翰諒承自分ハ鹿司令ノ命ニ依リ条約ニ保障サレタル白河
ノ交通ヲ確保スル任務ヲ有シ居リ貴意ニ對シテハ全然同感
ナリ依テ貴翰ノ次第ヲ鹿司令及孫督弁ニ通スルト共ニ詳細
ナル回答ハ交渉員ヨリ領事団ニ交付スル様進言シ置ケリ
在支公使ヘ転電セリ

五〇八 三月十八日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

砲台司令官ニ對スル通告文ニツキ交渉員ヨリ

首席領事ヘ回答文手交ノ件

別電

同日着在天津有田總領事ヨリ幣原外務大臣宛電
報第六三號
右回答文

第六二號 至急

(三月十九日接受)

往電第六〇號末段交渉員ノ書面別電第六三號ハ十八日午後
三時過首席領事ニ手交セラレタルカ此ヨリ先正午頃交渉署
員ハ同領事ヲ訪ネ大体同様ノ内容ヲ述ヘタル上書面ノ一二
時間遅ルヘキ事ヲ語リ諒解ヲ求メタル由ナリ
尚其節船舶ノ「サーチ」ハ既ニ之ヲ止メ税関ニ依ル「イン

度実在カ認メラレハ「シャドウ」ハ直ニ無視セラルルナ
リ云々ト大イニ列強ノ腑甲斐ナキニ慨歎シタルカ右ハ当地
英國人ノ感情ヲ表白シタルモノト認メラル
在支公使ヘ転電セリ

五〇六 三月十八日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

畢青島艦隊司令ヨリ英艦々長ニ對シ大沽事件

要求事項承認スル旨回答アリタル件

第五九號 至急

往電第五四號ニ関シ

十七日午後六時畢司令ヨリ英艦「カーライル」号艦長ニ對
シ要求五ヶ条全部ヲ承諾スル旨回答アリタル趣ナリ
在支公使ヘ転電セリ

五〇七 三月十八日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

警告文ニ對スル砲台司令官ノ回答ニ関スル伊

國軍艦ノ通報ニ関スル件

第六〇號(至急)

在塘沽伊國軍艦ヨリノ通報ニ拠レハ十七日午後九時半砲台

スペクション」ヲ以テ之ニ代ヘタル旨語リタル由ナリ尚首
席領事ハ税関長ニ對シ至急灯火標識ヲ点灯シ支那兵ニ占領
セラレ居ル「タイドシグナルステーション」ヲ税関ニ於テ
回復スル様告ケタルニ税関長ハ目下大沽ニ出張中ノ「ハー
バーマスター」ニ電話シテ至急措置ヲ執ラシムヘキ旨答ヘ
タル由
在支公使ヘ転電セリ

(別電)

三月十九日着在天津有田總領事發幣原外務大臣宛電報第六三
號
右回答文

第六三號(至急)

十六日付ヲ以テ公使団カ列國海軍司令ヲシテ大沽司令ニ致
セシメラレタル緊急通告ニ接シ本官ハ孫督弁及鹿總指揮ノ
命ニ依リ左ノ通り回答ス

(一)國民軍ハ國際義務及一切ノ條約ヲ尊重スル事固ヨリニシ
テ茲ニ更ニ左ノ通り慎重ニ声明ス即チ現在大沽港ノ軍事
施設ハ実ニ港外ニアル敵艦ノ天津塘沽地方ヲ屢々攪乱セ
ル事アルニ依ルモノナリ今既ニ敵艦ヲシテ通航セシメサ
ル適切ナル中立的保障アル以上本軍ハ條約ヲ尊重スル平

素ノ精神ニ基キ防禦ノ為設ケタル航行ニ関スル弁法ヲ取
消サント欲ス

(二) 通告書記載五項ノ内第四項ハ敵隊方面ニ関スルモノニシ
テ本軍トハ關係ナキモ本軍ニ於テモ其意ヲ諒解セルニ依
リ既ニ其項ニシテ履行セラルルニ於テハ本軍ハ第一、第
二、第三項ヲ実行スヘシ但シ第五項ハ該通告書受領以前
三月十五日日本官ハ搜索検査ヲ停止シ改メテ税関吏員立会
ノ下ニ簡單ニシテ且実効アル検査ヲ実行スル様取極メ置
キタリ

(往電第五三三号) 右大沽軍司令官ヲシテ別ニ列国海軍司
令ニ対シ回答セシメ置キタルモ尚玆ニ回答ス
在支公使ヘ転電セリ

五〇九 三月十八日(着) 在奉天内山総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽自由通航ニ関シ英国総領事ト共ニ楊宇霆

ニ警告ヲ加ヘタル旨報告ノ件

第八八号

貴電第四二二号ニ関シ

予メ英国総領事トモ打合ノ上本官单独十七日正午御訓令ノ

執行シタル結果報告ノ件

別電

三月十八日着在奉天内山総領事発幣原外務大臣
宛電報第九一号

奉天軍憲ノ回答ニ関スル在奉天英国総領事ノ
首席公使宛電報

第九〇号

在支公使発閣下宛電報第一二三号首席領事ニ対スル訓令ハ
電報遅延シ当地英国総領事ハ十四日接到シタルニ付十五日
付ヲ以テ右張作霖照会(十六日付在支公使宛機密北第五
百号参照)シ置キタルカ張ヨリハ何等回答無しシヲ以テ英
国総領事ハ右督促旁本官ト同道十七日楊宇霆ニ面会シタル
処支那側ハ未タ該書信ヲ受取り置カサリシニ依リ回答セサ
リシ旨ヲ抗弁シタルカ(取調ノ結果該書信ハ十五日午後支
那側ニテ受取り居タル事判明セリ)結局往電第八八号ノ通
答ヘタルニ付英国総領事ハ首席公使宛別電第九一号ノ如ク
電報シタル旨領事団宛ニ回章シ来レリ

委細郵報

在支公使、天津ニ転電セリ

(別電)

三月十八日着在奉天内山総領事代理発幣原外務大臣宛電報第

要旨ヲ覚書トシテ交渉員ニ交付シ置キ同時ニ英国総領事ト
共ニ午後張作霖ニ面会方ヲ申入レ置キタル処張差支アリタ
ルニ付代ツテ楊宇霆ニ面会シ嚴重警告ヲ加ヘタル処楊ハ去
ル十四日浦塩ヨリ武器ヲ搭載セル船舶ヲ拿捕シ(往電第八
五号第三項参照)奉天側トシテハ既ニ其目的ヲ達シタルヲ
以テ十四日夜海軍司令ニ対シ爾今検査ヲ停止スヘキ旨命令
シタルニ付今後ハ自由航行ヲ妨害スルカ如キコトナキモ若
シ再ヒ此種武器密輸ノ情報ニ接スルコトアラハ検査ノ要ア
ルヘシト答ヘタリ

右ニ対シ英国総領事ハ斯ル際ハ予メ之ヲ專任海軍司令官ニ
通知スル方然ルヘシト提議シ楊ハ之ニ同意シタルカ本官ト
シテハ御訓令ノ次第モアリ日本船舶ノ関スル限り其理由ノ
如何ニ拘ハラス苟モ我商船ヲ臨検シ或ハ自由航行ヲ妨害ス
ルカ如キ場合ニハ必要ト認ムル自由行動ニ出ルノ止ムナキ
ニ至ルヘキ旨ヲ重ネテ嚴重警告ヲ与ヘ置ケリ
在支公使、天津、青島、濟南ヘ転電セリ

五一〇 三月十八日(着) 在奉天内山総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

首席領事ニ対スル首席公使ノ電訓ヲ張作霖ニ

九一号

奉天軍憲ノ回答ニ関スル在奉天英国総領事ノ首席公使宛電報

第九一号 別電

Mukden Authorities have given me assurances that
there will be no further interference on their part with
Foreign shipping at Taku either by the detention of
ships for examination or by the bombardment of the
forts, or otherwise.

They reserve the right, however, to search any
vessels bringing munition of war for the enemy of the
expected arrival of which they have previous informa-
tion but will notify the Foreign senior naval officer at
Taku in advance. No such vessels are expected.

北京、天津ニ転電セリ

五一二 三月十八日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

關係国公使ノ外交部宛通告ニ対スル新聞論調

等報告ノ件

第一七〇号

關係国公使ノ対支通告ニ対シ漢字新聞紙ハ何レモ特筆大書シテ其内容ヲ報シ或ハ議定書ノ範圍ヲ超越セルモノナリトシ或ハ十八日正午ハ外交史上重大ノ意義ヲ有ストナスモノ有リ殊ニ十七日ノ晨報ハ単ニ一部ノ交通阻止セラレタルニ過サルニ不拘列国ノ要求ハ針小棒大ナリトシ進テ近因タル日本軍艦砲撃事件ハ其責日本側ノ粗忽ニアリ然ルニ列国カ此明白ノ事実ヲ顧ミスシテ日本ノ懲慝ニ依リ共同通牒ヲ見ルニ至リタルハ毫モ理由無シト論シ同日ノ「北京リीडァー」モ其社説ニ於テ議定書ノ所謂京津間ノ自由交通ノ保障ハ當時ニ於ケルカ如キ排外運動ノ結果外国人ノ生命脅威ヲ受ケタル場合ニ始テ武力ヲ以テ確保シ得ルノ本旨ニシテ排外運動ト何等關係無キ現下ノ事態ニ対シ議定書ヲ楯トスルハ牽強付会ノ解釈ナリトノ反駁意見ヲ述ヘタルカ一方米國宣教師団体、新聞記者ノ代表等ハ十七日米國公使ヲ訪問シ今回ノ事件ニ関シ同公使ノ執リタル措置ニ反対ノ意ヲ表明シタル由ニテ右ニ関シ十八日英國公使ノ本使ニ内話セル処ニ依レハ右米國人等ハ米國政府ニ宛テ「マクマレー」公使彈劾ノ電報ヲ發セル趣ナリ

天津ニ転電セリ

アリハケ國ニ対スル排外等ヲ絶叫ス後市内ヲ游行シ午後一時解散セルカ何等過激ナル行動ナク氣勢亦昂ラス

天津済

五一四 三月十八日

在中国公使館付本庄武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

国民大会示威運動終了後ノ衝突事件發生ニ関

シ報告ノ件

支第一九六号

(三月二十日外務省接受)

本日国民大会示威運動終了後一隊ハ執政府ニ侵入セント欲シ衛隊ト衝突シ衛隊ハ終ニ発砲シ十数名ノ死傷者ヲ生スルニ至レリ

天津済

五一五 三月十九日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五国公使會議ニ於テ警告文第五項修正ニ関ス

ル米國公使ノ提案ヲ可決シタル件及ビ外國船

舶ノ定義ニ関スル件

別電一

三月十八日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛
電報第一六七号

五一二 三月十八日

高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木參謀總長宛(電報)

渤海艦隊司令官ヨリ列国ノ要求五ヶ条ヲ容ル
ル回答アリタル旨報告ノ件

天電第一五三号

(三月二十日外務省接受)

一、永野司令官ノ通報ニ依レハ渤海艦隊司令官ハ列国ノ要求五ヶ条ヲ容レ十七日以後船舶ノ臨檢(脱字カ)ヲ取止ムヘキ旨回答シ来リ正式書類ハ十九日送付ノ筈

二、鹿鍾麟ハ十七日天津ニ於テ天電第一五一号ノ通り發表セシモ當時疑ヘル如ク單ニ宣伝ニ過キス十八日正午迄ニ回答ニ就キ聞ク所ナシ

關東、北京、坂西済

五一三 三月十八日

在中国公使館付本庄武官ヨリ
金谷參謀次長宛(電報)

北京外交団ノ大沽事件ニ関スル最後通牒反对

ノ国民大会ニツキ報告ノ件

支第一九五号

(三月二十日外務省接受)

本日最後通牒反对ノ国民大会ハ午前十時ヨリ約一時間天安ニテ行ハレ集マルモノ学生、労働者約七百名各代表ノ演說

水上警察ニヨル船舶ノ検査ニ関スル交渉員ノ
非公式提議

二

三月十八日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣

宛電報第一六八号

五国公使會議ノ結果ニツキ英國公使ヨリ天津

宛電話要領

三

三月十八日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣

宛電報第一六九号

外國船舶ノ定義ニツキ國名ヲ掲グルコトトス

ル旨ノ英國公使ヨリ天津宛電話要領

第一六六号

(一)天津發閣下宛電報第五六号ニ関シ

右ト同一ノ電報並ニ別電第一六七号ノ如キ電報天津首席領事ヨリ到着シタル結果先ツ十七日夜伊國公使館ニ於テ五国公使會合シ右別電ノ交渉員ノ非公式提議ニ対シ米國公使ハ水上警察ノ補助ニ依リ税関吏カ臨檢スル事ニ修正シテ回訓シタルト述ヘ其旨天津ヘ直ニ電話シテハ如何ト提議シタルニ依リ本使ハ右米國公使ノ說ハ事實上交渉員ノ提議ニ同意スル次第ナルカ臨檢ノ事ハ輕々シク決定シ難ク列國側ニ於テ既ニ今回ノ如キ重大ナル措置ニ出テタル以上慎重ノ態度ヲ取り一夜考慮ヲ費シタル上翌十八日

ニ開カルヘキ議定書関係国公使會議ニ於テ意見ヲ述ヘル事トシタシト述ヘ置キタリ

(二)列国通牒第一乃至第四項ハ既ニ支那側ニ於テ同意シ居リ問題ハ第五項ノミナルカ米国公使ノ態度モ多少軟化シ来リタル模様ナルニ付日本トシテハ我駁逐艦ニ対スル発砲事件ヲ眼前ニ控ヘ居ル際成ル可ク五国ノ協調ヲ維持スルコト望マシキ次第ナル処他ノ各国公使モ米国公使ノ修正意見ニ同意スル場合ニハ本使ニ於テモ大体同意スル方得策ナリト考ヘ十八日ノ會議ニ臨ミタル処他ノ各国公使皆同意ナルコトヲ承知セルニ付本使ハ仏清条約第十二條、白清条約第十四條ノ規定ヲ指摘シ臨檢ノ不都合ナルコトヲ述ヘ税関吏ノ臨檢ニ重ヲ置キ水上警察ノ補助ヲ成ル可ク輕クスルノ得策ナルヲ説キタル為メ Customs Authorities may be assisted by the River Police ト修正シタル上米国公使ノ提案ヲ可決シ直ニ英国公使ヨリ別電第一六八号ノ通天津ニ電話ニテ回答スルコトナレリ(三)將又前記天津往電第五六号治外法権国云々ノ点ニ付テハ治外法権云々ト書クハ面白カラストシテ米国公使ノ提議ニ依リ別電第一六九号ノ通国名ヲ掲グルコトトシ其ノ旨

wholly impartial as between the contending Chinese

factions and involving no prejudice to the military position of either party, they are prepared in connection with Point 5 to accept an arrangement by which the authorities of the customs may be assisted by the River Police in the inspection of Chinese passengers.

天津へ転電セリ

(別電三)

三月十八日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一六九号

外国船舶ノ定義ニツキ国名ヲ掲グルコトトスル旨ノ英国公使ヨリ天津宛電話要領

第一六九号 別電

Terms "foreign shipping" and "foreign vessels" are to be construed as referring to vessels of the nationality of the interested Powers namely Netherlands, Norway, Italy, Great Britain, Japan, Venezuela, Denmark, Belgium, France, Spain, United States of America, and Portugal.

天津へ転電セリ

天津ニ電話スルコトナレリ

天津ニ転電セリ

(別電一)

三月十八日在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一六七号水上警察ニヨル船舶ノ検査ニ関スル交渉員ノ非公式提議

第一六七号 別電

"Commissioner for Foreign Affairs inquires unofficially regarding Point 5, and, referring to his letter of March 15, will Ministers agree to system of simple but effective inspection of Chinese passengers by Chinese River Police in conjunction to the Customs?"

天津へ転電セリ

(別電二)

三月十八日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛電報第一六八号

五国公使會議ノ結果ニツキ英国公使ヨリ天津宛電話要領

第一六八号 別電

Inasmuch as it is the purpose of the interested ministers in this matter, to assure the due observance of the Treaty rights of their Governments in a manner

五一六 三月十九日(着) 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

大沽ニ於ケル日本駁逐艦砲撃事件ニ関スル中

国側ノ非難ハ根拠ナキ旨通報ノ件

第一七一号

本使發在支各領事宛電報

第五七号

大沽ニ於ケル日本駁逐艦砲撃事件ニ関シ支那側ニ於テ盛ニ吾方非難ノ宣伝ヲ試ミ事件ノ責ヲ吾方ニ帰セントシツツアリ而シテソノ事由トシテ

(一)日本軍艦ノ溯航ハ予メ打合セノ時刻ヨリ甚タ遅レタリ

(二)日本軍艦ハ最初一隻溯航ノ諒解ナリシモノニ隻溯航シタリ

(三)日本軍艦ハ灯台付近ニ投錨シ上官ノ指示ヲ俟テ入港ス可

キ約束ナリシニ投錨ヲモ為サス且ツ汽笛ヲモ鳴ラサス

(四)從テ支那軍ハ警告信号ノ意味ニテ一發空砲ヲ放チタルニ日本軍艦ハ機関銃ヲ以テ之ニ応戦シタリト称シ居ルモ

事実ハ(一)溯航時刻ニ関シ双方何等予約セル事無キノミナラス白河溯航ニ必要ナル満潮時ハ約午後二時ニシテ各国商船ハ右潮時ヲ利用シ先溯航シ日本駁逐艦ノ溯航ハ大体ソノ後

ニ為ス話シ合トナリ居リ為メニ日本駆逐艦ノ溯航時刻ハ約午後三時ト為リタル次第ニテソノ間何時間ノ手違無シ(ニ)ニ付テハ一隻ニ限ルトノ予約無ク(三)ニ付テモ何等約セル事無キノミナラス本来斯ノ如キ義務無シ(四)ニ関シテハ吾駆逐艦ハ支那人ノ射撃ヲ受ケ吾乗組將校負傷スルニ至リ初メテ已ムヲ得ス機関銃ノ応射ヲ為シタルモノニシテ支那側射撃カ空砲に非サリシハ明白ニシテ右支那側ヨリ発砲ノ事実ハ駆逐艦ノ水先案内タル外国人ノ証明スル処ナリソノ他吾駆逐艦ノ背後ニ奉天軍艦追従シ来リタリト伝フルモノ有ルモ勿論事実ニ非ス

外務大臣ニ転電シ天津ニ暗送セリ

五一七 三月十九日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

税関ニヨル中国人旅客検査ノ準備整ウマデノ
便法ニ関スル件

第六五号(至急)

(一)往電第六三号交渉員来翰末段ハ関係国公使ノ要求(支那人乗客ノ「インスペクション」ハ水上警察ヲシテ税関ヲ補助セシム可シトノ案)ニ副ハサルヲ以テ更ニ交渉員ヨ

ノ警察員補助ノ下ニ「インスペクト」セシム可シト答ヘ置ケリ

(四)英国総領事ヨリノ通知ニ依レハ十八日夜総税務司ヨリ当地税関長ニ対シ関係国公使ノ要求ヲ実行スルニ付キ出来得ル限り協力ヲ為スコキ旨訓令ヲ発シタリト在支公使ニ転電セリ

五一八 三月十九日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ関スル列国ノ最後通牒反对国民大会デモ隊ニ軍隊発砲シ多数ノ死傷者ヲ生ジタル旨ノ報道報告ノ件

第一七三号

議定書関係国最後通牒並ニ大沽事件ニ関シ当地国民党右傾派及国家主義団体ハ十七日南花園ニ会合シ外交部ヲ督勵シ右公使団ノ通牒ニ対シ強硬ナル反駁ヲナサシムル事ヲ決議シ同日午後右参加諸団体ハ更ニ中央公園ニ会合シ各会ヲ招待シ之カ対策ヲ討議シタルカ他方国民党市党部反日討異、張大同盟広東外交代表団各大学団等ノ左傾派ハ同日午後三時半北京大学第三院ニ於テ会合シ(一)即日最後通牒ニ反駁シ

リ別信ヲ以テ第五項ニ関シテハ前記ノ案(関係国公使要求案)ヲ採用ス可キ事ヲ申出ル様首席領事ヨリ交渉署員ニ申聞ケタル由(脱?)交渉員ヨリ支那人船客ノ「インスペクション」若ハ「イキザミネーション」トハ如何ナル意味ナリヤト尋ネ来タレルヲ以テ首席領事ハ私見トシテ右ハ支那人船客ヲ「インスペクト」シ若疑ハシキ者有レハ「ワラント」ヲ得当該船舶所屬国ノ領事ニ於テ之ニ「カウンターサイン」スル迄監視シ置キ (Keep under observation)得ル事ナリト答ヘタル由(尤モ艦船船ヲ「デサイン」スルヲ得ス)

(二)脱?

(一)国民軍ニ於テハ既ニ防備ヲ撤シタルヲ以テ一日モ「インスペクション」ヲ中断スル事甚タ困難ナル処十九日朝廷ニハ税関ヲ以テスル「インスペクション」ノ準備整ハサル可キヲ以テ不取敢十九日朝入港スル船ニ付便法ヲ講セラレ度キ旨交渉員ヨリ申出テ英国総領事ハ平服ノ水上警察員カ従来通英国船上ニ来リテ「インスペクト」スル事ハ已ムヲ得サル可シトテ許可ヲ与ヘタル由ナリ
本官ハ日本船入港ノ場合ニハ単ニ藤井書記生ヲシテ私服

(二)日本軍艦ノ奉天軍艦ヲ帯同シテ入港スルヲ許サス(三)八国公使ヲ駆逐ス等ノ極端ナル決議ヲナシ十八日天安門ニ於テ国民大会ヲ開催スヘキ事ヲ決議シタル後請願団ト称スル共產派ノ一隊ハ國務院ニ押カケ段執政ニ面会ヲ求メ之ヲ制止セル巡警トノ間ニ格闘ヲ生シ負傷者ヲ出シタル趣ナリ(二)十八日ノ天安門ニ於ケル国民大会ハ来会者約二千名各方面ノ団体ヲ網羅シ辛丑条約及一般不平等条約ノ廃棄ヲ決議スル等氣勢ヲ挙げタル後游行ニ移リタルカ國務院ニ向ヘル一隊中棍棒ヲ持テル一部学生カ院内ニ闖入セントセルヲ守衛軍隊阻止セントシテ再ヒ衝突ヲ生シ衛隊遂ニ発砲シタル為メ学生死者約十数名負傷者数十名ヲ生セリト報セラル
尚当日撤布セル伝單ハ主トシテ日本カ大沽事件発生ニ依リ列国ヲ率ヒテ最後通牒ヲ出タサシメタル事ヲ非難シ且日、英、米、仏、伊五国ノ帝国主義ヲ攻撃セルモノナリ

五一九 三月十九日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民大会デモ隊ノ死傷者ニツイテ追報ノ件

第一七五号

往電第一七三号ニ関シ

其後確實ナル向ノ談ニ依レハ負傷者ニシテ其後死亡シタル者ヲ合セ只今迄ノ処死亡者合計二十五名ニシテ負傷者ハ約五十名ナリトノ事ナリ

五二〇 三月十九日 在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ヲ地方的ニ解決シタキ旨中国側ノ申

出ニ対スル回答振り請訓ノ件

第六六号(至急)

貴電第一七号御訓令ノ次第ハ鹿鍾麟馬廠方面ノ戦線ニ赴キ留守ナル為未タ執行ニ到ラサル所十九日鹿鍾麟ノ秘書土肥原同道来訪先方ニ於テ高振龍(岡本ト共ニ大沽ニ赴キタル)ヲ鹿ノ代表トシ全權ヲ委任シテ大沽事件接洽解決セシメル事ト致シ度キ旨申出テ十八日殊ニ北京ニ於ケル出来事ニ顧ミ速ニ地方的ニ之ヲ解決シタキ意向ナル旨ヲ述ヘタルニ付先方申出ノ次第ハ政府ニ取次ク旨答ヘ置キタリ前記高ハ岡本土肥原等トノ会見ニ於テ殆ト当方調査ノ事実ヲ認メ居ル由ナルニ付北京ノ交渉ハ一時之ヲ中止シ高ト会谈シテ少クトモ先ツ当方主張ノ事実ヲ認メセシメ置ク事得策ナルヤニ認メラル就テハ先方申出ニ対スル回答振折返シ電報

煩ハシ度シ
在支公使ニ転電セリ

五二一 三月十九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ関スル外交団抗議ニ対シ中国外交

部回答ノ件

付 記 東方通信三月十八日発外交部回答文

第一七八号

往電第一五五号ニ関シ

十六日付首席公使「ノート」ニ対スル支那政府ノ回答ハ三十一日付ニテ接到セル趣ナル事右全文ハ十八日東方電報ノ通ナリ

天津ニ転電セリ

(付 記)

東方通信三月十八日発外交部回答文

三月十九日着電第三号

北京十八日発東方通信

◎外交部の回答全文

外交部のハケ国通牒に対する回答全文左の如し(十七日付)

らず以て親睦なる国交を重んぜられ度候

敬 具

大正十五年三月十七日

五二二 三月十九日 在奉天內山總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

渤海艦隊ノ我が国旗掲揚嫌疑ニ関シ在天津總

領事ニ調査資料送付依頼ノ件

機密公第一九六号 (三月二十四日接受)

大正十五年三月十九日

在奉天

總領事代理 領事 內山 清(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大正十五年三月十九日天津總領事宛機密領第七号号送付ス

件 名

一、渤海艦隊ノ我国国旗掲揚嫌疑ニ関スル件

(別 紙)

機密領第七号(号)

大正十五年三月十九日

在奉天

総領事代理 領事 内山 清

在天津

総領事 有田 八郎殿

渤海艦隊ノ我國旗掲揚嫌疑ニ関スル件

貴電第一二号中段本月五日入港ノ日本船員モ日本軍艦二隻大沽沖ニ来航シ居レリトノ情報ヲ齎セリ渤海艦隊中或ハ我國旗ヲ掲揚セシモノニ非ラサルヤト懸念セラル云々ニ関シ本官ハ予テ当地交渉員ニ対シ奉天側艦船ニ於テ前頭ノ如キコトアラハ天津港出入ノ本邦商船ニ不測ノ累ヲ及スコトアルヘキ旨ヲ述ヘ且其事実ノ真相ニ付至急精査方申入置キタルニ対シ其後交渉員ハ楊宇霆ノ談トシテ河野副領事ニ語リタル処ニ依レハ渤海艦隊側ノ艦船行動ニ関シテハ目下当省ノ知悉シ居ラサル処ナルモ奉天側軍艦等ニハ決シテ前記ノ如キ事実ナキ旨回答アリタル由然ルニ本件ハ其性質上相当注意ヲ要スルモノト思料セラルルニ付出来得レハ右情報ヲ齎ラセシ日本船員若クハ當時警備ノ任ニアリタル外国艦船等ニ付当館ノ調査資料トナスニ足ルヘキ必要事項至急御取調ノ上当方ニ御回報相煩度シ

実ハ本件ニ関シ外務大臣ヨリ右精査ノ上嚴重抗議方訓令ノ

牒反対」「対八国反対最後通牒大示威」等ノ旗ヲ立テ前日執政府衛兵トノ間ニ衝突シタル際負傷シタル学生ノ血衣ヲ掲ケ開会ニ先チ既ニ殺氣漲レルノ感アリ十時半例ニ依リ徐謙之カ主席トナリ大要左ノ如キ演説ヲ為シテ群衆ヲ激励シタリ

「今日ノ会合ハ団匪事件以来第二回目ノ八国ノ最後通牒ニ回答スヘキ日ニテ列国ノ帝國主義ノ為ニ斯ル悔蔑威圧ヲ受クルハ吾々中国人ノ憤慨ニ堪ヘヌ事テアル吾々國民ハ決シテ之等列国ノ威圧ニ屈セス何処迄モ政府ヲ激励シ此ノ不法ナル要求ヲ拒絶スヘシ若シ政府ニシテ之ニ応セサル場合ハ吾々國民ニ於テ列国ト砲火ヲ交フルモ苦シカラス云々」

ノ激烈ナル演説ノ後左ノ決議ヲ為シタリ

(一)全国ニ通電シ國民一致シテ最後通牒ノ列国ニ反抗スルコト(二)全世界ノ弱小民族ニ電請シ一致協力帝國主義ノ國家ニ反対スルコト(三)政府ヲシテ最後通牒ヲ拒絶セシムルコト(四)最後通牒ニ署名ノ各國公使ヲ北京ヨリ驅逐スルコト(五)國民軍ヲ督促シテ帝國主義反対ノ為ニ戦ハシムルコト(六)北京市民反帝國主義大同盟ヲ組織スルコト 以上右決議ヲ終ルト共ニ徐謙ヨリ示威行列ニ移ル旨ヲ宣シ正午

次第モアリ旁々右御依頼申進ス

本信写送付先 外務大臣

五二三 三月十九日 滿鉄北京公所長ヨリ 滿鉄本社庶務部長宛

大沽事件ニ対スル最後通牒反对国民大会ノ慘

劇詳細ノ件

(四月二日外務省亜細亞局第二課接受)

北公情二五第一号一四五(三月三十一日東京支社接受)

大正十五年三月十九日

北京公所長

庶務部長殿

対最後通牒国民大会惨劇詳細

昨日不取敢概略報告シ置キタル対最後通牒国民大会状況左ノ通再報ス

記

大沽水道事件ニ関シ列国公使ノ最後通牒ニ憤慨シタル国民党共產派等ハ一日(十七日)モ執政府ニ迫リ門前ニ於テ衛兵トノ間ニ輕微ナル衝突ヲ起シタルコトアリシカ昨十八日ノ天安門ニ於ケル会合ハ開会前ヨリ非常ナル緊張味ヲ示シ午前十時各学生、労働者其ノ他約一千余集会シ「最後通

十二時東長安街ヨリ執政府ニ向ツテ出發シ途中学生「反帝國主義」「反抗最後通牒」等ノ口号ヲ高唱シツツ比較的静肅ニ進行シ午後一時五十分國務院ノ門前ニ到着シ段執政ニ面接ヲ要求シタルモ衛兵執政ノ不在ナル旨ヲ告ケタルニ更ニ賈總理ニ面会ヲ要求シ總理亦不在ノ旨ヲ聞クヤ群衆ハ一斉ニ喚呼シテ突進シ(天安門ニテノ群衆ハ約一千ナリシモ其ノ後沿道ニテ非常ニ民衆増加シ此ノ時ハ總人員約一万ヲ称ス)衛兵ハ遂ニ発砲シ為ニ死者二十六名内女学生二名負傷者約二百名ヲ出シ中華民國以来未曾有ノ流血ノ惨事ヲ惹起シタリ東四牌樓ノ各商店ハ一斉ニ門戸ヲ閉シ流言蜚語盛ニ行ハレタリ

各団体ハ右惨劇後一応翠花胡同民党本部ニ引揚ケ午後七時北京大学ニ於テ緊急會議ヲ開キタル模様ニテ到底此ノ儘ニテハ治ルマシキ模様ナルモ唯今ノ所別段ノ計画ヲ聞カス曩ニハ北京大学ニ於ケル共產派非共產派ノ大乱闘アリ復今回此ノ流血ノ惨事ヲ見ル等従来形式的ニ行ハレタル示威運動等カ稍真剣味ヲ帯ヒ来レルモノト謂フヘシ

写送付先 大藏理事、東京支社長、文書課長、人事課長、各部長、哈爾濱事務所長、調査課長、各公所長、

長春、奉天各地方事務所長、上海事務所長

五二四 三月二十日(着)

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我要求条項ノ提示ハ適當ノ機會ヲ待チ執行シ

タキ旨意見具申ノ件

第一八〇号(極秘)

貴電第七一号敬承事件ノ性質ニ顧ミ支那側ヲシテ衷心ヨリ其非違ヲ陳謝セシメ速ニ善後措置ヲ了スル方得策且必要ナル事本使ニ於テモ痛感シ居ル次第ナルモ此際一応御考慮ヲ仰キ度ハ天津宛往電第四七号ニモ言及セル通中央政府ノ無力ナルニ加ヘ交渉ノ直接相手方タルヘキ外交部ハ現ニ総長空位ニテ責任ヲ以テ其衝ニ当ル者全然ナク今後ノ事件ノ如キモ全ク鹿司令トノ間ニ單純ナル取次ノ任ニ当ルニ過キサハハマタシモ或ハ進ンテ輿論又ハ軍憲側ニ迎合セシカ為却テ鹿司令以上ニ強硬ナル態度ニ出スル無キヲ保セサルハ今次ノ列国共同通告ニ對スル外交部回答ノ例ニ依リ推知シ得ヘシ從テ本事件ノ善後措置ハ實際上先ツ鹿司令ヲシテ事件ノ真相ヲ篤ト認識セシメ進ンテ解決要項ニ関シテモ先ツ以テ鹿司令トノ間ニ大体ノ諒解ヲ遂ケル事緊要ノ儀ト思料セ

第一四〇号参照) 此際御来示ノ要求条件ニ依リ直ニ無力ナル中央政府ヲ相手ニ正式ニ交渉ヲ開始スルモ恐ラク何等実効ヲ挙げ難カルヘク却テ排日ノ氣勢ニ油ヲ注ク事トナリ政府当路ハ之ヲ機會ニ其責任ヲ回避シ露国側ノ煽動ニ好機ヲ与ヘ他列国モ単ニ傍觀スルノ態度ヲ執ル位ナル可ク旁々御訓令ノ執行ハ今暫ラク天津ニ於テ当面ノ責任者ニシテ且実力ヲ有スル鹿司令トノ接洽ノ經過ヲ注視シタル上最適当ト認ムル機會ヲ待ツ事ニ致度ク將又御来示ノ解決条項ニ就テハ今暫ラク天津ニ於ケル折衝ノ結果ヲ見タル上先方ニ於テ故意ニ射撃セリヤ又單ニ誤解ニ出テタルモノナリヤ等ノ真相ヲ得テ更ニ考料スル事トスルモ晚カラサルヘク若シ今日直ニ我要求ヲ提出スル時ハ或ハ支那側ノ常套手段トシテ支那側ニモ死傷者ヲ出セル事等ニ藉口シテ過大ナル要求ヲ提ケ之ニ依リ出来得ル限リ解決条項ヲ輕減セントシ各種ノ宣傳運動ニ出テ実効ヲ得難キ惧有リ就テハ要求条件ニ就テモ事態判明ノ上更ニ卑見上申シ度キニ付御了承ヲ得度シ(往電第一四八号末段参照)

天津ニ転電セリ

ラル

然ルニ天津発閣下宛第五七号等ニ依リ御推知ノ通天津總領事ノ努力ニ依リ支那側ニ於テ漸次事件ノ真相ヲ認メントスルニ傾キタルヲ以テ鹿トノ談合ハ漸次進ミ得ヘク此際直ニ御訓令ヲ執行シ我方要求条件ヲ提出スルニ於テハ先方ニ於テ態度ヲ逆転シ更ニ局面ヲ困難ナラシムルノ虞ナキニ非ス又御来示ニ拠レハ五国海軍ニ於テ共同動作ヲ取レル機會ニ於テ直ニ本件ヲ解決スヘシトノ御趣旨ハ御尤モナルモ自由航行問題ニ関シ關係国ニ於テ今日迄協調的措置ニ出テタルハ予想外ノ成績ニシテ今後關係国全部ニ於テ完全ナル協調ヲ保チ得ルヤハ大ナル疑問ナリ現ニ米国公使ノ態度ノ如キ稍急變ノ感想ヲ与ヘタル位ナリ(往電第一六六号参照)今ヤ自由交通ノ問題ハ曲リナリニモ解決スヘキ模様ニテ今後我驅逐艦射擊事件ニ對シ各國ノ充分ナル援助ヲ期待シ得ヘキヤハ更ニ疑問トスル処ナリ他方国民党系分子其他学生団等ヲ中心トスル列国反對運動ハ遂ニ往電第一七五号ノ通稀有ノ慘劇ヲ演スルニ至リ今後彼等ノ運動一層深刻ヲ加フヘキ形勢ナルノミナラス其主張ハ日本驅逐艦事件ヲ以テ近因トシ實際上鉾ヲ日本ニ向ケツツアル情勢ニアル折柄(往電

五二五 三月二十日(着)

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三・一八事件ニヨル死者数十人ニ及ビタルコト並ビニ本件ニ關スル臨時閣議ノ模様報告ノ件

第一八一号

往電第一七三号ニ関シ

其ノ後ノ情報ニ依レハ学生衛隊間ノ衝突ハ既報以上ニ激烈ナリシモノノ如ク学生ノ死者既ニ数十名ニ及ヒタル趣ニシテ今後ノ發展ハ予想シ得サル処本件ニ關シ十八日夜臨時閣議ヨリ歸レル曾外交次長ノ外交団ニ取次ヲ希望セル談話ニ依レハ閣議ニ於テハ今回ノ運動力共產党的色彩アルニ重キヲ置キ嚴重之レカ取締ヲ実行スルコトニ決シ先ツ徐謙、李大釗等五名ノ乱党ヲ捕縛スル意向ニシテ段執政ヨリ警衛總司令並ニ警察總監代理李鳴鐘ヲ招致シ其ノ決意ヲ語り国民軍ニシテ取締ヲ肯セスンハ段執政モ賈總理モ直ニ下野スヘキ旨ヲ語りタル趣ニシテ十九日ノ新聞ハ右乱党通緝令ノ発表セラルヘキヲ報スルト共ニ集会禁止ノ布告ヲ掲載シ居レリ但シ徐謙等ハ既ニ露国大使館ニ逃ケ込ミタリトノ説アリ

在支各領事及香港へ転電セリ

五二六 三月二十日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟側ノ妥協的態度ニ鑑ミ機ヲ逸セス開談

方申進ノ件

第一八四号

天津発閣下宛電報第六六号ニ関シ

先ツ鹿司令ヲシテ篤ト事実ヲ確認セシメ次テ解決条件ニ付
テモ先ツ同司令トノ間ニ諒解ヲ遂クルノ段取ニテ進ム事此
際極メテ得策ト信セラルル事往電第一八〇号縷述ノ通ナル
ニ付テハ先方ヨリ調和的態度ニ出テ来レル此機ヲ逸セス高
トノ間ニ談合ヲ開カシムル事ニ御詮議アリタシ
天津へ転電セリ

五二七 三月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

驅逐艦射撃事件ト最後通牒トハ全然別個ノ間

題ナル旨通報ノ件

第一八八号

(三月二十一日接受)

本官発奉天津浦塩宛電報

ニテ行ハレ一行ハ船員客室「ストアハッチ」等ヲ覗キ見タ
ルノミニシテ品物ニハ触レサリシト云フ
在支公使へ転電セリ

五二九 三月二十日 幣原外務大臣ヨリ
在天津有田総領事宛(電報)

鹿司令又ハソノ全權代表ト交渉ヲ開始スルヨ

ウ訓令ノ件

第(八)号

貴電第六六号ニ関シ鹿ニ於テ本件ヲ地方的ニ速カニ解決シ
度キ意向ヲ有スルニ於テハ彼又ハ其ノ全權代表ト交渉ヲ開
始シ我方ノ主張スル事実並ニ彼ノ責任ヲ承認セシメ進ンテ
北京宛往電第七一号ノ解決条件ニ就テモ彼ヲシテ承諾セシ
メ置キ然ル後中央政府ヲシテ之ヲ確認(コンファーム)セ
シムルノ形式ヲ踏ミ以テ結局ニ於テ本件ハ帝国政府ト支那
政府トノ間ニ交渉解決スル様取運フコトト致シ度シ尤モ代
表ト交渉ヲ開始シタル後ニ於テモ貴官ニ於テ直接鹿ニ面談
ノ上談判促進ノ途ヲ講セラルルニ非サレハ交渉却テ遷延ス
ルノ虞アルヤニ思考ス御如オナキコトトハ存スルモ為念
右本大臣ノ訓令トシテ北京へ転電アリタシ

合第六一号

支那側及外国人ノ一部ニ於テハ議定書関係国ノ対支通牒ハ
日本驅逐艦砲撃事件ノ勃発ニ依リ日本ニ於テ関係国ヲ勸説
セル結果ナリトシ非難ノ鋒先ヲ日本ニ向ケツツアル処所謂
最後通牒ハ大臣発各館宛合第五七号ニテ御承知ノ如ク船舶
自由航行確保ノ為驅逐艦事件突発前ヨリ関係国公使ノ間ニ
評議セラレ他関係国総テ異議ナク只本使ノミハ帝国政府ニ
請訓ノ上其回訓ヲ待チ十五日ノ公使會議ニ於テ最終的決定
ヲ見タル次第ニテ実ハ疾ク主義上決定シ居タルモ唯我方ノ
手続上実行遅延セルモノナルモ右驅逐艦砲撃事件ト最後通
牒トノ關係ハ上記ノ通ニシテ全然別個ノ問題ナリ累次ノ往
電ニ依リ大体御推知ノ通ナルモ為念御含迄
外務大臣へ転電セリ

五二八 三月二十日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

船舶検査ノ実状ニツキ報告ノ件

第七一号

(三月二十一日接受)

藤井及入港セル貨物船二隻ノ船長ノ報告ニ依レハ船舶検査
ハ税関吏二名ニ武装セサル国民軍將校及兵卒ラシキ者四名

編註

本電ハ写ニシテ發電日及ビ電番不明ナルモ三月二十日起
草トアリ、欄外ニ「修正済、發電スミ」ノ書込アリ、尚
在天津総領事発大臣宛電報第八〇号ニヨレバ電番ハ第二
〇号ト思ハレル

五三〇 三月二十一日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

交渉員提出ノ船舶検査弁法ニ関スル件

別電

同日着在天津有田総領事発幣原外務大臣宛電報

第七三号

船舶検査細則

第七二号(至急)

往電第六五号ニ関シ

三月二十日午後七時頃交渉員ヨリ首席領事ニ宛テ書面ヲ以
テ「本特派員提出検査船舶弁法(之ハ往電第六七号末段ノ
コトヲ云フモノナルヘシ)ハ貴首席領事ニ於テ本月十七日
晚首席公使ニ電報セラレ翌朝之ヲ認可スルノ復電ニ接シタ
ルカ玆ニ検査細則ヲ議定シ孫督弁鹿司令ニ通報シテ施行ヲ
飭令スルト共ニ右写ヲ送付ス」ル旨申来ルト同時ニ右細則
(別電第六九号(第七三号?))ヲ送付シ来レリ
右ニ関シ首席領事其ノ他トハ未タ意見ヲ交換スルニ至ラサ

ルモ第一交渉員ノ云フカ如ク関係国公使ニ於テ交渉員提出ノ検査弁法ヲ承認シタル事実ナキニ拘ハラス(英国総領事カ交渉員ニ何ト告ケタルヤハ知ラサルモ)之ヲ承認シタルモノトシテ今回ノ細則ヲ作り居ルハ不都合ナリ又細則第一条ノ如キ通知ハ不必要不可能ナルノミナラス駐劄軍ヲシテ接洽セシムルト云フカ如キハ水上警察云々ノ前言トモ反スル次第ナリ右不取敢

(別電)

三月二十一日着在天津有田総領事發幣原外務大臣宛電報第七号

船舶検査細則

第七三号(至急)

- 一、外国船舶大沽入港以前ニ所属国領事ハ交渉署ニ通知シ交渉署ハ督弁公署並ニ総司令部ニ伝達シ駐劄軍隊ヲシテ接洽セシム
- 二、検査員ハ総司令部ヨリ派遣シ船舶到着ノ際海関吏員ト立会ノ上乗船検査ス
- 三、検査手続ハ検査員ハ主トシテ支那人乗客ヲ検査ス貨物及禁制品ノ検査ハ主トシテ海関吏員カ責任ヲ以テ之ニ從

第二三号

塘沽及北京事件ニ関シ当地ノ国民党ハ主催トナリ二十日午後二時ヨリ劇場ニ大会ヲ開キ民論ヲ沸騰セシメ次テ市内ノ示威運動ヲ為スヘク伝單ヲ配リ定刻ヨリ開会シタリ群集ハ主催者側二十名其他一〇、車挽労働者約六十名ニテ総數百名足ラス(知識階級者及学生ナシ)ニテ段祺瑞ハ売国奴ナリ日英ノ帝國主義ヲ打破スヘシ等機關新聞記事ニアルカ如キ事項ヲ讀上ケ定文句ノ惡口ヲ絶叫シテ最後ニ段祺瑞銃殺ノ決議電報ヲ北京ニ發送スヘク決議シ三時半散会セリ此ヨリ先張督弁ハ右示威運動ヲ禁止シ且ツ万一ヲ慮リ当館ニハ特ニ三名ノ巡警ヲ派シ其他日本人家屋ニモ相当手配ヲ為シタルカ群衆ハ頗ル氣乗セス極メテ平穩裡ニ散会シタリ

外務大臣へ転電セリ

五三二

三月二十一日 在中国芳沢公使ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

三・一八事件ニ関連シ内閣総辭職等政情ニ関

シ報告ノ件

第一九二号

(三月二十二日接受)

往電第一八九号ニ関シ

フ

四、検査地点ハ大沽水道又ハ水道内ノ「パイロットジエテ」付近トシ支那検査員隨時之ヲ指定ス

五、検査員カ支那人乗客中ニ嫌疑者アリト認定シタル場合ニハ其ノ嫌疑者ヲ船主又ハ船長ニ引渡シ監守セシム他面総司令部ニ電報シ地方検査庁ニ移牒シ内乱嫌疑犯ト認メタル拘引状ヲ用意シ之ヲ船舶所属国領事館並ニ船ノ繫留スル棧橋所轄国ノ領事館ニ呈示シテ即刻其ノ副署ヲ得棧橋ニ赴キ船舶到着ヲ待ち嫌疑者ヲ捕ヘ検査庁ニ引致処理ス

六、本弁法ハ臨時規定ニシテ天津付近ノ戦争行動中止スルニ至ラハ即時停止スルモノトス

北京へ転電セリ

五三一 三月二十一日(着)

在張家口山崎領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

張家口ニ於ケル大沽及ビ北京事件ニ関スル示

威運動ニツキ報告ノ件

第九号

本官發在支公使宛電報

其後学生惨殺事件ニ対スル各方面ノ非難攻撃益々熾烈ナラントスル形勢アルヨリ政府ハ之ヲ緩和センカ為二十日一面遭難学生撫恤ノ命令ヲ出スト共ニ一面内閣総辭職ヲ為スコトト成リタルカ右総辭職ハ勿論形式的ニテ段執政ハ之ニ対シ慰留ノ指令ヲ与ヘタルヲ以テ現内閣員ハ当分引続キ其職ニ留ルコトト為ルヘキモ近來益々不利益ニ陥ル模様ニテ遂ニ往電第一八六号王士珍等和平勸告ノ通電アリタルヲ好機トシ国民軍全部ハ東方電ノ通總退却命令ヲ發スルコトナリタルヲ以テ政局ハ近キ将来ニ於テ一大変化ヲ来スヤモ計リ難キ形勢ト成レリ右不取敢

五三三 三月二十二日(着)

在天津有田総領事ヨリ幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟等国民軍ガ和平通電ヲ發シテ北京ニ引

揚ゲタル件

第七九号(至急)

往電第七八号ニ関シ鹿鍾麟ハ張之江等六名ト共ニ和平通電ヲ發スルト共ニ二十二日朝四時部下ヲ率ヒテ北京ニ向ケ引揚ケ孫岳亦同意味ノ通電ヲ發シテ二十二日零時半北京ニ赴キタリト(以下追加)北京天津間ノ列車ハ今二十二日来不

通トナレリ

国民軍退却ハ差当リ市中ニ何等ノ動揺ヲ来サス治安ハ巡警ニ依リ維持セラレツツアリ奉軍ハ目下蘆台ニアリ一方李軍ハ楊柳青ニ到着シタル趣ナレハ今明日中反国軍入市スヘシト観測セラル

尚藤井ノ報告ニ依レハ唐山方面ヨリ塘沽ニ引揚ケ来レル国民軍ハ二十二日朝七時二十分迄ニ全部天津方面ニ輸送セラレ同地南砲台塔ノ国民軍モ全部若クハ殆ント全部ハ引揚ケタリト云フ

在支公使、奉天、青島、濟南、漢口ヘ転電セリ

五三四 三月二十二日

在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿司令トノ会谈実現方努力シタルモ実現セザ

リシ旨報告ノ件

第八〇号(至急)

(編註)

貴電第二〇号二十一日朝接到直ニ鹿ノ秘書ヲ呼寄セ至急会谈方申入レシニ高振龍ハ北京ニ赴キ当日夜帰津スル筈ナリトノ事ニ付同日帰津ヲ待チ会谈スル様手筈ヲ整ヘアリシニ同日夕方秘書ハ鹿ノ伝言ナリトテ高振龍ノ帰津期ハ不明

在支公使ヘ転電セリ

編註 三月二十日幣原外務大臣宛在天津有田総領事宛電報参照

五三五 三月二十二日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

時局急変ノタメ交渉困難ト察スルモ努力方在

天津総領事ニ依頼ノ件

第一九三号(至急)

本官宛在天津総領事宛電報

第六二号

大臣發貴官宛電報第二〇号ニ関シ

本件ニ付テハ其後時局急変ノ結果此上貴地ニ於テ具体的交渉ニ入ル事困難ナルヘキカト察スルモ兎ニ角高代表ヲシテ事實ヲ確認セシメ記録ニ存シ置ク事必要ト認メラルルニ付右折角此上トモ御配慮アリタシ

外務大臣ヘ転電セリ

五三六 三月二十二日(着)

在上海矢田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

三・一八事件ニ関スル新聞論調其他一般ノ意

見ニツキ報告ノ件

故交渉ハ直隸交渉員ト開始セラルル様致度キ旨申来レリ依テ交渉員トノ交渉ハ同人ノ立場ニ顧ミ解決ヲ遷延セシムル虞アルニ付少クトモ事實ヲ認ムル事丈ハ鹿自身又ハ其ノ全權代表ニ依リテ為サルヘキコトヲ主張シ他方本官自身是非共至急鹿ニ面会シタキ旨(鹿ニ面会シ貴電第一七号ノ趣旨ヲ申入ルルト同時ニ切メテ事實丈ナリトモ認メシメ置カンカ為ナリシナリ)申入レシモ秘書ハ目下極メテ重要ナル軍事会議ニテ寸暇無キ故明日(二十二日)ニセラレタシト懇願セリ本官ハ当日ノ戦況ニ顧ミ或ハ時機ヲ失スルノ虞有ルヘキヲ慮リ右ハ帝国政府ノ訓令ニ依リ至急面会ヲ必要トスルモノナレハ鹿ノ多忙ハ充分諒トスルモ是非面会ノ必要アリ一時ニテモ二時ニテモ差支無シ兎ニ角鹿ニ当方ノ意向ヲ伝フヘシト固ク主張シタルモ十一時頃電話ニテ緊急軍事會議ノ為如何ニスルモ面会ノ時間無シ是非明朝迄延サレタシトテ応セサルニ付已ムヲ得ス其ノ儘トナシタルニ往電第七九号ノ如ク鹿ハ二十二日早朝天津ヲ去ルニ至レル次第ナリ尚交渉員トモ非公式ニ意見ヲ交換シタル上ニテ本官ノ意見更ニ電報スヘシ

右不取敢

第六七号

北京学生射殺事件ニ関スル新聞論調其他一般支那側ノ意見ヲ綜合スルニ(一)本件ハ因ヲ二十年前ニ結ハレタル外国トノ不平等關係ニ發スルモノニシテ其性質ハ客年ノ南京路事件ト同シク國際的平等待遇ニ対スル支那民衆欲求ノ表現ナリトテ列國ノ考慮ヲ求メントシ(二)游行学生ヲ赤化的暴徒ナリト誣フルハ当ラス徐謙等ノ赤化運動カ若シ果シテ爾カク危険性アリシトセハ政府ハ未然ニ之カ防止ノ措置ヲ執ルヘカリシ次第ニテ流血ノ惨ヲ見ルニ至リタル責任ハ段執政政府ノ当然負フ可キ処ナリトシ(三)乍併近来学生等カ血氣ニ逸リテ是非ノ分別ヲ欠キ政客ノ走狗トナリテ徒ニ妄動スル風アルヲ慨歎シツツアリ

尚左傾的色彩ヲ帶フル学生団体及所謂労働団体等ニシテ例ニ依リ通電ヲ以テ段執政ノ下野ヲ叫ヒ馮、孫又ハ広東政府或ハ呉佩孚ニ対シ段祺瑞討伐ヲ從憲スルモノ多キモ一部新聞ハ軍閥ノ鬭争亦事件發生ノ一原因ナリトテ反对的論調ヲ示セリ要スルニ当地方一般支那人ノ感想ハ大体国内事件ノ多端ヲ悲シミ政府ハ適當ナル善後策ヲ講スヘキナリトナシ現在ノ処本件ニ依ル排日又ハ一般的排外氣勢ノ擡頭ヲ認メ

ス

北京、奉天、天津へ転電シ漢口、南京、広東へ暗送セリ

五三七 三月二十二日

高田支那駐屯軍司令官ヨリ
鈴木参謀総長宛(電報)

国民第一軍諸將ノ総退却通電ニ関スル件

天電第一六八号

(三月二十四日外務省接受)

王士珍ノ和平調停電ニ答フル形式ヲ以テ二十日国民第一軍
諸將張之江、李鳴鍾、馬福祥、劉郁芬、宋哲元、熊斌等カ
「戦ニ勝チタルモ武ヲ紊スヲ欲セス此際国民軍ハ西北ノ原
防地ニ還リ開拓殖産ニ任セントス」トノ意味ノ総退却通電
ヲ発セリト、(信スヘキ消息)

関東、北京、坂西、上海、奉天済

五三八 三月二十三日(着)

在ハバロフスク川角総領事代
理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ関スルソ連紙ノ報道報告ノ件

第八七号

極革紙ハ「大沽」事件ニ関シ北京「タス」及哈爾賓ノ特派
員ノ電報ヲ掲ケ詳報ス二十日同紙ハ今回ノ事件ハ帝国主義

ト

在支公使、天津、奉天、青島、芝罘、上海、南京、漢口へ
転電セリ

五四〇 三月二十三日

在張家口山崎領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍退却及ヒ察哈爾状況報告ノ件

第一〇号

(三月二十四日接受)

公使発大臣宛電報第一九一号末段ノ通国民第一軍ハ和平ヲ
標榜シ昨秋ノ元防地点ニ退却ス可シト通電後直ニ撤退ヲ実
行シタルカ呉佩孚ト閻錫山ト確実ニ提携成ル現下ノ状況ニ
テハ或ハ豊鎮、北京ヲ勢力範圍ニ置ク事頗ル困難ナルヘキ
ヲ期シ南口ヲ最後ノ防守地トスヘク計画セリ尤モ愈々南口
以北トナラハ軍費ノ出所無ク到底自立シ難キヲ以テ頗ル苦
痛ヲ感スル実況ナリ最近 師長ヲ護路総指揮ニ任シ三旅ノ
兵ヲ豊鎮、大同方面ニ派シ山西軍来襲ノ万ニ備フル外前
線ヨリ帰来ノ兵ヲ漸次同方面ニ増派中ナリ呉系ノ譚慶林旧
部下ヲ主トスル有力ナル土匪察哈爾ノ警備手薄ナルヲ奇貨
トシ本月十日以来管下各城鎮ヲ略奪シ当地ヲモ襲撃スヘシ
トノ情報頻々タルヨリ支那官吏ノ家族ニテ北京ニ避難スル

者カ武力ヲ以テ国民軍ト連合軍ノ軍事行動ニ干涉スルモノ
ナリ英米ハ連合軍ニ対シ財的援助ヲ与ヘ武器ヲ供給ス天津
奪還ノ為郭松齡援助事件ヲ繰返セリ云々ト論シ国民軍ニ同
情シ英米ノ態度ヲ非難ス

二十一日同紙ハ列強ハ北京政府ニ最後通牒ヲ発シ支那国民
ノ威信ヲ傷ツケ現ニ芳沢公使ハ犯人ノ処罰負傷水兵ノ慰藉
料「タークー」武装解除政府ノ謝罪其他ノ要求ヲナス右ハ
支那国民ヲシテ列強ノ干涉ニ対スル国民的運動ヲ早メン
「タークー」事件ハ(一)列強共同ノ仮面ノ下ニ軍事干涉ヲ行
ヒ連合軍ヲ援助シ国民軍ヲ圧迫スルモノニシテ(二)列強ノ首
腦者ハ日本ナルコト瞭カナリ云々ト結ヒ帝國ノ行動ヲ攻撃
ス

在露大使ニ転電シ浦潮、哈爾賓、満州里へ暗送セリ

五三九 三月二十三日

在濟南藤田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

直魯連合軍天津占領ノ通報報告ノ件

第四六号

(三月二十四日接受)

二十三日山東督弁署ヨリノ通報ニ依レハ直魯連合軍ハ同日
天津ヲ占領シ張督弁自身モ今明日中ニ天津ニ乗込ム筈ナリ

モノアリ右ニ対シ国民軍モ最近ニ至リ漸ク応急ノ手配ヲ為
シ居レリ

在支公使ニ転電セリ

五四一 三月二十三日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

公使団最後通牒ニ反対スル北京各団体ノ決議

ニツキ報告ノ件

機密第三三五号

(四月六日接受)

大正十五年三月二十三日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ル件

本件ニ関シテハ不取敢往電第一七三号及第一七五号ヲ以テ
及報告置キタルカ尚ホ十七、十八両日ノ模様大略左記ノ通
リ何等御参考迄報告ス

記

(十七日ノ情況

公使団ノ最後通牒ニ憤慨シタル当地各団体ハ政府ヲ激励シテ強硬ニ駁撃セシメムカ爲十七日各処ニ会合シ種々決議スル処アリタリ其ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、右傾派団体ノ決議

十七日午後一時中国国民党市党部（右派）孫文主義学会、国家主義団体連合会、国家主義青年団等十八右傾団体ハ代表八名ヲ選ヒ政府鞭撻ノ公函ヲ携帶外交部ヲ訪問セシメタルモ次長曾宗鑑ハ國務院ノ外交委員会ニ出席シタル後ナリシヲ以テ秘書某ニ来意ヲ陳述ノ上公函ヲ手交シテ辞去シタルカ該各団体ハ十八日午後二時中央公園ニ於テ大会ヲ開キ各界ヲ招待シテ公使団ニ對抗スヘキ一切ノ方法ヲ討論シ一機関ヲ組織シテ専ラ此ノ事務ヲ処理センコトヲ決議シ本機関ヲ「反辛丑条約国侵略大会」ト称スルコトセリ

尚ホ当日外交部ニ提出セル公函ノ内容ハ大沽事件ハ其ノ非日本側ニアルコト明ナルモ議定書関係国ハ最後通牒ヲ提出シ来レリ之支那ノ国体ヲ侮辱シ主權ヲ侵犯スルノ最モ甚タシキモノニシテ忍フ能ハサルモノナリ外交総長ハ理ニ拠ツテ力爭シ躊躇スル勿レ必要ノ時ハ鉄

全部院内ニ闖入セムトシタルヲ以テ遂ニ守衛トノ衝突ヲ惹起シ請願団側ニハ負傷者ヲ生スルニ至レリ勢ヲ挫カレタル請願団ノ大部分ハ未成年ノ学生ニシテ遂ニ自ラ分散シタルカ院内ニ於テ交渉中ノ四代表ハ守衛トノ衝突ヲ聞知シ先ツ守衛司令官ヲ戒飭スル言質ヲ得タル後最後通牒ニ対スル政府ノ対策ニ付説明ヲ聴取シテ退出セリ

(二)十八日ノ状況

(甲)十七日ノ決議ニ基キ天安門前ニ集合セル団体ハ公私立大学専門学校、中学校等八十余校ノ学生及北京總工会京綏路西直門車站工会等各工人団体及市民等約一千余人ニ上リ会場ニハ「反対八国最後通牒国民大会」「反対八国最後通牒大示威」等ノ文字ヲ大書セル旗幟ヲ立て午前十時半開会セリ

(一)主席ノ報告

主席徐謙ハ開会ノ三大意義ヲ述ヘテ(一)帝國主義者ノ支那壓迫ノ連合戦線ハ今明ニ露頭シ来レリ国民ハ一致抵抗ノ方法ヲ謀議セサルヘカラス(二)山海關秦皇島ノ作戦ヲ許シ又昨年天津付近ニ於テ李景林ノ作戦ヲ

血相抗スルモ惜マス全国民衆誓ツテ後盾ト成ラン云々ノ意味ノモノナリ

二、左傾派団体ノ決議

国民党市党部（左派）、広州外交代表团、中俄大学反日討呉張大同盟、中法大学、政法大学、師範大学等ノ団体ハ北大第三院ニ於テ公使団ノ最後通牒ニ対シ左ノ決議ヲ為セリ

(イ)即日通牒ヲ駁覆ス

(ロ)日本軍艦ノ奉軍軍艦ヲ帶同入港スルヲ許サス

(ハ)公使ヲ驅逐出京セシム

右ノ外尚ホ(ニ)国民軍ニ請ヒ作戰目的ヲ変シテ不平等条約廢除ノ為戰ハシメ(ホ)十八日天安門ニ於テ国民大会ヲ開催スルコトヲ決議シ夫レヨリ甲乙丙組ニ分レ甲組ハ「最後通牒署名ノ各国公使ヲ国外ニ驅逐セヨ」、「辛丑条約ヲ廢除スヘシ」等大書セル旗幟ヲ押立テ外交部ニ赴キタルモ無人ノ為止ム無ク六時半頃退出セリ。乙組ハ國務院ニ至リ執政及總理ニ面会ヲ求メタルモ何レモ不在ノ為メ請願団ハ代表四人ヲ挙ケ國務院秘書長ニ面会交渉スルコトナレリ然レ共勢ニ乗シタル請願団ハ

許可セルハ既ニ辛丑条約ノ無効ヲ默認セルモノナルニ今該条約ニ基キ大沽事件ニ関シ最後通牒ヲ提出シ来ルトハ人ヲ欺クモ甚タシキモノナリ(三)四十八時間ノ短時間ヲ以テ此種ノ威圧ヲ為スハ君主國ノ君主ニ対シテナラハイサ知ラス民主國タル中国人民ニ対シ実ニ非礼極マルモノナリ、以上三理由ニ依リテ国民大会ヲ開クコトトセリ云々

(二)次テ顧孟余其ノ他ノ演説アリタル後黃昌穀立チテ北京國民ヨリ最後通牒署名各國公使ニ致スノ通牒ヲ朗誦セリ其ノ大意左ノ如シ

各国最後通牒ノ根拠スル処ハ前清時代ニ締結シタル不平等ノ辛丑条約ニ係ル処此条約ハ已ニ早ク自ラ消滅シタルモノナリ(取消理由前頭主席ノ演説中ニ在リ)今一旦大沽事件起ルヤ又之ヲ利用セントスルモ國民ハ決シテ之ヲ承認セス各国ハ自動的ニ最後通牒ヲ撤回スヘシ然ラサレハ各国公使ハ早速帰国スヘシ云々

会集一致右通牒案ヲ通過シタル後師大代表広東外交代表团代表等ヨリ前日執政府訪問ノ結果ヲ報告シ終

四大沽事件 五四二

ツテ左ノ提案ヲ通過セシメタリ

(イ) 全国国民一致シテ最後通牒署名ノ列国ニ反抗セム
コトヲ電促ス

(ロ) 全世界ノ弱小民族一致共起シ帝國主義國家ニ反対

セムコトヲ電請ス

(ハ) 最後通牒署名各國公使ヲ国外ニ驅逐ス

(ニ) 国民軍ニ督促シテ反帝國主義ノ為メニ戦ハシム

(ホ) 北京市民反帝國主義大同盟ヲ組織ス右終ツテ示威
游行ニ移リ先ツ執政府ニ赴クコトセリ

(三) 二時頃國務院門前ニ押寄せタル群衆ハ固ク門ヲ鎖シ
テ衛兵嚴重ニ之ヲ守リ居タル為門内ニ入ルヲ得ス大
声叱呼執政ニ面会ヲ求め門ヲ破ツテ闖入セムトシタ
ル為遂ニ学生射殺ノ大事件ヲ惹起スルニ至レリ

(四) 中央公園ニ於ケル各団体会議

国民党北京執行部、中国国民党北京特別市党部及北京孫
文主義学会等ハ特ニ二十八日中央公園來今雨軒ニ各団体代
表大会ヲ開催シ反辛丑条約國侵略大会ヲ發起セル処参會
者一百二十余団体代表三百余人其ノ中主ナルモノハ民治
主義同志會、北京國民外交団、民生週刊社、國家主義連

四八四

合會、國魂社、國家主義青年団、中國女子協進會、三民
主義宣傳會、廣東民黨連歡社、工界連合會、工人自覺社、
世界日報社、鉄血救國団、中國女子革新社、北大学生
會、北京學生總會、法大學生會及發起ノ三団体等ニシテ
二時半開會セリ此ノ時執政府ニ於テ流血ノ慘事アリタル
報ニ接シ代表ヲ派シテ調査セシメタル処意外ノ大事件ナ
リシ為全体起立三分間黙禱ノ上写真攝影隊ヲ派シテ現場
ヲ撮影シ政府殺人ノ鉄証トナスコトトシ十九日天安門ニ
於テ國民驅逐示威大会ヲ開クコト及全國及全世界ニ通電
シ現政府ノ一切ノ行為ヲ否認スルコトヲ議決シ散會セリ
右往電補足旁御參考迄報告ス

五四二 三月二十四日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國民軍ノ狀況ニ関スル林出ヘノ姚震談話報告

ノ件

第一九九号

三月二十二日姚震ノ林出ニ語リタル処ニ拠レハ國民軍ハ海
上ヨリスル武器供給ニ食違ヲ生シ為ニ彈藥欠乏シ各方面ニ
於テ戰況不利ニ陥リ總退却ノ已ムナキニ至レルヲ以テ賈德

耀ヲ動カシ同人ヲシテ王士珍ヲ説カシメ平和勸告ノ通電ヲ
發セシメ(事實ハ王士珍等ノ平和勸告ニ対シテ數日間承諾
ヲ与ヘス國民軍ノ不利ナル形勢判明ノ上直ニ通電ヲ發スル
事ニ承認シタルモノノ如シ)之ヲ口実ニ總退却命令ヲ發セ
ルモノニシテ王士珍等ハ事後國民軍ニ利用セラレシ事ニ氣
付タリ奉天軍ハ通州辺迄押寄せ來ルヘク当分ハ北京ニ入ラ
サルヘシ京漢線ハ石家莊方面山西軍ノ手ニアレハ呉佩孚軍
ハ容易ニ北上シ來ラサルヘシ國民軍ハ南口ニ於テ一ヶ月程
前ヨリ露國人ノ設計ニ依リ堡壘ヲ設ケツツアリ今回ノ敗北
ニテ國民軍ハ恐ラク一万(脱) 人位ヲ維持シ得ルモノト思
ハル云々

尚姚震ハ國民軍側ニ拘禁セララル虞アル故今日中ニ公使館
区域内ニ避難スル積ナリト語レリ

五四三 三月二十四日

在中國芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ノ解決ニ関シ鹿鍾麟トノ會談内容報

告ノ件

第二〇〇号

(三月二十五日接受)

時局ハ遂ニ變転ノ情勢ニテ或ハ國民第一軍ハ全部北京ヲ撤

四大沽事件 五四三

退スヘシトモ伝ヘラレ斯克テハ大沽事件ノ解決愈々困難ナ
ルヲ感シタルヲ以テ時機ヲ逸セス鹿鍾麟ニ直接會談ノ必要
ヲ認メ其ノ帰京ノ翌日即二十三日本使段ヲ往訪シ先ツ帝國
政府及國民力事件ノ性質ニ顧ミ之カ解決ニ関シ最嚴肅ナル
考慮ヲ払ヒツツアルコトヨリ説キ起シ支那側ニ於テ率直且
淡泊ニ其ノ責任ヲ明カニシ一日モ速ニ公正ナル解決ヲ了ス
ルコト日本ト國民軍トノ關係上ヨリスルモ極メテ得策ト確
信スル旨懇々説示シタルニ鹿ハ日本軍艦トノ間ニ誤解ヲ生
シタルハ遺憾ナルモ遡リテ之カ原因及真相ヲ按スルニ(一)元
來出入船舶ノ取締弁法ハ外國側ノ同意セル処トナリ(二)日本
軍艦ハ遼江ニ関スル予テノ打合ニ違反セリ(三)支那軍隊ハ空
ニ向ツテ小銃ヲ放チタルニ過キストテ支那側ニ有利ナル詭
弁ヲ弄シ事件ノ責日本側ニモアルカ如キ口吻ヲ示シタルヲ
以テ本使ハ一々其ノ妄ヲ正シ我方ニ於テハ第三者ノ有力ナ
ル証拠ヲ有スルコト及天津ニ於テ鹿ノ代表高震龍ハ大体事
實ヲ容認セルコト等ヲ指摘シテ鹿ノ態度ヲ嚴シク非難シタ
ルニ鹿ハ結局実ハ軍事多忙ノ為未タ親シク高ヨリ報告ヲ聽
取スルノ暇ナシ早速高ヲ招致シ委曲報告ヲ徴シタル上何分
回答スヘキ旨ヲ約セリ

四八五

右会见ハ約三時間半ノ長キニ亘リ主トシテ事実問題ニ付論議ヲ重ネ置キタリ委細郵報ス
天津へ転電セリ

五四四 三月二十四日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

祝交渉員ニ我方調査ノ事実ヲ認メシムルヲ
メ文書ノ交換ヲ了シタル旨報告ノ件

第八三号(至急) (三月二十五日接受)

往電第八〇号ニ関シ

二十三日祝交渉員へ面会シタルニ交渉員ハ外交部ヨリモ本件至急解決方訓令アリタル由申居リタルニ付先ツ同人ヲシテ我方調査ノ事実ヲ認メシムルコト必要ナリト信シ(祝ノ地位ニハ何時變動アルヤモ知レス現ニ二十二日付ヲ以テ吳班候ナルモノヨリ直營連合別働隊総司令ノ命ニ依リ交渉員ニ任命セラレタリトテ事務引継方ヲ要求シ来レリ)引続キ阿三回会见ノ上種々ノ曲折ヲ経タル上二十二日付ヲ以テ当方ヨリ往電第五七号ノ事実ヲ略述シタル後「既ニ高振龍ノ認識セラレタル別紙事件ノ真相ヲ交渉員ニ於テ更メテ確認ノ上之ニ基キ速ニ本件解決ノ途ヲ講スルコトト致度」旨ヲ

記載セル交渉員宛ノ書面ト共ニ大体往電第四九号ノ事実ヲ記載セル顛末書ヲ交渉員へ与へ交渉員ヨリ「貴官既述ノ事実ニシテ既ニ高総監ノ承認ヲ経タル以上本交渉員自ラ否認ノ余地ナシ查スルニ本案發生ハ全ク誤解ニ出テタルコトハ貴総領事ニ於テモ既ニ了解セラレシ処ナリ中日邦交ノ重キニ顧ミ和平妥結ヲ速ナラシメンコトヲ希望スルコトハ本交渉員ノ固ヨリ深ク賛同スル処ナリ」トノ復答ヲ發セシムルコトトシ既ニ右文書ノ交換ヲ了セリ

變転極リナキ時局ニ乘シ鹿鍾麟ヨリモ亦外交部ヨリモ依頼ヲ受ケ居ル祝ノ居ル間ニ切メテ事実ナリトモ認メシメ置ク事必要ナリト信シ貴意ニ副ハサル節アルヤモ知レサルモ急遽右様取計ヒタル次第ニ付御承認アリタシ將又交渉員ハ右交渉中頻ニ我方方訓電ノ開示ヲ求メタルモ本官ハ此種事件ノ解決条件ハ抽象的ニハ略一定セルモノアリ只具体的ニハ故意過失ノ有無乃至程度如何等ニ依リテ定マルモノナレハ先ツ基礎タル可キ事実ヲ確定スルコト肝要ナリ尚新聞報道ニ依レハ支那側トシテ淡白ニ事実ヲ承認セス甚ダシキ捏造ニ基キ逆襲ノ態度ニ出テタルヲ以テ日本ノ国論政府ノ態度モ非常ニ硬化シ居レルモノト思ハルルニ付若シ支那側ニ

於テ淡白ニ我方調査ノ事実ヲ認ムルニ於テハ政府ノ態度モ自ラ變化セサルヲ得サルニ至ル可シト思考スル旨申聞ケ右ノ結果祝ニ於テモ先ツ我方調査ノ事実ヲ認ムルニ至リシ次第ナリ尚在支公使宛電第七一号所載要求条件中(一)及(三)ハ目下ノ混乱セル狀況ニ顧ミ実行甚タ困難ト思考セラルルヲ以テ何トカ目下ノ狀況ノ下ニ於テ行ヒ得ルカ如キ便法ヲ案出スル必要アルヤニ思考セラル又賠償金ノ三万円ハ交渉ノ結果及傷害ノ経過ニ依リ尚考慮ノ余地アリトノコトナルカ重傷者ノ二万円ハ別トシ輕傷及微傷者ノ五千円宛ハ仮令持出ス丈ケニテモ多額ニ失スル嫌アリト思考セラルルニ付御再考アリタシ
北京へ転電セリ

五四五 三月二十四日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

祝交渉員辭職シタルタメ外交部ヨリ特別ノ委
任ヲ受クルヨウ取計ラヒタル旨報告ノ件

第八六号(至急) (三月二十五日接受)

本官發北京宛電報

第八四号

本官發大臣宛電報第八三号ニ関シ
祝交渉員ハ二十四日限り其職ヲ辭メタルニ依リ本件ノ交渉ヲ当地ニ於テ為スニハ外交部員トシテ外交部ヨリ特別ノ委任ヲ受クル必要有リ依テ右ノ趣祝ヨリ北京ニ電話シ外交部ヨリ公使館ニアテ書面ニテ通知スル様取計ハシメタルニ付右通知接手ノ上ハ通知有度シ
尚祝ニハ大臣發閣下宛往電第七一号ノ主旨ヲ説明シ不取敢我方条件ヲ内示シ置キタリ
外務大臣ニ転電セリ

五四六 三月二十四日(着) 在南京森岡領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件ニ関スル学生運動ノ取締リニツキ報
告ノ件

第二六号

大沽事件ニ関シ過般來過激主義者上海方面ヨリ入り込ミ学生ヲ煽動シテ会合游行日本領事詰問等協議中ナル処孫伝芳ノ取締リ峻嚴ヲ極メ昨日ハ学生会大会ノ催ニ對シ軍隊ヲ派遣シ機関銃ヲ備ヘテ威嚇中止セシメ同時ニ上海地方等ニ宛テ集会游行禁止令ヲ發セリ

北京へ転電セリ

五四七 三月二十四日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍退却後ノ北京ノ治安維持ニ関スル段執

政談話報告ノ件

第二〇二号

(一)二十三日段執政カ船津ニ語リタル処ニ依レハ国民軍カ果シテ何処迄退却スルヤハ今日迄ノ処正確ナル見据付カサルモ恐ラク表面廊坊位ト声言シ其実南口位ニテ踏止マリ直魯連合軍乃至奉天軍カ更ニ進撃シ来ル場合一戦ヲ試ミ形勢不利ナレハ更ニ張家口迄退却シ其威勢ヲ死守セントスル方針ナラント思惟ス只自分目下大イニ考慮スル処ハ国民軍愈退却ノ晩ニ於ケル北京城内外ノ治安維持ニアリ目下警察ノ指揮權尙国民軍当局ノ手ニアリ一刻モ早ク之ヲ中央政府ノ手ニ回復スルコト必要ナルヲ以テ昨日来鹿鍾麟、李鳴鍾其他国民軍ノ幹部ヲ招集シ協議セント欲セシモ何レモ外出其他ノ故障ニテ未タソノ意ヲ達スルヲ得ス思フニ国民軍幹部連中モ昨日来頗ル暴乱ノ状態ニアルモノノ如シ若シ警察ノ指揮權ヲ回復スレハ巡警約一万七、八千外ニ執政府衛兵四千

相当援助ヲ与ヘラレ度キ旨懇請シタリト語リタル趣ナリ

五四九 三月二十四日

在蕪湖藤村領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽並ビニ北京両事件ノ影響報告ノ件

機密第四〇号

(三月三十一日接受)

大正十五年三月二十四日

在蕪湖

領事代理 藤村 俊房(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽並北京事変ノ影響報告ノ件

大沽事件ニ関スル情報ハ本月十六日ノ当地ニ漢字新聞ノ上海特電欄ニ於テ概要ヲ報道セラレタルカ右ハ上海国民党部ヨリノ特電ニシテ従来ハ通信者以外ヨリ斯ル特電ヲ送付シ来リ之ヲ其儘記載スルコトハ当地新聞トシテハ殆ト稀ナル現象ナリシヲ以テ非常ニ読者ノ注意ヲ喚起セルモノアリシカ其後ノ情報ハ列国カ辛丑条約ヲ盾ニ共同抗議ヲ提出シ支那政府ニ於テ之ヲ承認セル報道アリ本件ニ関スル対日悪感ハ稍ヤ緩和セル傾アリ次テ北京事変ノ報アリ該事件ノ責任ハ段祺瑞ニ負ハシムヘキ国民党側ニ宣伝盛ニ行ハレツツア

アルヲ以テ国民軍カ何等政治の見地ヨリ騒動ヲ惹起スル如キコト無キ限り北京城内外秩序ヲ維持スルコトハ左シタル難事ニ非スト信ス云々(編註)

編註 以下本電統キ見当ラズ

五四八 三月二十四日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ノ態度悪化及ビ北京治安維持ニ関スル

情報報告ノ件

第二〇五号

(三月二十五日接受)

二十三日夜遅ク曾宗鑑、姚震本使ヲ来訪シ国民軍首脳側ノ段執政ニ対スル態度急激ニ悪化シ何時「クーデター」行ハルルヤモ知レストノ極メテ「アラーミング」ナル報道ヲ齎ラシタルモ稍首肯シ難キ節有リタルヲ以テ各方面ニ付キ夫トナク形勢ヲ探ラシメタル処一時国民軍側ノ態度悪化シタルハ事実ナルモノソノ後形勢ハ大ニ緩和シタルモノノ如ク二十四日曾次長自身モ船津ニ対シ差当リ政変突発ノ懸念無キニ至リタリトテ鹿鍾麟ハ二十四日朝段ニ謁見シ昨今種々ノ謠言有ルモ京師内外ノ治安維持ハ自分(鹿)カ全責任ヲ以テ引受クル旨明言シ同時ニコノ際軍隊給与費ノ調達ニ関シ

リ安慶ニ在ル安徽国民党省党部ハ本月二十一日付ヲ以テ段祺瑞ノ殺人媚外ハ举国之ヲ同憤ス安徽全省民ハ誓テ之ヲ声討シ且ツ辛丑条約ノ廢除ヲ期ス旨ノ宣言書ヲ発シ尚ホ国民党安慶市党部及安慶学生会モ之ニ応シテ北京学生会其他ニ略ホ同意味ノ宣言書ヲ発表セル趣ナリ

蕪湖ニ於ケル中等学校連合会ノ幹部ハ本月二十三日当地ニ集合シ北京惨案ニ対シ積極的援助ヲナス決議ヲ行ヒ右中等学校連合会ノ名義ヲ以テ更ニ明二十五日当地各界ノ協議会ヲ開キ其實行方法ヲ協議スルコトニナリ居レリ
省長王普ハ孫伝芳ヨリ赤化分子ノ取締ニ関シ前ニ内訓ヲ受ケ居ル趣ナルカ今回ノ事変ニ関シテモ重ネテ本月二十日孫伝芳ヨリ学生等ノ暴挙ハ嚴重之ヲ取締ルヘキ命令ヲ受ケ相当其行動ヲ監視シ居ルカ如シ

右報告ス

写送付先 在支公使

五五〇 三月二十四日

在ハルビン天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽事件ニ関スル外交部ノ通電発表ニ関スル

件

普通第二〇八号

(四月二日接受)

大正十五年三月二十四日

在哈爾濱

總領事 天羽 英二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件ニ関スル外交部ノ通電発表ニ関スル件

本件ニ関シ本月二十三日発行当地漢字新聞ハ外交部ヨリ当地交渉員ニ宛テタル左記通電ヲ発表セリ

大沽付近ノ戰事ノ為外國船ノ通行ニ制限ヲ加ヘタルニ在京各國公使ヨリ抗議アリタルヲ以テ正ニ地方ト交通維持ノ弁法ヲ磋商中各國公使ハ辛丑議定書ヲ口実トナシ天津駐在海軍司令官ニ命シ大沽ノ両交戰司令官ニ条件ヲ提出セシメ回答ヲ求メタリ本部ハ該通牒ノ条項ニ付商議スヘキモ公使団力海軍司令官ニ命シテ採リタル態度ハ辛丑議定書ノ範圍ヲ超エタルモノナレハ根本上承認スル能ハス本部ハ公使団ニ対シ正式ニ反駁スルト同時ニ天津孫督弁鹿總司令ニ電報シ交渉員ニ転飭セシメ天津領事団ト磋商セシメ現ニ已ニ和平解決シ大沽航路モ亦タ平常ノ如クナリタリ遠隔ノ地事實ヲ誤伝スルヲ慮リ事件ノ経緯要領ヲ

我國体ヲ侮辱シ我カ主權ヲ無視セルニ付本件ニ対シテ我等ノ執ルヘキ方針協議ノタメ二十一日午後一時半省教育會館ニ各団体代表御出席ヲ乞フ」トノ旨各団体宛ニ出狀シタル由ナリ

二、本月二十一日省教育會館ニ於テ前記學生連合會發起ニ依ル各団体代表大會開催サレ二十余団体ノ代表集合シ討議ノ末(一)援助北京慘殺市民後援會組織ノ伝單ヲ發シ標語ヲ定メテ之ヲ貼出スルコト(二)期日ヲ定メテ市民大會ヲ開キ通電ヲ發スルコト(三)陳禹門、孫尚俠二氏ニ各団体ノ勸誘、会場準備、通電起草ヲ託スルコトノ三ヶ条ヲ議決シ且標語トシテ「廢除辛丑條約」「反對政府」「反對吳佩孚」「援助北京學生」等數種ヲ定メテ散會シタル由ナリ

三、本月二十一日杭州外交後援會ハ執行委員會ヲ開催シテ(一)北清事變最終議定書ノ廢除(二)政府今回屈服ノ公使団要求条件否認(三)段執政ヘ下野勸告(四)國奉兩軍ヘ軍事行動停止勸告(五)北京市民流血事件死者撫恤同犯人処罰ニ関シ通電ヲ發シ其他宣傳方法等ニ就テ議決シタル由ナリ

四、本月二十三日省教育會館ニ於テ各公団連合會ノ緊急會議開カレ集マルモノ三十一団体ノ代表及新聞記者其他三

電報ス各法団ニ傳達セラレンコトヲ望ム云々(二十日付)右ハ格別惠宣伝ノ意味トハ思料セラレス又各地ヘモ通電セラレアルコトトハ存スルモ何等御参考迄報告ス

本信写送付先 在支公使、奉天、天津各總領事

五五一 三月二十四日 在杭州清野領事代理ヨリ 幣原外務大臣宛

大沽事件ニ関連スル民間運動ニ関シ報告ノ件

機密第六九号

(四月二日接受)

大正十五年三月二十四日

在杭州

領事代理 清野 長太郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件ニ関連スル当地民間運動ニ関スル報告ノ件

大沽事件ニ関シ当地ニ排日運動起ラントスル模様アル次第ハ本月十八日發第六号拙電ヲ以テ報告致置キタルコロ其後北京ニ學生對軍隊ノ衝突事件アリタルタメ民間運動惹起セリ情況左ノ如シ

一、本月二十日學生連合會ハ大略「大沽事件ニ於テ日本ハ十余人アリ議論百出ノ末結局(一)全國各法団宛北京政府ノ罪ヲ鳴ラスノ通電ヲ上海各新聞社ニ寄スルコト(二)北京總檢察庁ニ対シ法ニ依リ起訴センコトヲ電請スルコト(三)學生連合會ヨリ提出ノ市民大會開催ハ当分見合スコト(四)本會ノ運動進行ノタメニ弁事機關ヲ設ケ專員ヲ置クコトノ五項ヲ決議シ尚ホ孫伝芳及広東政府ニ北伐ヲ請フヘシトノ議案モ出テタルカ之ハ否決セラレタル由ナリ

杭州ノ國民黨員ハ広東國民政府、南京孫伝芳、湖南唐生智宛ニ「國賊段祺瑞愛國ノ學生ヲ慘殺セルハ実ニ怨恨ニ堪エサルニ付テハ速カニ北伐ヲ実行シ其ノ賊穴ヲ搗キ壳國ノ不平等條約ヲ廢除セラレンコトヲ祈ル」意味ノ電報ヲ發シ又「全國同胞ニ寄ス」ト題セル「日本ノ大沽砲撃ハ張作霖ヲ助ケ民衆ニ接近セル國民軍ヲ撲滅セントスルモノナルコト明瞭ナリ而シテ帝國主義國又一一致連絡シテ我國ニ最後通牒ヲ發シ其承認ヲ迫レリ為ニ北京市民憤恨措ク能ハス飽ク迄モ抗争セントシタルニ対シ段祺瑞ハ衛隊ニ命シテ是ヲ慘殺セシメ而カモ名ヲ赤化ニ藉リ罪ヲ民衆ニ歸ス此ノ上ハ只徹底的革命ニ依リ帝國主義ヲ打破シ軍閥ヲ倒シ一切ノ不平等條約ヲ廢除スルニ在ルノミ」ト

ノ意味ノ一文ヲ各新聞社ニ寄セタル由ナリ
 状況大略以上ノ通りナルカ当地軍民長官ハ本月二十一日共產党徒ノ煽動取締ニ関スル執政府来電ヲ公表シ次キテ当地交渉公署ハ二十三日各法団ニ宛テ

拜啓陳者本月二十日付ヲ以テ外交部ヨリ今回大沽付近ニ戰事發生シ外国船舶ノ通航制限セラレタルタメ駐京各國公使ヨリ屢次抗議アリ交通維持ノ弁法ハ地方当局ニ於テ磋商中ノトコロ各國公使ハ北清事變最終議定書ニ口実シテ天津ノ各海軍司令官ニ通牒シ大沽ニ於ケル交戦ノ双方ニ対シ条件ヲ提出シ期日ヲ限リテ答復ヲ要求セシメタリ該通牒内ノ条件ハ商議シ能フヘシト雖公使団カ海軍司令官ヲシテ取ラシメタル態度ニ至リテハ北清事變最終議定書ノ範圍ヲ超ユルモノナルニ依リ根本的ニ是ヲ追認スル能ハス故ニ本部ハ一面公使団ニ対シテ正式ニ之ヲ反駁スルト同時ニ他面天津孫督弁及鹿總司令ヲ通シ交渉員ニ命シテ天津領事団ト協議セシメタル結果已ニ平和ニ解決シ大沽ノ航行ハ從前ニ復セリ成行右ノ通りナルカ遠隔ノ地ニ於テハ本件ノ誤伝ナキヲ計リ難キニ付右ノ次第各法団ニ転知スヘシトノ旨申越アリタルヲ以テ玆ニ通報ス

五五二 三月二十五日

在長沙野田領事代理ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件反対ノ学生等ノ示威運動ニヨリ領事館ノ一部破壊セラレタル旨報告ノ件

第一号

(三月二十七日接受)

当地ニ於ケル大沽事件反対運動ハ四五日前ヨリ計画中ノ所二十五日国民党雪恥会学生職工無賴漢等總數約二千名ヨリナル游街示威運動舉行門前通過ノ際日本帝國主義打破等ノ標語ヲ連呼シ先ツ湖南人民反英、日、討吳行動委員會ト署名セル警告文ヲ当館ニ提出シ先頭ハ無事進行シ国民党市党部ノ一団門前ニ差シ懸ルヤ構外ヨリ投石シ初メ次イテ手ニ手ニ六尺位ノ棍棒ヲ所持セル雪恥会糾察隊員ヲシキ者四五十名カ警備中ノ軍警數十名ノ制止ヲ冒シテ先ツ門前ノ巡警小屋ヲ粉碎シ更ニ大門扉ヲ打壊シ同時ニ一部ノ者ハ領事官舎ノ大門扉ヲ破リ前面ノ煉瓦塼ヲ突き壊シ數名ハ遂ニ構内ニ闖入シテ事務所及館員宿舍ノ硝子戸及扉ヲ破壊シタリ尚行列ノ順路ニ当ル中島洋行ノ門扉及硝子戸ノ全部ヲ破壊セリ

依テ本官ハ即時交渉員ノ臨場ヲ求メ嚴重警告ノ上右暴行ニ

トノ書狀ヲ發シ官憲側ニ於テ事件發生予防ニ務ムルトコロアリ前頭各公団連合會ニ於テ學生連合會提出ノ市民大會開催ヲ見合ハスヘキコトヲ決議シタルモ右官憲ノ善処ニ基クモノノ如シ而カモ其後ニ於テ常ニ過激ノ論評ヲ掲載スル国民党左傾派系統ノ「杭州報」ハ發行ヲ禁止セラレ該新聞社長兼主筆及編輯人ハ監禁セラレ(表面ノ理由ハ江蘇省長ト浙江省長ノ更迭説ヲ捏造掲載シ地方ノ治安ヲ害シタルハ不都合ナリトイフニアリ)タルタメ各新聞紙ノ論調モ慎重且穩健トナレル模様ナレハ旁々以テ本件民間運動ハ左マテ擴張スルコトナカルヘシト觀察セラル尚ホ官憲側カ右ノ如キ態度ニ出テタルハ曩ニ小官カ省長其他ノ有力者ヲ訪問シテ大沽事件ノ真相ヲ説明スルト共ニ排日運動取締方ニ関シテ注意ヲ促シ置キタル次第モアルカ偶々当地數戸ノ絹織物工場ニ起リタル同盟罷工ハ拡大ノ傾向アリシニヨリ此等ノ運動トモ何等カノ連鎖陰謀ナキヤヲ懸念セラレタルニ依ルモノナルヘシ

本信寫送付先 在支公使、在上海、在漢口、天津各總領事、在南京、蘇州各領事

對スル省政府ノ責任アル処置ヲ要求シ目下交渉中ナリ
 支、漢口、上海へ転電ス

五五三

三月二十五日 在中國芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛

日本ノ張作霖支援ヲ非難セル広東外交代表團

主席ノ書簡報告ノ件

付屬書

右三月十六日付徐広東外交代表團主席ヨリ芳沢公使宛書簡訳文

公第三四〇号

(四月六日接受)

大正十五年三月二十五日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件ニ関スル徐謙来信訳文送付ノ件

今回ノ大沽事件ニ関シ広東外交代表團徐謙ヨリ本使ニ対シ別紙ノ如キ書翰ヲ送越シタル処右ハ左傾派ノ極端ナル代表の意見ト見ルヘキモノナルニ付御参考ノ為(脱) 訳ノ上提出ス

(付屬書)

(訳文)

本月十二日中国大沽防衛ノ国民軍ハ無法ナル日本砲艦及驅逐艦ノ砲撃ニ遭ヒ死傷ヲ致ス者甚タ多シ本代表团ハ特ニ日本帝國政府ニ対シ抗議ヲ提出ス日本此種ノ行動ハ実ニ中国ノ敵視スルノ行動ナリ若シ中国兵力強盛ナラハ必ス交戦状態ニ入ラム中国国民ハ此種ノ行動ヲ以テ日本力明カニ張作霖ノ関内勢力恢復政策ヲ援助スルコトヲ表示シ日本ハ日本及其他帝國主義ノ利益ヲ謀リ全然中国国民現在ノ不平等條約廢除運動ヲ敵視スルモノト認ム日本政府及其他帝國主義國家ノ政府ハ嘗テ屢々声明シテ中国ノ平和及統一ヲ望ミ有力ナル政府ヲ建設スルコトヲ希望シタリ然ルニ日本ノ陸海軍ハ斯ノ如キ情況ニテ中国国民力内乱ノ巨頭國賊張作霖ヲ除カムトスル運動ニ時々干渉セハ中国ハ如何ニシテ有力ナル政府ヲ建設スルコトヲ得ンヤ日本ハ條約ノ權利ヲ口実トシ既ニ張作霖ヲ援助シテ郭松齡ヲ殺シ中国ノ平和及統一ヲ破壞シ海軍モ同一ノ行動ヲナシテ国民軍ヲ圧迫シ奉天軍ノ勝利ヲ得ルコトヲ計画ス斯ノ如クナレハ日本ハ内政ニ干渉シ中国ヲ擾乱スルノ責任ヲ負フ可キモノナルコト毫モ疑問ナシ日本ハ動モスレハ條約ヲ口実トシテ種々中国ヲ干渉ス

彦同道鹿鍾麟及ヒ張之江ノ代表トシテ本使ヲ來訪北京治安維持ニ関スル国民軍ノ態度宣明ノ為メ來レリトテ左ノ通述ヘタリ

北京ノ治安ハ同軍ニ於テ完全ニ責任ヲ負ヒ維持ス目下ノ処北京撤退ノ意無キモ將來政局安定一般國民力同軍滯留ヲ必要トセサル時期至ラハ撤退スル事アル可シ目下國民軍力北京付近ニ極力防禦工事ヲ施シツツ在ルハ全ク北京ノ平和保持ノ目的ニ出テタルモノニシテ進テ敵ヲ攻撃セントスルモノニ非サルモ敵ノ攻撃有ラハ全力ヲ尽シテ応戦スル決心ナリ右御諒承ノ上國民軍最近ノ行動ニ対シ諒解又ハ疑義ヲ抱カレサル様希望スト述ヘ更ニ右ノ次第ハ手分ケシテ各國公使ニ申入ルル事トナリ居レリト語レリ

五五五 三月二十七日

在天津有田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國民軍撤退後ノ天津狀況報告ノ件

第九二号

本官発在支公使宛電報第八九号

貴電第六八号ニ関シ

二十二日早朝國民軍力天津ヲ撤退スルヤ各所ニ平服ノ赤白

四 大 沽 事 件 五 五 五 五 五 六

ルノ護符トナス之レ中国國民力不平等條約廢除ヲ主張スルニ充分ナル理由アルヲ示スニ足ラム日本カ條約ノ權利ヲ主張スルニ因リ徒ニ張作霖ヲシテ其ノ利益ヲ受ケシメ張作霖ハ中国政府ニ背叛スルノ舉動ハ益々猖獗トナル中国今日ノ情勢ハ断シテ不平等條約ノ存在ヲ許容スル能ハスシテ不平等條約ノ廢止ハ乃チ中国カ國家トシテノ存在ヲ保障スル為ニ必要トナスモノナリ

中華民國十五年三月十六日

廣東外交代表团主席

徐 謙 (自署)

日本駐京全權公使閣下

編 註

本書簡ト同一内容ノ書簡ハ同日付デ外務大臣宛ニモ送付サレタ

五五四 三月二十六日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京治安維持ニ関スル國民軍代表談話報告ノ

件

第二一二号

(三月二十七日接受)

二十六日西北边防督弁公署外交署課長林世則同署署員鄭宗

黒ノ腕章(李景林軍ノ印)ヲ纏ヒタル壯漢現ハレ居残リタル巡警ト共同シテ支那町ノ治安維持ニ任シ同時ニ逃ケ遅レタル少数ノ國民軍兵士威嚇ノ為空ニ向ケテ拳銃ヲ発射シタルモノアルハ事實ナリ右ハ昨年李景林軍敗退ノ際隣接セル伊太利、仏國、日本ノ各租界ニ潜伏シ居タル殘党カ國民軍ノ撤退セルヲ聞キ未タ各租界力自衛上交通遮断等ヲ行ハサルニ先立チ三々五々支那町ニ出掛ケ右様ノ行動ニ出テタルモノニシテ該隊ノ中心タリシ李爽愷ハ伊太利租界ニ又大多數ハ仏國租界ニ潜在シ居リタルラシク日本租界ニ潜在シ居リタル分ハ警察ノ見込ニ抛レハ大概四五十名位ナルヘシトノ事ナリ

外務大臣ヘ転電セリ

五五六 三月二十七日(着)

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

祝交渉員ノ資格ニ関スル中国側トノ交渉経緯

報告ノ件

第二一一号

本官発天津宛電報第六九号

貴電第八四号ニ関シ

四 九 五

最近船津段祺瑞ト私的会談ノ際大沽事件等ニ言及シ其円満迅速ナル解決ヲ慫慂シ其ノ一方法トシテ然ルヘキ人物ノ手ヲ経テ先ツ非公式談合ヲ試ムルモ一策ナルヘシト説キタルニ段モ全然同感ノ意ヲ表シ右非公式談合ノ適任者ニ付船津ノ意向ヲ尋ネタルヲ以テ全然船津一個ノ私見トシテ丁士源ノ如キモ至極結構ナルヘシト述ヘ置キタル趣ノ処三月二十五日丁士源本使ヲ來訪同日段ニ招致セラレ前記懸案解決ノ諮問ニ接シタル旨述ヘタルニ付本使ハ二十三日鹿鍾麟ト会谈ノ次第ヲ告ケ鹿ノ態度ハ毫モ誠意ヲ認メ難シト説示シタルニ丁ハ然ラハ自分ハ先曾外交次長ト熟議スヘシト答ヘテ辞去シタルカ同日重ネテ來訪曾次長ノ談ニ依レハ大沽事件ニ関シ祝交渉員ハ鹿司令ノ命令ニ依リ措置スル次第ニ付其資格ニ疑ハシトノコトナル旨申出タルヲ以テ天津ニ於ケル了解ニ依レハ祝惺元ニ於テ談合ヲ進ムルコトニ付テハ外交部ヨリ文書ニテ本使ニ通告アル手筈ニナリ居レリトノコトナル旨指摘シ置キタルカ同日夕刻外交部沈秘書曾次長ノ命ニ依リ來訪天津ニ於ケル貴官ト祝トノ交渉開始ハ鹿鍾麟ノ意図ニ基クモノニシテ祝ハ右ニ関スル充分ノ権限ヲ有スル次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ聞ク処ニ依レハ祝ハ既ニ

二十四日交渉員ノ職ヲ去レリトノコトナリ從テ今後同人トノ間ニ具體的談合ヲ進行スルニ付テハ特ニ「オーソリゼーション」ヲ必要トシ右権限ハ中央政府ニ於テ正式ニ之ヲ付与シ文書ヲ以テ本使ニ通告セラルコト然ルヘク天津ニ於ケル談合モ右ノ通ナリシ由ナリ祝カ交渉ノ任ニ当リタルハ誠ニ結構ナルモ形式上明確ニ文書ニテ通告ヲ得タシト述ヘタルニ沈秘書ハ早速次長ニ更ニ伝達スヘキ旨答ヘテ辞去セリ以上今日迄ノ經過不取敢
外務大臣ニ転電セリ

五五七 三月二十七日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍撤退ニ関スル内情等報告ノ件

第二一七号

(三月二十八日接受)

(一)直魯連合軍ノ先發裝甲車隊ハ二十六日朝安定ニ至リ魏善庄ヲ経テ黃村方面ニ前進シ国民軍ト対峙中ニシテ既ニ小衝突ヲ見タリト伝ヘラレ京漢線方面ヨリ引揚ケタル国民軍ハ全部豊台方面ニ急派セラレ連合軍ノ北進ニ備ヘツツアリ豊台方面在住外国人ハ既ニ悉ク北京ニ引揚ケ各国公使館衛隊ニ於テハ夫々非常ノ場合ニ於ケル措置ヲ取リツ

ツアリ鹿鍾麟ハ全責任ヲ以テ京師ノ警備ニ当ルト称シツツアリ市内ハ差当リ平靜ナルモ人心不安ニ満サレ居レリ(二)所謂調人連(王士珍、趙爾巽等ノ和平運動者)ハ国民軍ハ結局北京ヲ退却スヘキ運命ニアリト認メ極力鹿ヲ説得シ此際吳炳湘ノ如キ人物ニ警察總監ノ地位ヲ讓リ北京退却ノ際ニ於ケル北京城内ノ不祥事發生ヲ避ケシメント努メツツアルモ鹿ハ頑トシテ之ニ応セス何処迄モ京師ニ踏止マリ南苑、豊台方面ニテ一大決戦ヲ為シ局面ヲ自己ニ有利ニ展開シタル後始メテ北京ヲ引揚ケヘシト揚言シ居ルモ内実ハ目下当地銀行家等ニ四百萬元ノ軍費調達ヲ命シ居リ右軍資金ヲ得ル迄北京ニ止マラントスルニ在ルモノノ如ク之ニ対シ銀行家連ハ表面調達スルカ如キ顔ヲ見セ種々口実ヲ設ケ往再シツアリト云フ尤モ二十七日内閣スル処ニ抛レハ鹿モ内々既ニ引揚ケニ決心シ私財ノ保護方ニ苦心シ居ル趣ナリ前記吳炳湘ヲ總監ニ為サントスルハ同人ハ安徽人ニシテ段ト同郷ニシテ段ノ受ケモ好ク昨年迄安徽善後事宜督弁ニシテ奉天側トモ連絡アリ且同人ハ曾王ノ次ニ警察總監タルコトアリ一般市民ノ氣受ケ宜敷ニ依リ此際警察隊ヲ鹿ノ手ヨリ同人ニ移シ万一ノ場

合ハ執政府衛隊ト協力シテ京師ノ治安維持ニ任セントスルモノニシテ彼ハ未タ応諾ヲ表示セサルモ内心ハ受諾ノ意有ルモノノ如シ

五五八 三月二十七日

在ソ連邦田中大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍敗北ニ関スルソ連邦各紙論說報告ノ件

第一一三号

(三月二十八日接受)

屢次報告ノ通国民軍ノ実力ヲ利用シ国民党ノ標榜セル革命的国民運動ヲ實現セシムル事ヲ自己ノ利益トナシタル「ソ」連邦ハ最近第一国民軍敗北ノ報ニ接シ大イニ失望セルモノノ如ク二十五日ノ「イズウェスチャ」二十六日ノ「ブラウダ」(「カール・ラデック」ノ論說)二十七日ノ「グドク」等其論說欄ニ於テ何レモ其敗北ノ支那革命運動ニトリ大ナル打撃ナル事ヲ認メ或ハ北京ヲモ抛棄セサル可ラサルヤモ知レスト述ヘ敗北ノ理由トシテ国民軍内部ノ結果薄弱ナル事帝國主義的列強ノ後援ヲ受ケ居ル吳、張ノ提携セル事国民軍力支那革命ノ産ミタルモノニ非スシテ旧軍閥ノ組織セル軍隊ノ一部ニシテ革命達成ノ為充分ノ自覺ト組織ヲ有セサル事革命家ニ不便ナル人口稀薄未開ノ地ニ根拠ヲ有スル

事等ヲ列挙シタル後、張ノ提携ハ共同ノ敵ヲ破ラシメ、一時ノ妥協ニシテ将来必ス衝突ヲ脱レサル可ク列國ノ利害亦一致スルモノニ非サレハ永ク協調ヲ許ササル可ク、旁々國民軍ニシテ静ニ休養シ國民運動ト更ニ一層密接ナル提携ヲ為スに於テハ南方ニ國民運動ノ意氣大イニ揚ルアリ中部及北部ニ於ケル労働団体ノ運動ト相俟テ再挙ノ機有ル可シト論ス

北京ニ転電シ奉天及哈爾濱ニ転電セシム

五五九 三月二十八日(着)

在蕪湖藤村領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京事件支援ノ示威運動ニツキ報告ノ件

第五号

今二十七日蕪湖学生連合会主催ニ係ル北京事件後援ノ示威運動有リ参加学生約二千名ニ達シ午前十時ヨリ市内ヲ游行シ帝國主義及軍閥ノ打破ヲ唱ヘ又數種ノ伝單ヲ市内ニ撒布セルカ該行列ノ当館並邦人商店前通過ニ際シテハ特ニ日本帝國主義ヲ打破セヨト叫ビ尚伝單ニハ北京事變ハ大沽日本軍艦ノ砲撃ニ基因セル事ヲ記載セルモノアリシ等稍々注意ヲ喚起セルカ主トシテ帝國主義及軍閥ノ打破、國民政府ノ

ヲ援助シテ大沽砲台ヲ攻撃シ國民軍之ニ応射シタルニ八國公使連合シテ抗議ヲ提出シタルコト及北京市民憤慨シ示威游行ヲ舉行セルニ段政府衛隊ハ発砲シテ市民二十四名ヲ斃シタルコトヲ報告シ吾國人ハ直ニ起ツテ救ハスンハ亡國ハ目前ニ迫ルヘン依テ今日特ニ各団体代表ヲ召集シ対策ヲ講究スル旨ヲ述ヘ次テ國民黨省党部代表王基永起チテ國民黨最近ノ狀況ヲ報告シ今次ノ大沽問題ニ言及シ北京ニテハ既ニ數十人斃レタルカ抑本問題ハ源ヲ五三十慘案ニ発シ英日帝國主義者カ鉄血政策ヲ以テ我國人ニ逼リタルニ付其結果反テ吾人ノ奮闘ヲ促シ香港繁華ノ埠モ今ヤ已ニ變シテ荒島トナレリ日本亦抵制ニ因テ甚大ナル損失ヲ受ケ且国内ニハ無産階級ノ革命ヲ發生シタリ又中国軍閥中英日ノ走狗トナレル者モ亦次第ニ崩壊シタルニ付英日ハ此種政策ノ不可能ナルヲ覺リテ直接行動ヲ執ルニ至リ奉天派ノ軍艦ヲ率ヒテ大沽ヲ攻メ國民軍ヲ傾覆シ國民政府ヲ倒壊セントス斯カル恐ルヘキ消息ニ接シ吾人ハ一致起ツテ奮闘セサルヘカラスト述ヘ討論ノ結果左記要点ノ決議ヲ通過セリ

一、湖南人民反英日討吳行動委員會ヲ成立シ委員九人ヲ以テ之ヲ組織ス

樹立、段祺瑞ノ膺懲ヲ標榜シ居リ正午無事散会セリ当地官憲ハ最初該游行ヲ禁スル方針ナリシモ斯テハ却テ民心ヲ激セシムルニ至ル可キヲ惧レ昨夜ニ至リ遂ニ之ヲ許可シ市内ノ警戒ハ軍隊及警察ヲ以テ相当嚴重ニ行ハレ居タリ在支公使ニ転電シ南京ヘ暗送セリ

五六〇 三月二十九日

在長沙野田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽事件及北京学生殺傷反對示威運動ニ関

シ報告ノ件

公信第七六号

(四月十四日接受)

大正十五年三月二十九日

在長沙

領事代理 野田 実之助(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件及北京学生殺傷反對示威運動ニ関シ報告ノ件

大沽事件及北京学生殺傷事件ニ関シ当地各種団体代表ハ三月二十二日長沙県教育会ニ於テ緊急會議ヲ開キ反對運動ヲ協議シ雪恥会代表曹羽儀先ツ演説シテ今次英日軍艦張作霖

二、三月二十五日游街ヲ舉行ス

三、省内外各方面ニ通電ヲ発ス

四、示威巡行ノ日ハ本省各師長ニ代表ヲ派シ出兵討吳ヲ要求ス

五、宣伝隊ヲ組織シ演説ヲ為シ標語ノ貼布ヲナス

六、示威巡行ノ日ハ一律ニ罷工、罷学罷市ヲ行フ

七、電報ヲ以テ北京市民ヲ慰問ス(以下省略)

次テ反英日討吳行動委員會ハ二十三日執行委員會ヲ召集シ數時間ニ亘リテ商議シ(一)行動委員會内部ノ組織及分担(二)經費(三)游街大会ノ組織(四)請願書起草(五)宣言ノ起草其他ノ事項ヲ決議シ夫々準備ニ着手セリ又市内到ル所ニ宣伝文ヲ貼付セリ

二十五日午前九時總商會、省農會、女界連合會、学生連合會、工団連合會及其他各學校、各工會等各種団体約五千人省教育會ニ集合シ主席王基永ハ開會ノ趣旨ヲ報告シ前述セルト同意味ノ演説ヲナシ左記議案ヲ逐条宣讀シ満場ノ賛成ヲ經タリ

一、直ニ出兵シテ吳佩孚ヲ討伐ス

二、段祺瑞討伐ヲ通電ス

四大沽事件 五六一

三、北京公使団ニ対シ結問ノ電報ヲ発ス

四、国民軍援助ノ通電ヲ発ス

五、広東政府ニ出兵北伐方ヲ電請ス

六、愛国運動ノ自由ヲ保障シ雪恥会ノ行動ニ干渉スルヲ得サラシム

七、省教育会駐劄ノ軍隊ヲ撤退セシム(原註)此種示威運動ハ常ニ省教育会ニテ行ハル、最近之ヲ防止スル為メ軍隊ヲ派遣シ居レリ

八、絶対ニ人民ノ集会、結社、言論、出版ノ自由ヲ保護ス

九、政府ニ請フテ救国軍ニ軍器ヲ発給セシム

一〇、章士釗(劍力)ヲ省党籍ヨリ除名ス

次テ民党中央部委員及省議員交々起チテ北京今次ノ惨案發生ノ原因ハ全ク英日ト吳佩孚トノ致セル所ナルヲ以テ我愛國ノ民衆ト軍隊トハ起ツテ吳佩孚ヲ討タサルヘカラス、民衆ハ国民党ノ旗幟ノ下ニ一致シテ革命ニ努力セヨ等ト述ヘタリ

右終リテ游街運動ニ移レルカ行列参加者ハ国民党省党部、雪恥会ヲ中堅トシ男女学生(小学生共)、工人、無頼漢等

在長沙

領事代理 野田 実之助(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件及北京学生殺傷事件反対示威游街団ノ暴行ニ関シ報告ノ件

大沽事件及北京学生殺傷事件反対示威運動ノ概要ニ関シテハ本日付公信第七六号報告ノ通りナルカ三月二十五日国民党省党部、雪恥会ヲ中堅トシ男女学生、工人、無頼漢等約二千名ヨリ成ル游街団ハ予定ノ順路ニ依リ市街ヲ游行シ午後二時先鋒ハ当館前ニ達シ先ツ二、三名ノ者当館ニ警告書ヲ(前頭公信第七六号添付甲号)提出シテ立チ去リ行列ノ三分ノ一位迄ハ無事進行シタルカ国民党省党部ノ一団当館前ニ差シ掛レル頃ヨリ行列ハ停止シ「打倒日本帝国主义」ノ標語ヲ連呼シテ氣勢ヲ揚ケ居ル中二、三名ノ熱狂セル者当館構内ニ向ツテ投石シ初メ次テ学生服ヲ着ケ手ニ手ニ六尺余ノ頑丈ナル棍棒ヲ所持セル雪恥会糾察隊員ラシキ者(総数四、五十名アリ)二、三組ニ分レテ暴行セリノ一組ハ先ツ当館正門前ノ巡警小屋(六角形木造ノ粗末ナルモノ)ヲ押シ倒シ原形ヲ止メサル迄ニ粉碎シ更ニ開キアリタル大

五〇〇

総数約二千名ニ達セリ会衆ハ口々ニ各種ノ口号ヲ喊呼シ行ク行ク伝單ヲ配布シ小呉門ヨリ唐督弁行署(唐生智ハ代理省長就任迄講武堂ニ督弁行署ヲ設ケタリ)ニ至リタルニ唐ハ門外ニ出テ群集ニ向テ演説シ其愛国運動ヲ激励スル所アリタリ次テ予定ノ順路ニ依リ市街ヲ游行シ当館其他ニ於テ本日付公信第七七号ノ通り暴行ヲ演シ午後三時教育会ニ帰着シテ散会セリ

右游行ニ際シ当館ニ対シテハ別紙甲号訳文ノ警告書ヲ又英國領事館ニ対シテハ別紙乙号訳文ノ警告書ヲ提出セリ尚ホ同日配布セル伝單ハ二、三十種類ニ上レルカ其中三種ノ訳文(省略)丁、戊、己号ヲ御参考迄茲ニ添付ス右報告ス

本信写送付先 在支公使、漢口、上海、広東各総領事

五六一 三月二十九日 在長沙野田領事代理ヨリ幣原外務大臣宛

大沽及ビ北京学生殺傷事件反対示威游街団ノ暴行ニ関シ報告ノ件

公信第七七号 (四月十四日接受)

大正十五年三月二十九日

門扉(木製)ヲ使用ニ堪ヘサル程度ニ突キ破リ次テ門衛小屋ノ硝子戸全部ヲ破壊シ数名ノ者ハ構内深く闖入シ来リ事務所玄関ノ硝子戸腰板二枚、窓硝子(硝子戸五枚分ニ相当ス)事務所窓硝子数枚(硝子戸三枚分)館員官舎ノ窓硝子(硝子戸二枚分)ヲ棍棒及投石ニ依リ破壊シタリ之ト同時ニ他ノ一組ハ領事官舎大門扉(木製、平常ハ閉鎖シアリ)ヲ散々ニ突キ破リ又其他ノ者ハ棍棒ヲ以テ煉瓦塀数箇所ノ瓦ヲ剥シ或ハ塀ノ中程ニ数個ノ穴ヲ穿テリ右ノ暴行ハ殆ント總テ彼等ノ携帯セル同形棍棒ヲ以テ行ハレ一時ハ事務所及館員官舎内マテ侵入スルニ非スヤトモ思ハレタルヲ以テ館員家族ハ多大ノ恐怖ヲ感シタリ殊ニ前記館員官舎ハ事務所ニ隣接シ第一階ニ在リ闖入者ハ外部ヨリ棍棒ヲ以テ居室ノ窓硝子ヲ破壊シタルヲ以テ若シ家族避難セサリシナラハ負傷ヲ免レサリシ次第ナルモ偶々階上ニ去リ居タル為メ其難ヲ免レタリ如斯暴行ヲ演スルコト約二十分ニシテ引上ケ当館前ニ停止セル行列モ進行ヲ続ケタリ

尚ホ行列ノ沿道ニ在ル日本商店中島洋行ハ万一ヲ慮リ門扉ヲ閉サシ居リシ処行列通過ニ際シ棍棒ヲ以テ窓全部(六個)ノ鎧戸板戸及窓硝子ヲ破壊セラレ修繕費約四十弗ヲ要

スル損害ヲ蒙レリ但シ本邦商店数軒集在スル小西門外河街及日清汽船、戴生昌付近ハ游街ノ順路外ナリシヲ以テ何等事故ノ発生ヲ見サリキ英米領事ニ問合セタル処英國商店ハ游街ノ順路ニ当ラサリシ為メ英國側ニハ何等損害ナカリシモ米國側ニテハ聖公会所属教会ノ窓硝子多数破壊セラレタル趣ナリ

該運動ノ計画ヲ知ルヤ小官三月二十三日鄧代理交渉員ニ対シ大沽事件ノ真相ヲ説明シ省政府側ニ於テ誤解ナキ様取計方ヲ希望スルト共ニ右游街運動ヲ禁止シ以テ事端ノ発生ヲ未然ニ防止セラレタキ旨警告シ更ニ二十四日大沽事件ハ日支兩國間ニ完全ニ解決シタルヲ以テ反対游街運動ハ之ヲ禁止セラレタク万一右運動ヲ許可スル場合ニハ十分ノ警備ヲナシ事件ノ発生ヲ防止セラレタキ旨重ネテ申入レ置キタリ其結果游街運動日ニハ當館付近ニ軍隊約八十名巡警約二十名ヲ午前中ヨリ派遣シ其他本邦商店付近、英國領事館（水陸州）、英國商店付近等ニ対シ夫々軍隊ヲ派遣シ且游街団ノ前後ニモ從來通り軍隊ヲ付シ形式的ニハ相當警備上ノ手配ヲ取り居タルモ此等軍隊ハ當館並ニ中島洋行ニ於ケル前記暴行ヲ阻止スルニ何等効果ナカリシハ從來ノ通ナリキ

本信写送付先 在支公使、漢口、上海各總領事

五六二 三月三十一日

在汕頭内田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽事件及北京學生射殺事件ノ影響ニ関シ

報告ノ件

機密第七六号

（四月十二日接受）

大正十五年三月三十一日

在汕頭

領事代理 副領事 内田 五郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽砲撃及北京學生射殺事件ノ影響ニ関シ報告ノ件

大沽砲撃及北京學生射殺事件ニ付テハ当地国民党ハ絶好ノ論戰題目ヲ握リタリト悦ビ御用新聞ハ筆ヲ揃ヘテ書キ立テ大沽事件ニ付テハ漫然其責日本ニ在リト断シ滿州出兵援張殺郭ヲ又々担キ出シ排日ヲ煽リ北京學生射殺事件ニ付テハ帝國主義走狗、反革命的軍閥ヲ屠レト騒ギ立テ政府筋及国民党ノ肝煎ニテ各國侵略反対大同盟ナルモノ成立シ最近顯レ出テタル國民會議促成会ト合体シテ盛ニ新聞ニ伝單ニ彼

二十七日ノ支那新聞（前頭第七六号信ノ通二十五日ハ罷工セルタメ二十六日ハ休刊）ハ孰レモ本件示威運動ニ関スル詳細ナル記事ヲ掲ケ日英領事宛警告書ヲ掲載シタルカ多クハ游街運動カ秩序整然ト行ハレ些ノ越軌行動ナカリシ旨ヲ報道セリ只一新聞ノミハ「該游街運動ハ整肅ニ行ハレタルモ日本領事館前通過ニ際シ同館日本人ハ故意ニ巡警小屋ヲ破壊シ罪ヲ游街ノ群衆ニ帰セント図リタルカ素ト巡警小屋ハ長沙警察庁ノ所属ニシテ之ニヨリ何等交渉事件ヲ発生スルモノニアラス日本人ノ詭計陰謀笑フヘク且恥ツヘシ」ト記載シタリ御承知ノ通り當館建物（館員官舎ヲ含ム）及領事官舎ハ交渉署ノ所属ニシテ右暴行ニ依ル破損ニ対シテハ當館ハ損害賠償ヲ要求シ一方直ニ修繕ニ着手セシメタルカ右修繕費（四、五十弗ノ見積）ハ結局交渉署又ハ省政府ノ負担ニ歸スル筈ナリ又巡警小屋ハ警察庁ニ於テ早速代用品ヲ運搬シ来リ据付ケタリ

右暴行ノ大要ニ付テハ不取敢往電第一一号ヲ以テ報告シ置キタルモ該電報補遺旁暴行ノ經過及損害ノ程度茲ニ報告申進ス本件交渉ノ成行ニ就テハ別信ヲ以テ報告ノ筈ナリ尚御参考ノ為メ破損狀況ヲ示セル写真四葉ヲ添付ス

等一流ノ宣伝ニ努メ二十七日ノ幹部会ニ於テ二十九日ニ大示威運動ヲ舉行スルコトニ決シ商、工、農、学全体（交通機關従業者ヲ除ク）休業スヘク之ニ服セサルモノニハ反革命ノ号ヲ贈ルト威嚇シタル為二十九日当日ハ市内一般店舗ヲ閉チ会場ニ集ルモノ工界五十団、商界二十四団、学界四十八団之ニ巡警練習生ノ一隊ヲ加ヘ合計百二十三団体総人員一万数千ヲ算シ現場ニハ舞台ヲ設ケ倒段廢約大運動ナル横額ヲ掲ケ二三ノ演說アリ正午十二時隊ヲ組ンテ巡行ニ移リ例ノ通手旗ヲ押シ立テ貧弱ナル大鼓ヲ鳴ラシ外馬路ヨリ總司令部南側當館ノ前方ヨリ左折シテ内馬路福平路等ヲ練リ巡リ一巡ノ後行列参加者ハ革命ニ忠ナルモノトシテ各自小洋二十仙ト饅頭ノ御褒美ヲ頂戴シ引揚ケ大体ニ於テ静肅裡ニ無事御祭騒ヲ終了シタリ

当日市内ハ到ル処ニ國民會議實現即チ民權政治ノ実頭、打倒英日帝國主義的走狗吳佩孚、張作霖、段祺瑞、國民軍援助、北伐出師擁護、辛丑条約廢棄、用人民自己の力量、起來廢除平等条約、國民會議の成敗中国存亡の關鍵、促成國民會議、組織人民政治達到民權自由等ノ伝單ヲ貼付又ハ散布シタルモ本示威運動ハ三民主義ヲ奉スルモノノ常套行

四大沽事件 五六三

事ニシテ内政の政争ニ依ル段派攻撃国民政府擁護ヲ主トシ之ニ帝國主義排斥ヲ付ケ加ヘタルニ過キス大沽事件ノ為具體的排日等ノ再発ヲ見ルカ如キコト万々無之見込ナリ当日散布ノ伝單^(省略)十数種御参考迄ニ添付ス

本信写送付先 在支公使、天津、上海、広東、香港、台

湾総督、馬公司令官

五六三 四月一日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍ニ対スル方針及ビ地盤問題等奉天側内

情報ノ件

第九六号

(四月二日接受)

秦皇島ニ於ケル張作霖、張宗昌等ノ會議内容ハ明白ナラサルモ(一)国民軍ニ対スル方針(二)地盤問題等カ其主ナルモノタリシハ事実ナルカ如シ対国民軍問題ニ就キ奉天側ノ内情ニ通セル支那要人等ノ談ヲ総合スルニ奉天トシテハ赤化(一字不明)首領タル馮カ国外ニ去リ国民第一軍カ北京ヲ棄テ張家口ニ引込ムニ於テハ必スシモ之ヲ追窮セス王士珍等ノ和平ニ耳ヲ傾クルニ吝ナラサルモ第一軍カ北京ヲ棄ツルヤ否ヤ明白ナラサルト同時ニ吳佩孚方面ノ意向モ明白ナラ

在支公使ニ暗送セリ

五六四 四月一日 在漢口高尾総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

北京学生射殺事件ニ関連シ排外運動激化ノ状

況報告ノ件

第九三号

(四月二日接受)

執政府前ニ於ケル軍隊学生ノ衝突事件及之ニ関連スル各地ノ排外運動ニ関シ昨今漢字新聞ニ誇大ニ掲載セラレ又最近長沙方面ヨリ国民党ノ左傾分子多数当地ヘ入込ミタル形跡アリ之カ為武漢ニ於ケル学生派俄ニ活動ヲ始メ昨三十一日武昌ニ於テ死傷北京学生追悼会、反帝國主義反軍閥ノ大会ヲ開キ段祺瑞攻撃、日英帝國主義及一般帝國主義打破、不平等条約廢棄、軍閥反対ノ演說数番ノ後口々ニ段祺瑞等帝國主義打破軍閥反対ヲ絶叫シツツ軍隊ノ嚴重警戒裡ニ武昌市街ヲ游行シ宣伝札数種ヲ散布シタルカ就中武昌商科大学々生等ノ伝單ノ如キ大沽事件ハ日本カ奉天軍ヲ援助シ国民軍ヲ压迫シタル結果ニシテ日本公使ハ極力最終議定書ニ調印セル各国ヲ慫慂シ遂ニ列国力最後通牒ヲ発スルニ至リタルモノナリトシ居タリ

四大沽事件 五六四 五六五

五〇四

サル今日ニアリテハ戦争継続ヲ主張スルヨリ外無シトスルモノノ如シ

(王士珍等ハ代表三多等ハ実力方面ト接洽ノ為二十八日天津ニ来リタルモ偶々李景林、張宗昌等秦皇島ニ赴キ不在ナリシ為之ト面会スルヲ得ス昨三十一日初メテ会见シタル由ナリ)又地盤問題ニ就テハ張宗昌依然山東ヲ領シ直隸ニハ李景林カ然ラスンハ褚玉璞ニ決定ス可シト云ヒ或ハ山東ハ褚玉璞、直隸ハ張宗昌ナリト伝ヘラルルモ真相判明セス只今次戦争ノ殊勲者タル褚玉璞ニ重要ナル地位ヲ与フル必要有ルハ事実ナルカ如シ

何レニスルモ直隸、山東地盤問題ノ決定ハ更ニ時局ノ發展ヲ待タントスルモノナル可シ(李景林カ内心直隸ヲ欲シ居ルハ被フヘカラス各部長官ハ一時的ニモセヨ皆李景林派ヲ以テ充実シ居レリ)尚張宗昌ハ急ニ山東ニ帰ル模様無シトノ事ナルカ右ハ直魯連軍ト云フモ李景林ノ部下ハ極メテ少数故同軍カ北京ニ攻略ニ向フ場合李景林一人ニテ之ヲ指揮スル事ハ困難ニシテ張宗昌ノ同伴ヲ必要トスルカ為ナル可シト云フ

上海、漢口、濟南、奉天、南京ニ転電シ

右学生ノ排日英及一般排外運動ハ裏面ニ於テ国民党員ノ使喚アルハ明瞭ナル事実ニシテ当日ハ湖北国民党省党部及市党部ノ名ヲ以テ激烈ナル排外運動煽動ノ伝單多数ヲ散布シタリスノ如ク昨今当方面ニ於テハ湖南ノ動搖ニツレ排日英及一般排外運動再燃ノ徴アル為省当局ニ於テハ一層警戒ヲ厳ニシツツ在リ

北京、天津、奉天、上海、南京、蕪湖、九江、長沙ヘ転電セリ

五六五 四月一日 在上海岩松中佐ヨリ
松井少将宛(電報)

国民党右派ノ反共運動援助方意見具申ノ件

上海電第一五号 (外務省接受月日不明)

予テ磯谷中佐ヨリ申出アル如ク山田純三郎ハ上海ニ於テ国民党右傾派ト共ニ日本ノ後援ヲ得反共産運動ヲ画策スヘク当地ニ来レリ支那側ニテハ張繼、許崇智等ヲ中心トシ近ク帰國スル胡漢民ヲ広東ニ迎ヘ大ニ反共産熱ヲ熾リ広東ヨリ共産派ヲ驅逐スル計畫ニテ二十九日ヨリ既ニ同志ノ大会ヲ開キアリ今次広東ノ「クーデター」ハ此等運動ニ先チ自己ノ立場ヲ擁護シ其不人氣ヲ恢復セントノ蔣介石ノ自発的行為ナルカ如ク既ニ「キサカ」(ボロジン代理)初メ有力露人十

(欄外記入一)

四 大 沽 事 件 五 六 六

数名ハ広東ヲ去リ漸ク反露熱高マラントス此機ヲ利用シ右運動ヲ援助スルハ日支兩國ノ為極メテ必要ナルモ山田ハ目下其生活頗ル不安ニシテ支那側ノ扶助ヲ受クルコトナク自由ニ活動セシムル為当地民間ノ援助ハ充分ナラス從テ再ヒ広東ニ帰ルヘク考慮中ナリ今後本部ヨリ月々同人ニ対シ二百円内外ノ支給ヲ受ケ得サルヤ御配慮アリ度ク至急返待ツ

(欄外記入二) 松井少將ト話スミ

(欄外記入二) 外務省ヨリハ一定額支給シ居レリ

五 六 六 四月一日 在安東西沢領事ヨリ
幣原外務大臣宛

上海市民外交大会ノ大沽事件ニ関スル宣言書

ニ 関 ス ル 件

普通第一〇八号 (四月六日接受)

大正十五年四月一日

在安東

領事 西沢 義徴(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件宣言書ニ関スル件

過般当地支那側青年会ニ於テハ上海市民外交大会ヨリ左記

実ヲ迹タルニ兇暴横行其ノ極ヲ用ヒサルナシ張、郭、^(或)戊興ルヤ日本機ニ乗シテ出兵シ侵略ヲ行フ此次馮奉内戦ニ当リ又擅ニ干涉ヲ加ヘ甚タシキハ我カ兵ヲ砲撃スルニ至ル其ノ主權ヲ蔑視スル復タ加フヘキナシ嗟乎誰カ家室ナカラン誰カ妻孥ナカラン此ノ兇暴ニ遭ヒ忍ハントシテ忍ヒス安ンセントシテ安ンセス戰時國際公法ニ照ラスニ何國軍艦ヲ論セス軍事臨檢ヲ遵守スヘシ然ラサレハ事端ヲ醸成スルモ該國政府全責ヲ負フヘシト此次日本公法ニ違反シ擅ニ暴力ヲ加ヘテ列強ノ脅迫ヲ引起シ内乱ヲ助長シ挑撥ヲ起サシム日本其ノ禍首タリ此ノ儘推移セハ亡國遠キニアラサルヘシ近代民心ノ激昂ハ既ニ昔日ノ比ニアラス血ハ流スヘシ志ハ終ニ奪フテ全國同胞共ニ起チテ反抗シ以テ國恥ヲ雪キ此ノ禍首ヲ制セヨ

上海市民外交大会

五 六 七 四月二日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件処理方ニツキ天津交渉員ニ命ジタル

旨外交部ヨリ申越シアリタル件

第二三三三号

四 大 沽 事 件 五 六 七 五 六 八

五〇六
ノ如キ宣言書ヲ入手シタル趣ナルニ付何等御参考迄此段報告申進ス

本信写送付先 在支公使、奉天、天津、上海各總領事

記

嗚呼今ヤ如何ナル時ソヤ外侮交々迫リ危急存亡ノ秋ニ非ラスヤ大沽ハ我國ノ領土ニシテ國防ニ關係ス内争ノ如何ヲ論セス外人ハ始終干涉ノ理ナシ詎ンソ知ラン日艦原約ヲ守ラス突然本月十二日午後三時軍事当局ノ臨檢ヲ遵守セス敢テ発砲轟撃シ兵士十三人ノ多キヲ殺傷ス其ノ我主權ヲ蔑視スル此ニ至リテ既ニ極レリト云フヘシ

査スルニ庚子ノ変起リ清廷ヲ擾乱スルノ罪魁禍首亦日本浪人ノ其ノ事ヲ首倡スルニ係ル長沙ノ一大慘劇亦伏見兵艦ノ水兵上陸シ行人六七名ヲ殺傷ス下関ノ瓜壳千早丸水兵ノ為メ殺サレ其ノ屍ヲ江ニ抛棄セラル日本震災ノ巨変ニ対シ我國ハ方ニ救災恤隣ノ義ヲ尽シタルニ而カモ日人機ニ乗シテ銃殺スルコト百ヲ以テ数フ今ニ至ル迄交渉一モ結果ナシ去年五卅慘案ハ其ノ禍変ノ發動亦日人ノ顧正紅ヲ擊殺シタルヨリ起因ス屢次ノ慘案ヲ按スルニ均シク日人ニヨリ之ヲ首倡ス而シテ日人猶曰ク中日親善東亞和平ト其ノ得ル処ノ事

本官發天津宛電報第七四号

往電第六九号末段ニ関シ

外交部ヨリ三月三十日付書面ニテ大要左ノ通申越シタリ
本件ニ関シテハ別ニ委細電報スヘキモ不取敢本件ハ曩ニ沈秘書ヲシテ打合サシメタルカ元来大沽港内ニ發生セルモノニテ在天津總領事ト天津交渉員ト該地ニ於テ処理シ公平ニ解決スル方便利ナリ既ニ該特派交渉員ニ命シ処置セシムルコトトシタルニ付日本總領事ニ轉達ノ上交渉員ト共ニ和衷解決ヲ図ラシメラレタシ
外務大臣ヘ転電セリ

五 六 八 四月二日(着) 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

唐之道軍ノ北京入城ト鹿鍾麟軍ノ北京撤退ノ

予想ニツキ報告ノ件

第二三七号

往電第二三〇号ニ関シ

(一)唐ノ軍隊ハ其後ボツボツ入城シツツアル模様ナルカ唐之道ノ態度ハ近来特ニ不鮮明ニシテ段派国民軍ニ対シ何レモ密接ナル連絡ヲ有スルト共ニ鹿モ不即不離ノ關係ニアリテ

五〇七

五〇八

(二)往電第二二一號五十萬元ハ全部段ノ手ニ入り鹿ハ北京撤退ノ腹ヲ定メ居ルモ軍隊移動ノ為ニハ八十萬元ヲ要スル趣ニテ目下其金策ニ腐心シ居リ内五十萬元ハ劉祺ヲシテ曾毓雋ニ泣付キ銀行家間ニ斡旋セシメタル結果略融通ノ見込立チタリトモ称セラレ尙三十萬元ノ調達ニ奔走中ナル趣ナレハ遠カラス北京ヲ撤退スルコトナルヘク唐之道軍ハ其儘北京ニ止マルコトトナルヘシ尙京津間ノ鐵道ハ今尚不通ナルモ自働車ハ其順路唐之道軍ノ駐屯地ニシテ大ナル敵対行為ナキ為相當往復シ居リ通信並ニ物貨輸送ノ連絡ヲナシツツアリ

五
六
九
四
月
二
日
右
中
國
外
務
大
臣
宛
（
電
報
）

事件解決条項ヲ提示シ事態猶予ヲ許サザル旨
報告ノ件

別電一 四月二日着在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛

如キ書面ヲ送付シ来レルモ鹿ノ態度右ノ如キ次第ナルヲ以テ天津ニ於ケル交渉ハ有望ナリトノ土肥原ノ報告モ余リ重ヲ置キ難カル可ク然ルニ北京ニ於ケル政情ハ屢次ノ拙電ニテ御推知ヲ得可キ通ニシテ鹿ノ北京撤退モ迫リ居ルモノノ如ク而シテ鹿ノ北京撤退後ハ鹿ヲシテ其非違ヲ自認セシムル事殆ト不可能ト云フ可ク果シテ然リトセハ此上要求条件ノ提出ヲ見合ハセ難ク旁々成否ハ兎ニ角トシテ（今日ト雖モ解決ハ勿論樂觀シ難シ）鹿ノ退京ニ先立チ此際楊村事件（編註）ヲ合併セテ支那政府ニ対シ嚴重且正式ニ我要求条件ヲ提出スル事得策且喫緊事ト認メタルヲ以テ四月一日日本使胡外交

(一) 先ツ大沽事件ニ関シ事件發生以來既ニ三週間ヲ經過シタルモ未タ何等具體的解決ノ曙光ヲ認メ難キハ痛恨ニ堪ヘス実ハ帝國政府ヨリ疾ク訓令ニ接シタルモ偏ニ穩便ナル解決ヲ企図シ今日迄解決条項ノ提出ヲ差控ヘ來レル次第ナルモ此上遷延ヲ許シ難シトテ貴電第七一号ノ主旨ヲ適宜摘述シ別電第二三九號解決条項ヲ列記セル覚書ヲ手交シ且貴電御來示ノ主旨ヲ布衍説示シタルニ胡總長ハ本件解決促進方ハ御尤ノ事乍ラ支那現下ノ時局ハ御承知ノ通

五〇九

大沽事件解決条項

二 四月二日着在中国芳沢公使發幣原外務大臣宛
電報第二四〇号

楊村事件解決条項

第二三八号

(四月三日接受)

大沽事件ノ交渉ニ関スル經過ハ屢次ノ拙電ニテ御承知ノ通
ニテ仮令正式ニ要求条件ヲ提出スルモ本件最高責任者タル
鹿鍾麟ニシテ国民軍側ノ非行ヲ自認セサル以上交渉ノ進捗
セサル可キコト明白ナルヲ以テ先ツ鹿ヲシテ其ノ非違ヲ自
認セシムルコト本件解決ノ先決問題ト認メ往電第二〇〇号
ノ通鹿ニ嚴談シタルモ鹿ハ本使ノ切実ナル説得ニ対シ依然
天津以來ノ詭弁ヲ弄シタルノミナラス其ノ後ニ於テモ当初
ノ主張ヲ固持シ現ニ同人ハ二十九日内外新聞記者招待ノ席
上ニ於テ大沽事件ニ言及シ事件ノ責日本側ニモアルカ如キ
口吻ヲ洩シタル有様ニテ其ノ態度ニ於テ殆ント誠意ノ認ム
ヘキモノナキノミナラス一方津田大佐ヲシテ高振龍ヲ説キ
側面ヨリ鹿ヲ反省セシメントシタルモ今日迄高トノ會見ハ
容易ニ行ハレス然ルニ他面天津ニ於ケル交渉開始方ニ関シ
テハ漸ク三十一日ニ至リ外交部ヨリ天津宛電報第四七号ノ

リ頗ル困難ナル事態ナリト訴ヘタルニ付本使ハ時局ノ現
狀ハサル事乍ラ我方ノ立場ヨリセハ此種重大案件ノ解決
遷延ヲ許シ難シトテ重ネテ事件ノ性質極メテ重大ナルヲ
力説シタル上三月三十日付外交部書簡ニ言及シ天津交渉
員ニ対シ重ネテ交渉促進嚴訓方ヲ要求シ且該交渉員トハ
祝惺元ノコトナリヤト質シタルニ胡總長ノ答弁甚タ曖昧
ニシテ或ハ李景林ニ於テ別ニ交渉員ヲ任命セル模様ナル
カ故天津ニ於ケル交渉モ多少遅延スルヤモ知レスト答ヘ
本使ヨリ交渉員ニ対シ更ニ本件交渉促進ノ訓令發送方ヲ
繰返シ要求シタルモ胡總長ハ既ニ三十日一応訓令済ニ付
兎ニ角先方ノ報告ヲ俟ツコトトシタシ將又天津ヘノ訓令
ハ單ニ「交渉員」宛トナシアリタリトテ其ノ答フル処甚
タ不得要領ニシテ唯本使再三ノ追求ニ対シ天津ニ於ケル
交渉促進方ニ関シテハ此ノ上トモ絶エス注意ヲ払フ可シ
ト言明セルニ過キス尚主トシテ学生等カ本事件ノ責任日
本側ニ在リトテ無稽ノ宣伝ヲ試ミツツアリ其ノ反響ノ予
測シ難キヲ慮リ本使ハ胡總長ニ対シ本件交渉進行ノ内容
ヲ秘密ニ付スル方現下ノ時局ニ顧ミ解決促進上得策ト思
考スル旨提言シタルニ同總長ハ同感ノ意ヲ表セリ

四大沽事件 五七〇

(二)次テ楊村事件ニ関シ今日迄ノ経過ヲ略述スルト共ニ本件ノ急速解決ヲ要求シ別電第二四〇号解決条項ヲ列記セル覚書ヲ手交シタル上目下楊村ニ於テ行ハレツツアル現場ノ調査ニ(天津発本使宛電報第八八号参照)外交部及国民軍側ヨリモ派員ヲ要求シタルニ胡總長ハ取調ノ上回答ス可シト答ヘタルニ付之亦事態遷延ヲ許ササル旨ヲ切言シ置キタリ以上会谈ノ要領委細公信

天津へ転電セリ

編註 『日本外交文書大正十四年第二冊下巻』一〇九五・一一二三文書参照

(別電一)

四月二日着在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第二三九号
大沽事件解決条項

第二三九号

- (一)直接責任者ヲ処罰スル事
- (二)日本側負傷者ニ対シ賠償金トシテ相当ノ額ヲ送ル事
- (三)日本軍艦ノ損害ニ対スル賠償ヲナス事
- (四)日本軍艦ヲ射撃セル支那軍隊ノ最高代表者ニ於テ駐支日本政府代表者ニ対シ親シク謝罪ノ方法ヲ講スル事

第二四一号

(四月三日接受)

往電第二三九号及第二四〇号ニ関シ

外交總長ニ提示セル要求条項ハ其根本義ニ於テ予テ御来示ノ趣旨ト異ナラサルモ

(一)賠償金ニ関シテハ事実ノ交渉ニ於テ其金額ヲ定ムル事不得策ト思考シ之ヲ明記スル事ヲ避ケタリ

(二)大沽事件ニ付キ射撃部隊ノ吾国旗ニ対スル捧ケ銃ノ礼ハ現在殊ニ国民軍第一軍当地引揚ケ後ニ於テハ実行困難ト認メ削除セリ又鹿鍾麟ノ名ヲ明記スルハ徒ニ面目ヲ重ニスル支那側相手ノ交渉ニハ却テ妙ナラスト思考シタルヲ以テ最高代表者トセリ

(四)楊村事件ニ付将来ノ保障方ニ関シテハ前記(二)ノ事実ノ他大沽事件ト一致セシムル為メ往電第二四〇号(四)ノ通り改メタリ

以上御承認ヲ請フ

天津へ転電セリ

五七一 四月二日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

天津ニ於ケル高振龍トノ交渉振リニ関シ問合

四大沽事件 五七一

五一〇

(四)支那政府ハ駐支日本公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ将来此種事件ヲ発生セシメサル様保障ヲナス事
天津へ転電セリ

(別電二)

四月二日着在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第二四〇号
楊村事件解決条項

第二四〇号

- (一)不法抑留者加害者等直接責任者ヲ処罰スルコト
- (二)日本側遭難者ニ対シ相当額ノ償金ヲ贈ルコト
- (三)当時責任アル支那軍隊ノ最高代表者ニ於テ駐支日本政府代表者ニ対シ親シク謝罪ノ方法ヲ講スルコト
- (四)支那政府ハ駐支日本公使ニ対シ公文ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ将来此種事件ヲ発生セシメサル為適確ナル保障ヲ為スコト

五七〇 四月二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件解決条項ニ関スル訓令ヲ実情ニ応ジ
修正シタルニツキ承認アリタキ件

セノ件

第二四二号

(四月三日接受)

本使発天津宛電報

第八〇号

大臣宛往電第二三八号ニ関シ

両三日前貴地ヨリ帰京セル土肥原ノ報告ニ依レハ祝交渉員及高振龍ハ書面又ハ口頭ニテ既ニ言質ヲ与ヘタル行懸モアリ貴地ニ於ケル交渉ハ幾分有望ナリトノコトナルモ四月一日土肥原、高二面会セル処高ハ其ノ後鹿鍾麟ヨリ高等不謹慎ニ支那側ノ責任ヲ認メタル為本使ヨリ嚴談ニ接シタリトテ痛ク叱責セラレタル旨ヲ語り且高ハ単ニ個人ノ資格ニテ事ニ当リタルモノニシテ併モ支那側ノ責任ヲ認メタルニハアラス単ニ岡本副領事ノ説明セル事件顛末ヲ傍聴シ不^{フマラズ}錯ト述ヘタルニ過キス今日ニ於テモ依然当時ノ態度ヲ變更スルノ要ヲ見サルモ岡本氏ノ朗読セル事件顛末書更ニ精読シ引続キ事件解決ニ努力シタシトテ右顛末書ノ写ヲ入手シタシト依頼セル趣ナリ高ノ態度聊カ諒解ニ苦シマサルヲ得ス從テ此際顛末書ヲ与フル時ハ却テ悪用セラルルカ如キ懸念ナキニアラサルモ去リトテ之ヲ拒絶スヘキ理由モナキ処岡本

ノ説明セル顚末書ハ貴官ヨリ祝交渉員ニ送付セルモノト同一ナリヤ折返シ回電アリタシ
大臣へ転電セリ

五七二 四月二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

胡外交総長トノ会談ノ結果ニモ鑑ミ引続キ天津ニ於テ交渉方依頼ノ件

第二四三号 (四月三日接受)

本官発天津宛電報第八一号

往電第七四号ニ関シ

外交総長ト会談ノ要領ハ大臣宛往電第二三八号ノ通ニテ外交総長ノ態度ハ余リ煮ヘ切ラサルニ付貴官ニ於テ今日迄ノ行懸ヲ追ヒ此上トモ御配慮アリタク尚場合ニ依リテハ篤ト交渉ヲ進ムルニ付予メ李景林側トノ間ニ了解ヲ遂ケ置ク事モ得策ナル可キカト思考セラルルニ付其辺モ御裁量ニ依リ(重)適度御措置アリタシ
外務大臣へ転電セリ

五七三 四月四日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

風潮其他ニ顧ミ本件ヲ此際中央ニテ議スルニハ絶対反対ナリト)

他方当地ニ於テハ祝ハ大臣宛往電第八三号同人来翰所載ノ如ク当方調査ノ事実ニ基キ交渉ヲ進ムルコトヲ決心シ居リタル次第ナルカ両三日前外交部ヨリ祝ニ対シ此ノ際祝ニ全権ヲ委任スルコトハ李景林側ノ迷惑モ有リ面白カラサルニ付新交渉員(祝ノ後任ハ張弧ノ息子張同礼新任セラルルコトトナリ三月三十日付各領事ニ通知アリタリ未タ中央ヨリ正式任命無キモ従来地方実権者ヨリ推薦セル者ヲ任命スル習慣ナレハ今回モ其ノ内正式ニ右張同礼カ交渉員トナルモノナルヘシ)ヲ補佐シテ解決ニ努力サレタシト申越セル由ニテ又張新交渉員ニ対シテモ外交部ヨリ交渉方訓令アリタル由ナリ(尤モ外交部トシテハ未タ張同礼ヲ交渉員ト認メ居ルニ非サレハ右訓令モ単ニ直隸交渉員宛トシ張同礼ノ名ヲ認メアラサル由ナリ)

新交渉員側ニ於テハ支那政府力遺憾ノ意ヲ表スルコトハ何等差支無キモ賠償金ハ支那政府財政ノ現状ニモ顧ミ勘弁サレタキ旨非公式ニ申述ヘ(隊長ノ処罰鹿ノ陳謝等ニ付テハ未タ意見ヲ述ヘサルモ之ハ事実上出来ヌ事ト思ヒ居ルモノ

天津ニ於ケル大沽事件交渉ノ状況報告ノ件
第九七号 (四月五日接受)

本官発在支公使宛電報第九六号
往電第八〇号ニ関シ

岡本ノ高振龍ニ為シタル説明ハ大臣宛往電第四九号ヲ基礎トシテ之ヲ敷衍セルモノニシテ本官カ祝交渉員ニ送付セル顚末書モ同ク之ヲ基礎トシテ調製セルモノナルニ付此ノ際高ニハ祝ニ交付セル写(三月二十四日付大臣宛機密往信第一五一号)ヲ与ヘラルレハ差支無キコト思考ス尤モ本官ノ推測スル処ニ依レハ鹿ハ其体面上自カラ国民軍側ノ非行ヲ認メルコトヲ欲セサル關係モアルヘク旁閣下ヨリノ問詰ニ対シ兎角曲弁ヲ為スト同時ニ高振龍ニ対シテモ不謹慎呼ハハリヲ為シタルモノナルヘク或ハ又其苦シキ立場上土肥原中佐ニ対シテ前言ヲ食ムカ如キ態度ニ出テタルモノト思考セラルルヲ以テ今トナリテハ鹿鍾麟ハ勿論高振龍ニ対シテモ此ノ上追及スルトモ彼等ヲシテ北京退去前ニ事実ヲ認メシムルコト容易ナラサルノミナラス悪クスレハ往電祝交渉員来翰ニサヘ彼レ此レ文句ヲ付ケシムル結果ヲ来スノ惧無シトセサルヘシ(祝ノ談ニ依レハ外交部ニ於テハ学生ノ

ノ如シ)居レリ

尚具体的交渉ニ入ルニ非サレハ予断ヲ許サスト雖前述ノ如ク交渉員側ニ於テハ不充分乍ラ我方調査ノ事実ヲ認メ之ヲ交渉ノ基礎トスルニ異議無ク又少クトモ支那ノ遺憾ノ意ヲ表スルコトニハ異存無キ模様ナルニ付此ノ方面ノ交渉ヲ進捗セシメレハ不充分乍ラ或ル程度ノ解決ヲ計ルコトハ出来難キニ非サル様觀察セラル

尚新交渉員ニハ明五日会見ノ答

外務大臣へ転電セリ

五七四 四月五日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

張交渉員トノ会談結果報告ノ件

第九九号 (四月六日接受)

在支公使宛往電第九六号末段ニ関シ先方ノ意向ヲ確ムル為メ本五日岡本ヲシテ張交渉員ヲ往訪セシメ非公式ニ会談セシメタル処張ハ本件ニ関シテハ支那側ニ於テ作成セシ調(脱)他何等根拠トスヘキモノナク単ニ日本側申出ノミニ依リ解決ヲ計ラントスル次第第二付其ノ立場頗ル困難ナリトテ支那政府ヲ代表セル交渉員ノ遺憾ノ意思表示及第五項將

四大沽事件 五七五

来ノ保障ノミヲ以テ解決スルコトトシタシトノ意向ヲ述ヘタル由ナルカ岡本ヨリ種々説得ノ結果一兩日中ニ対案ヲ送付スル様申シ居リタリトノコトナリ不取敢
北京へ転電セリ

五七五 四月五日 在重慶後藤領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽事件及ビ北京学生射殺事件ニ関スル新聞
論調及ビ排外運動ノ状況ニツキ報告ノ件

普通第四七号 (四月二十二日接受)

大正十五年四月五日

在重慶

領事代理 副領事 後藤 祿郎(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

北京惨殺案並ニ大沽砲撃事件ニ対シ排外風潮ニ関

スル件

当地青年学生並ニ国民党系分子ハ孫文一週年祭前後ヨリ排外的氣勢ヲ高メツツアリシ折柄大沽ニ於ケル我驅逐艦狙撃事件、北京学生ノ惨殺案ノ報道当地ニ達スルヤアラユル言論機關殊ニ重慶新蜀報、四川日報、公論日報、重慶商務日報

五一四

等ハ日本ノ満州出兵問題ハ徹底的ニ糾弾スヘシ、日本兵艦ハ奉天軍ヲ帮助シテ大沽ヲ轟撃シタルハ日本帝國主義ノ陰謀ナリ、日本ハ列國ヲ使嗾シテ津沽ノ国防ニ干涉シタルモノナリ愛國人士須ラク奮起スヘシ、国賊段祺瑞ハ日本ノ庇蔭ヲ特ミテ民衆ヲ惨殺セリ段祺瑞ハ日本帝國主義ノ順臣ナリ、売国政府ハ倭艦ノ大沽砲撃ヲ以テ正当行為ナリト是認シタルナリ、民衆群起シテ討段スヘシ、帝國主義ノ日英ハ軍閥張作霖、呉佩孚ト勾結シ滔天大禍シツアリ、全国民ハ之レカ打破ニ努力スヘシ、日英ニ対シ經濟絶交ヲ敢行スヘシ等ノ記事ヲ全紙面ニ掲ケ連日筆ヲ揃ヘテ排外的氣勢ヲ煽動シツツアリ

四川学生連合会、全川外交後援会、工会連合会、重慶勞工互助社等二百有余ノ各団体ハ好機逸スヘカラストナシ各代表ヲ城内夫子池模範学校ニ集合シ北京惨案重慶後援会ナルモノヲ組織シ総務、財務、交際、宣伝、文書ノ五部ニ分チ或ハ模範学校ニ或ハ商務總會ニ或ハ図書館等ニ連日執行委員會ヲ開催シ慎重協議ヲ重ネツツアル処愈々来ル十二日ハ大々的示威游行ヲ舉行スルコトニ決シ宣伝部ハ市中重要地点十六ヶ所ニ講演場ヲ設ケ中法大学ヲ始メ各師範、中学、

指定庁府県各長官殿

大沽事件ニ対スル中国々民党大阪支部ノ檄文ニ関

スル件

本月六日首題団体ヨリ当地中華會館ニ対シ左記漢文印刷物ヲ郵送シ来レルカ同館ニ於テハ之ヲ揭示場ニ掲ケテ一般ニ觀覽セシメツツアルモ之ニ対シ特ニ感想ヲ漏スモノナシ右及申(通)報候也

記

快郵代電

上海各新聞社ヲ通シテ全国各公団、各法団、各学校ニ呈ス大沽事件ニ関シハケ国ハ連合シテ強硬手段ヲ以テ我國ヲ威迫セリ北京同胞ノ国運日ニ危ク外禍日ニ迫ルヲ感シ群起シテ政府ニ請願セシハ純然タル一種ノ愛國運動ナリ思ハサリキ段祺瑞禍心ヲ包藏シ竟ニ毒手ヲ振ツテ多数ノ人民ヲ惨殺セントハ如斯殘暴ハ天神共ニ憤ル所本部同志身ハ海外ニ在リト雖モ愛國ノ心豈人後ニ落シヤ国内外ノ同胞一致シテ声討シ努力奮闘シテ國民革命ヲ実行シ不平等条約廢除ノ運動ヲ為シ以テ危亡ヲ救ヒ國權ヲ維持センコトヲ望ム

中国国民党大阪支部

女学生及商業学校生ハ日々巡回講演ヲ行ヒ一面各機關ニ通

電ヲ發シ排外的風潮ヲ鼓動シツツアル結果一般民衆ノ外人

ニ対スル態度次第ニ惡化シ来レリ斯ル狀況ヲ以テセハ来ル

四月十二日ノ示威游行ニ当リ客年六月ニ於ケルカ如キ排日

事件ヲ惹起スルナキヲ保シ難シト認メ一般在留邦人ニ注意

ヲ加フルト同時ニ軍艦側トモ万一二備フル保護ニ関シ打合

セヲ遂ケ一面支那側当局ニ対シ予メ注意ヲ喚起シ置ケリ

右不取敢当地ノ狀況何等御參考マテニ報告申進ス

本信寄送付先 在支公使、上海、漢口、成都、各總領

事、宜昌領事

五七六 四月九日 山県兵庫縣知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

大沽事件ニ関スル中国国民党大阪支部ノ檄文

ニ関スル件

兵外発秘第八八六号 (四月十二日接受)

大正十五年四月九日

兵庫縣知事 山県 治郎(印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣 幣原 喜重郎殿

四大沽事件 五七六

四月三日

五七七 四月九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

賀新財政総長トノ大沽事件ソノ他ニ関スル会

談録要領送付ノ件

機密第四一六号

(四月十七日接受)

大正十五年四月九日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

賀財政総長トノ会談録送付ノ件

四月二日財政総長賀徳霖本使ヲ来訪シタルカ右会談中大沽
事件及難波軍曹事件等ニ関スル事項モアリ何等御参考迄要
領筆記別添送付ス

(別紙)

芳沢公使ト賀財政総長トノ会談要領

四月二日財政総長賀徳霖公使ヲ来訪

総長 先日御寵召ヲ蒙リタルモ病氣ノ為来会シ得サリシカ
本日ハ右御礼旁々時事問題等ニ関シ御指教ヲ受ケム為推

実ハ昨日鹿鍾麟ニ面会シタルカ談話ノ間鹿ヨリ国民軍ニ
対スル日本側ノ感情好カラサル等ノ点ニ言及シ自分ニ対
シ公使ニ面会ノ機会ニ於テ友誼ノニ意志ノ疎通ヲ図ル様
尽力セラレ度キ旨希望アリ就テハ此点ニ付公使ニ於テ国
民軍ニ対シ御意見又ハ御希望ノ点アラハ御遠慮ナク御指
教アリ度要スルニ国民軍ノ如何ナル点カ日本側ニ不滿ナ
ルヤ如何ニセハ諒解セラルルヤ御示シヲ請フ

公使 貴見前段ノ点ハ自分モ全然同感ナリ

国民軍ニ対スル我方ノ感情云々ノ点ニツキテハ折角ノ御
希望ニツキ腹藏ナク自分ノ考ヲ御話スヘシ

元来自分ハ国民軍ノ首領馮氏トハ極メテ友誼の間柄ニ在
リ馮氏カ北京ニ在リシ際ハ屢往復シ同氏ノ人格ニ対シテ
ハ常ニ敬意ヲ表シ居リ張家口ニ移駐後モ互ニ信使ヲ交換
シ双方極メテ好感情ヲ以テ応酬セリ例ヘハ当方ヨリ日本
人ノ張家口ニ赴クモノヲ紹介スレハ馮氏ハ極力之ヲ歓待
シ呉レ又先方ヨリモ順天時報ノ記事更正方等ニツキ申出
ノ際ハ自分ハ友誼ニ基キ……………(順天カ我方ノ機関ニ
非サル点説明)同社ニ注意ヲ与フル等極メテ友好的好感
ヲ以テ交際シ居リタル次第第二テ所謂馮氏赤化云々ノ世評

参セリ

(総長ノ病状等ニ関シ挨拶ヲ交換シタル後)

総長 自分ハ從來馮玉祥ト懇意ノ間柄ニ在リ最近迄西北方
面ノ財政經濟問題ニ関シ相当尽力ヲ為シタル次第ナルカ
元来自地方ハ物資ニ乏シク且海口ニ至ル通路ヲ塞カレ居
ル為勢陸路ニ依リ露国側ト交通貿易スルノ外ナク自然露
国人ト親密ニ往復スルハ止ムヲ得サル処ナルモ之ニ依リ
馮及西北国民軍カ共產化シ又ハ露国ト密約アルカ如キ批
評ヲ為スハ当ラス却ツテ馮玉祥ハ共產主義ヲ以テ支那ノ
国情ニ適セサルモノナリトノ信念ヲ持シ居リ当地ニ在ル
国軍ノ首領鹿鍾麟亦同様ノ態度ヲ持シ居レリ

公使 馮氏カ赤化主義ヲ遵奉セリトノ説ニ対シテハ自分ノ
関スル限り之ヲ信セス共產主義ニ対スル其ノ地位及態度
等ニツキテハ自分ハ極メテ好ク諒解シ居レリ

総長 最近国民軍ニ対スル日本側ノ感情頗ル好カラサルヤ
ニ及聞居ル処日本側ノ不満足ハ如何ナル点ナリヤ凡ソ国
際間ノ交渉応酬ハ外交部ノ司ル処ナルコト勿論ナルヘキ
モ實際問題トシテ關係当局相互ニ意志ノ疎通ヲ図リ円満
ナル諒解ノ下ニ邦交ヲ促進スル必要アリ

ニ対シテモ自分ハ最モ善意ノ諒解ヲ持チ居レリ又鹿鍾麟
氏ニ対シテモ其ノ厳格ナル態度賢明ナル人格ニ対シ常ニ
敬意ヲ表シ居リ此間何等悪感ヲ有シ居ラサル次第ナルカ
只最近發生シタル楊村事件及大沽事件ニ対スル国民軍側
ノ不誠実ナル態度ハ洵ニ意外トスル処ニシテ国民軍從來
ノ態度ト対照シ甚タ諒解ニ苦シム処ナリ

(此間楊村事件及大沽事件ノ事實、国民軍側トノ交渉ノ
経過、国民軍側ノ不誠実ナル遁辞等ニ関シ概要説明ス)
右ニ対シ我方ハ当初国民軍当局カ率直ニ其ノ事實ヲ承認
スルニ於テハ成ルヘク穩便ニ円満ナル解決ヲ期セムト試
ミタルモ同軍当局ハ此ノ極メテ明瞭ナル事實ニ対シ一意
推諉ヲ事トシ少シモ誠意ヲ認ムルコト能ハサルヲ以テ自
分ハ本国政府ノ嚴重ナル訓令ニ基キ昨日遺憾ナカラ外交
部ニ対シ解決ニ関スル要求条件ヲ提出セリ

要スルニ右二件ニ対スル国民軍当局ノ遣リ口ハ誠ニ平素
ノ賢明ニ似合ハサル態度ニシテ自分等ノ最モ不満足ヲ感シ
且ツ諒解シ能ハサル処ナリ

我方ノ国民軍側ニ対スル不満足及諒解シ得サル点ハ前頭二
件ニシテ此以外ニハ何等悪感モ不満足モ無シ

総長 詳細ナル御意見ヲ承リ感謝ニ堪ヘス

自分ハ大沽事件ニ付キテハ閣議ノ席上ニテ報告ヲ聴取シ大体ヲ承知シ居レリ本件ハ一般モ亦事実ヲ了解シ居レリ（此言如何ニ判断スヘキモノナリヤ判明セス）只楊村事件ハ全ク内容ヲ承知シ居ラス只今ノ御説明ニテ委細ヲ承シタル次第ナリ就テハ自分ハ鹿鍾麟トハ從來昵懇ノ間柄ナルニ付公使ノ御意見ノアル処ヲ篤ト説明シ出来得ル限リ事件ノ円満、早期解決方勸告スヘシ

只今ノ御話ノ外交部ニ対スル提出条件トハ如何ナルモノナリヤ其後閣議ナキ為承知シ居ラス大意ニテモ承ルヲ得ハ幸甚ナリ

公使 大沽事件ニ対シテハ 1、当該発砲者ノ処罰 2、我方負傷者ノ慰藉 3、軍艦ノ損害賠償 4、国民軍責任上司ノ謝罪 5、今後ノ保障等ノ条件ヲ提出セリ楊村事件ニ対シテモ大同小異ナリ

総長 了承、充分当局者トモ討論協議シ成ルヘク早く円満ニ解決スル様尽力スヘシ（語ヲ転シテ）

総長 次ニ自分ノ問題ニ付此機会ニ一件御願シ置キ度シ自分今回ノ就任ハ財政処理上相当ノ自信モアリ又弁法モ考

付スルコトヲ約セル次第ニテ今後モ極力整理籌画ニ努力スル積ニツキ公使ニ於テモ随時御指教御援助ヲ与ヘラレムコトヲ御願ス

尚将来ハ折々御伺ヒシ徹底的ニ意見ノ交換ヲ為シ又教ヲ請ヒ度シ

編註 楊村事件トモ呼バレル。『日本外交文書大正十四年第二冊下巻』一〇九五、一一一三文書参照

五七八 四月十日 在天津有田総領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

責任者ノ処罰ト最高代表者ノ謝罪ヲ除キ解決

ノ見込アル旨報告ノ件

第一〇五号

（四月十一日接受）

八日交渉署員金在業来館賠償金ハ撫恤ノ名目ニテ一万弗位ニテハ如何ナル可キヤトノ交渉員ノ意向ナリト述ヘタルニ付問題ハ賠償金額ノミニアラス其他ノ諸条件ニ付テモ意思表示ヲ要スル次第ナレハ先般ノ諒解ノ通一応全般ニ亘ル交渉員ノ意向ヲ書物トシテ提出セラレタク（一字不明）返答シ置キタルカ曩ニ直隸省各部長官ニ任命セラレタル李景林側ノモノモ暫時山東側ノモノヲ以テ取替ヘラレ交渉員ニハ莊

ヘ居リタルカ何分ニモ戦局日ニ悪化シ金融梗塞交通杜絶等ノ為諸種ノ計画モ志ト違ヒ実行ノ余地ナク頗ル困難ナル地位ニ在リ支那ノ財政カ外国人及外交団側ト密接ナル関係アルコト御承知ノ通りニシテ之カ整理改善ハ外交団側ノ援助ニ待ツ処少カラス先般来経費ノ調達ニツキ「アグレン」及英國公使等ノ尽力ヲ求メタルカ日本側トハ凡テノ点ニ於テ切実ノ関係アルヲ以テ今後自分ノ所管タル財政問題ニ対シ公使ヨリ特ニ友誼的同情ヲ以テ何カト尽力ヲ与ヘラレムコトヲ希望ス

公使 総長ノ困難ナル地位ニ対シテハ同情ス自分ハ此ノ難局ニ就職セラレタル総長ノ勇氣ニ対シ敬意ヲ表シ居レリ現今中央ノ収入トシテハ関税及塩稅カ主要ナルモノナルカ関税ハ夫々支途アリ塩稅ハ各地地方ノ抑留ニヨリ近年増々収入減少シ中央ノ財政計畫上困難一層増加シタルコトト推察シ同情シ居レリ

総長 御好意ヲ謝ス自分ハ塩稅ニ対シテハ成ルヘク部分的ニ各地方ノ軍閥ニ訴ヘ多額ヲ送金セシムルコトニ力メツツアリ最近ニ於テモ孫伝芳ニ交渉シ事理ヲ尽シテ抑留ノ不可ヲ説キタル結果孫モ之ヲ諒解シ収入塩稅ノ一半ヲ送

景珂（前駐日代理公使）任命セラル可キ模様ナルモ十日張司令ヨリ右ノ事情ヲ述ヘ本件ヲ後任者ニ引継キ置クヘキ旨申越セリ尤モ支那側ノ意向ハ累次ノ電報ニテ御承知相成ル可キ通（一）交渉員ハ支那政府ヲ代表シ軍艦若ハ総領事館ニ到リ遺憾ノ意ヲ表スルコト（二）将来ノ保障ニ関シ書面ヲ差出スコト（三）撫恤金トシテ一万弗位ヲ差出スコトニテ本件ヲ解決シタク砲台責任者ノ所罰及鹿鍾麟ノ謝罪ハ実行困難ナル問題ナレハ日本側ニ於テ之ヲ主張セサルコトヲ希望スト云フニ在リテ大体此ノ見込ナレハ何人カ交渉員トナルトモ解決ニ困難ナラサル見込ナリ然ルニ若シ我方ニ於テ在支公使宛電報第七一号第一及四ノ条件ヲ固執セントスルニ於テハ交渉ハ永引クノミナラス現在ノ如キ状況ノ下ニ於テハ解決ハ恐ラク六ヶシカル可シト観測セラルルニ付此際至急解決ノ見地ヨリ大体前記先方ノ申出ヲ容認シ之ヲ基礎トシテ更ニ具體的ニ協議ヲ進ムルコト得策ナリト思考ス詮議ノ上何分ノ儀至急御回訓アリタシ尚鹿鍾麟若ハ其ノ代表者ヲシテ謝罪セシムルコト並ニ砲台責任者ノ所罰ヲ是非必要トスルニ於テ（ハ）軍閥ニ対スル關係上交渉員トノ此ノ上ノ交渉ハ恐ラク無益ナル可シ

公使ニ転電セリ

五七九 四月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件解決交渉ニ関シ責任者ノ処罰ニツイ

テハ形式等一任アリタキ旨稟請ノ件

第二七三号(至急)

(四月十三日接受)

(一)往電第二六一号ニ関シ其後大沽事件ニ付テハ勿論楊村事件ニ付テモ貴電第九五号御来示ノ次第ハアルモ鹿鍾麟在京中両問題トモ交渉ヲ促進スルヲ寧ロ得策ト思考シ土肥原ヲシテ鹿鍾麟側ニ探リヲ入レシメタル処先方ニ於テモ条件次第ニテハ交渉ヲ纏ムルノ意向ナルコト判明シ多少話モ進歩ヲ見タルニ付十日夜国民軍外交署長ノ来訪ヲ求メ五時間半ニ亘リ討議シタル結果本使ヨリ外交総長ニ交付セル覚書記載ノ要求条件中第二第四及第五ニ対シ先方ニ於テ承諾シ第一ニ付テハ當時突堤ノ上ニ在リタル兵卒ハ僅カニ十数名ニシテ且上官ノ命令ヲ執行シタル次第ナルヲ以テ兵卒ヲ処罰スルハ無理ナリ又上官ノ命令ハ日本側トノ打合せ通りニ為セルモノナルヲ以テ之亦不法ト云ヒ難シト硬ク主張シ本使ヨリ當時ノ状況ニ照ラシ駁論ヲ重ネタルモ如何ニスルモ承

諾ノ意ヲ表セス結局鹿総司令ト協議スヘキ旨ヲ述ヘテ辞去セリ將又楊村事件ニ関シテハ本使ヨリ外交総長ニ交付セル覚書要求条件中第二第三及第四ハ先方ニテ承諾シ第一ニ付テハ大沽事件ト同シク頑強ニ反対シ之迄如何ニスルモ承諾セス十二日午後再会ヲ約シテ別レタリ

右ノ次第ニ付十二日外交総長ノ来訪ニ先立チ土肥原ヲシテ更ニ先方ノ反省ヲ求ムル様努力セシメタル処大沽楊村両事件トモ直接責任者ノ処罰ハ先方ニ於テ依然トシテ強硬ナル態度ヲ取り到底承諾ノ模様無キ趣ナリ

(二)今日迄ノ發展大体前述ノ通りニテ十二日再ヒ会見ノ管ナルカ責任ニ関シ大沽事件ニ付テハ或ハ何等カノ形式ニ於テ多少トモ我方ノ希望ヲ実現シ得ルヤ計リ難キモ楊村事件ハ元来表面鹿鍾麟ノ責任乏シク張之江ノ責任ナル処張ニ於テ断シテ責任ナシト主張シツツアルヲ以テ交渉甚タ困難ナルモ之亦不満足ナカラ多少トモ我方ノ希望ヲ実現セシメ度ク折角考慮中ナリ

(三)尚ホ大沽事件ニ付テハ先方ニ於テハ我方ノ重傷者輕傷者ニ対スル慰藉金及軍艦ニ対スル損害賠償ノ撤回ヲ希望シ重傷者ニ対シテハ二万弗以内ノ範圍ニテ承諾スヘキ模様ナリ

五八〇 四月十二日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

国民軍側トノ交渉纏マル場合ニハ鹿トノ間ニ

解決事項ヲ文書ニ止メタル上外交部ト正式手

続ヲ進ムル意向報告ノ件

第二七四号(至急)

(四月十三日接受)

往電第二七三号ニ関シ

若シ国民軍側トノ交渉纏マルニ於テハ之ヲ基礎トシ予テ御来示ノ通外交部ト正式交渉ニ移リ一切ノ手續ヲ了スル段取ニ運フ次第ナルカ現ニ政局全ク混乱シ内閣ノ存在サヘ疑ハシク果シテ外交総長トノ間ニ正式交渉ヲ開キ得ヘキヤ又此ノ際外交総長ノ公文カ完全ニ支那政府ヲ代表スト云ヒ得ヘキヤ實際上議論ノ余地アルノミナラス鹿鍾麟ノ当地在任ノ期モ予測シ難キ現状ニ付幸ヒニシテ鹿トノ談合纏マルニ於テハ鹿ト本使トノ間ニ一応解決事項ヲ文書ニ止メタル上外交部トノ間ニ正式手續ヲ進ムルコトニ努力スルト同時ニ一方解決事項ノ実行例ヘハ謝罪ノ如キヨリ着々進行スルコトト致シ度キ所存ニ付右御承認置キヲ請フ

天津ヘ転電セリ

五八一 四月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村兩事件ニ関シ外交総長トノ間ニ解
決要綱ニ仮署名シタル旨報告ノ件

別電一 四月十二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛

電報第二七七号

大沽事件解決要項

二 四月十二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛

電報第二七八号

楊村事件解決要項

第二七六号(大至急、極秘扱) (四月十三日接受)

十二日外交総長ト会见長時間ニ亘リ討論ノ末漸ク別電第二
七七号及別電第二七八号ノ如キ談合ニ達セリ充分満足トハ
云ヒ難ク殊ニ責任者処分ノ一項ハ甚タ不満足ナルモ此際内
外ノ状況ニ顧ミ右ニテ我慢スルノ外ナシト認メラルルニ付
曲ケテ御承認ノ上大至急十四日(水曜)午前迄ニ何分ノ儀
御電訓ヲ請フ

尚別電解決要項トニ対シテハ不敢取外交総長ト本使ト仮ニ
署名シ本使ハ日本公使芳沢謙吉外交総長ハ鹿総司令代表等
閱了ト証明シ置キタリ又賠償金ノ支払ニ付テハ早速総司令
部ヨリ財政部ト接洽スヘシトノ事ナルモ総長或ハ大沽事件

右ハ總司令部ヨリ外交部ニ弁理方ヲ要請スル事

(六)日本政府ハ支那側死傷者ニ対シ特ニ同情ヲ表スル為銀七
千元ヲ撫恤スル事

大正十五年四月十二日

日本公使 芳沢 謙吉

鹿総司令部代表 唐 悦良

(別電二)

四月十二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第二七八号

楊村事件解決要項

第二七八号(大至急、極秘) (四月十三日接受)

楊村事件解決要項

(一)爾後調査ノ結果事実上ノ証明ニ依リ難波軍曹ハ国民第一
軍ノ範圍内ニ於テ殺害セラレタルコトヲ認定ス但シ戦争
中ニテ何人カ誤殺セルモノナリヤハ糺明シカタ(脱) 右
承認方芳沢公使ヨリ日本政府ニ請訓シ一方唐署長ヨリ張
督弁及鹿総司令ニ請訓スルコト
(二)日本側遭難者ニ対シ撫恤金トシテ総額銀三万元ヲ贈ルコ
ト

前記金額ノ内故難波軍曹ニ対スル撫恤金ハ二万八千トシ

四大沽事件 五八二

ニ関スル部分ハ予テ貴電御来示ノ如キ方法ニ拠ル事トナル
ヤモ計リ難シ將又本件ハ民論ヲモ顧念スルノ必要アリ少ク
トモ当分総テ秘密ニ付セラレタシトノ事ナルニ付右特ニ御
含ミ置キアリタシ

別電ト共ニ天津ヘ転電セリ

(別電一)

四月十二日在中国芳沢公使発幣原外務大臣宛電報第二七七号

大沽事件解決要項

第二七七号(大至急、極秘) (四月十三日接受)

大沽事件解決要項

(一)発射シ日本軍艦ヲ阻止セル支那兵ハ既ニ負傷後死亡セル
為処罰スル事態ハス

(二)日本側負傷者ニ対シ慰藉金トシテ総額二万元ヲ贈ル事

(三)日本軍艦ニ対スル損害ハ日本政府ニ於テ之カ賠償ヲ免ス
ル事

(四)鹿総司令ハ芳沢公使ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スル事
(五)支那政府ハ芳沢公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意
ヲ表スル事

同時ニ将来此種事件ヲ発生セシメサル様保障スル事

他ニ日高、井上兩名ニ対スル撫恤金ハ計二千元トナスコ
ト

(三)鹿総司令ハ芳沢公使ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルコ
ト

(四)支那政府ハ芳沢公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意
ヲ表スルコトト同時ニ将来此種事件ヲ発生セシメサル様
保障スルコト

右ハ總司令部ヨリ外交部ニ弁理方ヲ要請スルコト

大正十五年四月十二日

日本公使 芳沢 謙吉

鹿総司令代表 唐 悦良

天津ヘ転電セリ

五八二 四月十三日 幣原外務大臣ヨリ
在上海矢田總領事宛

大沽事件ニ関スル中国側民間ノ抗議書送付ノ件

付属書一 上海対日外交市民大会抗議書

二 上海各路商會總連合會抗議書

亜二普通九一号

大正十五年四月十三日

幣原 外務大臣

在上海

矢田 総領事

大沽事件ニ関スル支那民間抗議ノ件

御参考ノ為別紙送付ス

(付屬書一)

第二百十六号

(三月三十一日外務省接受)

日本外務省大臣閣下年来敝国外交上發生变故恒有貴国臣民而充其主角其結果必引起数国之糾紛此次貴国軍艦突然於本月十二日下午三時違反国际公法之原理砲擊大沽傷斃兵士十余名之多其蔑視主權侮辱国体至此已極并引起列国之通牒脅迫種種複雜挑撥起釁貴国日居其首自長沙六一案發生以来疊次慘劇疊竹難書祇如去年五卅流血亦係貴国内外棉廠擊斃顧正紅而起因釀成絕大禍變而貴政府不自反省而猶日東亞和平中日親善敝會於便日舉行連席大会認貴国此次砲擊大沽為莫大之侮辱閣下設身処地應作如何之感想對於此舉即閣下能否顧念国际公理之一明証也時電抗議付候亮督中華民國上海對日外交市民大会叩有

中華民國十五年三月二十五日

理ヲ顧慮セルノ一明証ヲ為シ得ルヤ本文呈上此ニ抗議ス

敬具

(付屬書二)

(三月三十一日接受)

日本外務省鈞鑒此次大沽事件 貴国艦隊掩護奉艦襲轟砲台致遭我國軍之還擊報章騰載全国痛憤夫大沽天津皆我疆土奉国交開俱関内政何勞 貴国干預助長我内乱也乃復捏詞聳聽誘致各国共同抗議藉口辛丑條約強權威逼是侵略我國權侮辱我国体也 貴国人民每以親善和平為口号在我国内竭力宣傳而稽考事实幾無時無地無不与親善和平背道而馳用甘言欺人之計而行其掩耳盜鈴之実吾国人不任受也特電上海各路商界總連合会叩馬

中華民國十五年三月

(右訳文)

外務省殿

上海各路商会總連合会 拜白

今回ノ大沽事件ハ貴国艦隊ガ奉天軍艦ヲ掩護シ砲台ヲ砲擊セル為我國民軍ノ邀撃ヲ受ケタルニ起因セルモノニシテ此報一度全土ニ伝ハルヤ全国為ニ大イニ痛憤セリ

元来大沽及天津ハ何レモ我國領土ニシテ奉国交戦ハ一ツニ

四大沽事件 五八三

(右訳文)

外務大臣閣下

上海對日外交市民大会 拜白

從來我国外交上發生セル事件ハ貴国臣民常ニ之レニ係リ其中心ヲ為スノ結果ハ必ズ延テ数国ノ紛糾ヲ来タセリ今回モ此ノ例ニ洩レズ貴国軍艦ガ本月十二日午後三時国际公理ノ原理ニ違反シ突然大沽ヲ砲擊シ我兵士十余名ヲ殺傷セシムルノ不祥事ヲ惹起セリ是レ其ノ主權ヲ蔑視シ国体ヲ侮辱セル此ニ至ツテ極マレリト云フベキノミナラズ更ニ進ンデ列国ノ通牒脅迫ヲ誘起シ益々事端ヲ騒乱紛糾ニ陥ルルノ奸策ヲ弄セリ

思フニ貴国在留民ガ長沙六一事件以来屢次ノ慘劇ヲ敢テセルハ枚挙ニ遑アラズ昨年勃発セル五十三事件ノ如キモ亦貴国内外棉紡績工場ガ顧正紅ヲ射殺セルヨリシテ彼ノ重大ナル悲惨事ヲ釀成セルモノナリ

然ルニ貴国政府ハ自ラ此ニ反省セズシテ尚口ニ東洋ノ平和及中日親善ヲ稱フ其言行一ナラザル真ニ驚クニ堪ヘタリ本会ハ本月二十三日連合大会ヲ舉行シ貴国今回ノ大沽砲擊ヲ以テ絶對的侮辱事件ナリト一致議認セリ、閣下ハ是レニ処シ果シテ如何ノ感アリヤ即チ此舉ニ對シ閣下ハ能ク国际公

内政ヨリ出デザルナリ然ルヲ何ゾ貴国ヲ勞シ是レニ干預セシメ我内乱ヲ助長スルノ要アランヤ換言スレバ謠言ヲ放チ人心ヲ動揺セシメ結局各国共同ノ抗議ヲ誘起セシメ辛丑條約ニ藉口シ強暴圧迫ヲ為ス是レ我國權ヲ侵略シ我国体ヲ侮辱スルモノニ非ズシテ何ゾ

貴国人民ハ常ニ口ニ親善平和ヲ稱ヘ我国内ニ於テ極力之レガ宣傳ヲ為ス然ルニ事實ハ時ト所ヲ論ゼズ之レニ背馳シ甘言ヲ以テ人ヲ欺満シ宛モ耳ヲ掩フテ鈴ヲ盗ムノ実ヲ演ジツツアリ是レ我國民ノ等シク忍ブ能ハザル所ナリ此ニ架電抗議ス

敬具

五八三

四月十六日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟ノ急遽離京ニヨリ大沽事件解決手續ノ

進行困難トナリタル件

第二九三号(極秘)

(四月十七日接受)

貴電第一〇六号十三日夜接到然ルニ唐悅良ハ同日早朝解決要項ニ對スル張之江ノ承認ヲ求ムルタメ張家口ニ赴キタルヲ以テ已ムヲ得ス当初ヨリ斡旋ノ地位ニ立チ来レル方夢超ヲ招致シ貴電ノ趣旨ヲ説示シタルニ支那側ニ對スル撫恤金

五二五

削除ノコトハ支那側ノ立場上甚タ困難ナル旨ヲ訴ヘタルカ
本使ノ見ル所ニ依ルモ右ハ之ニ依リテ鹿鍾麟ノ面目ヲ救ハ
ントスルモノニテ先方ニ於テ實際上重キヲ置クモノト認メ
ラレ從テ全然之ヲ削除センコトヲ強要スルニ於テハ為メニ
解決案全部ノ不成立ヲ招クノ惧ナキニ非スト思考シタルヲ
以テ条件ヨリ切り離シ我方ヨリ自発的ニ撫恤スルノ案ヲ提
出シタルニ方夢超ニ於テモ其ノ程度ナラハ鹿鍾麟ニ於テモ
異議ナカルヘク唐悅良張家口ヨリ帰来ヲ待チ鹿ヲ承諾セシ
ムルニ尽力スヘキ旨ヲ約シテ辭去セリ一方本使ニ於テハ戰
局ノ切迫ニモ鑑ミ鹿鍾麟ノ遺憾表示ハ出来得ル限り速ニ実
行セシムルコト得策ト認メ間接ノ方法ニ依リ促進ニ努メタ
ル結果鹿モ十六日午後七時親シク本使ヲ來訪スルコトニ確
約シタリ而シテ他方右ニ先シテ外交總長ト本使トノ間ニ交
換公文等正式ノ手續ヲ了シ度キ所存ニテ十三日来館員ヲシ
テ外交部關係当局トノ間ニ交換公文等ノ形式ニ付内々打合
セテ遂ケシメ該当局ニ於テモ國民軍側ヨリ外交部ニ対シ非
公式交渉成立ノ報告有リ次第我方トノ間ニ迅速打合セノ上
出来得ル限り速ニ一切ノ手續ヲ了スヘキ旨ヲ約セリ然ルニ
唐悅良ハ時局急転ノ結果或ハ京綏鐵路輸送狀態ノ關係ニモ

依ルヘキモ十五日夕刻ニ至ルモ帰燕セス一方迭次ノ往電ノ
通鹿鍾麟ハ同日夜急遽北京ヲ離ルルニ至リ為ニ予テノ打合
セ通十六日本使來訪ヲ實行シ得サルニ至レリ本件解決要綱
ハ非公式乍ラ唐ト本使トノ間ニ仮調印ヲ了セルコトニモア
リ鹿鍾麟在京中一切手續ヲ完了シ得サリシハ遺憾ナル事情
右ノ通ニテ如何トモ致難ク此上トモ折角努力ノ上解決要綱
ヲ基礎トシ此際何トカ解決ヲ期シ度キ所存ナルモ只今迄ノ
經過不取敢御含ミ迄電報ス

五八四 四月十六日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟離京後ノ措置一任方及ビ楊村事件ノ賠
償金減額ニ関シ請訓ノ件

第二九四号(極秘) (四月十七日接受)

往電第二九三号ニ関シ

其後承知セル処ニ拠レハ鹿鍾麟ハ離京ニ先立チ賀得霖ニ対
シ在京中兩事件ノ完全ナル解決ヲ了シ難カリシハ甚タ遺憾
ナル旨ヲ語レル由ニテ全ク情勢急転ノ為本使ニ対スル陳謝
實行ノ暇無カリシモノト認メラル鹿離京後ニ於ケル本問題
ノ妥結振ニ付テハ頗ル考慮ヲ要スル次第ナルカ第一鹿自身

ノ本使ニ対スル陳謝面陳ハ最早期待シ難キニ付鹿ノ現在地
ヨリ本使ニ対シ電報ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表セシムル
カ又ハ唐悅良其他適當ナル人物ヲシテ鹿ノ代表者トシテ親
シク面陳セシムルカノ何レカニ依ルノ外ナカルヘク其邊機
宜ノ処置ハ本使ノ裁量ニ御一任賜ハリタシ

將又唐悅良(唐ハ十五日夜帰燕目下某國人ノ邸ニ避難シ
居ル由)ノ齎ラセル張之江ノ意見ナリトテ賀得霖ヨリ土肥
原ニ通知シ來レル処ニ拠レハ楊村事件解決要項第一項ハ難
波軍曹ハ國民第一軍ノ為殺害セラレタル事確實ナルカ如キ
感ヲ与ヘ斯テハ折角本件ノ解決ニ依リ日本側ト國民軍トノ
關係ヲ改善セントスル目的ニ反スル結果ヲ惹起スルヤモ計
リ難シ又賠償金ノ三萬元ハ多額ニ失ストノ事ナリトノ事ニ
付右ニ対シ本使ハ右第一項ハ多大ノ論議ノ末漸ク妥協ヲ遂
ケタルモノニテ更ニ之ニ修正ヲ加フルニ於テハ我方ヲシテ

云ハシムレハ却テ國民軍側ト本邦トノ關係ヲ改悪スルコト
ト成ルヘク兎ニ角之カ修正ハ絶対ニ承認シ難シ又賠償金減
額方ニ付我方ヨリ妥協ノ色ヲ示スニ於テハ張之江ニ於テ更
ニ又々何等望蜀ノ修正ヲ申出ルヤモ計リ難シ旁々今一応解
決要綱全部ニ対シ張之江ノ反省ヲ求ムルコトトシ度キ旨賀

得霖ニ申入方取計置キタル結果不取敢賀ヨリ鹿鍾麟ニ電報
シ鹿ヲ經テ張ノ反省ヲ求ムルコトナレリ尤モ第一項ハ此
上讓歩シ難キモ賠償金ハ貴電第三七号御訓令ヨリ遙ニ多額
ニテ折合ヒタル次第ナルノミナラス此機ヲ逸セス兩事件全
部ヲ解決スルコト極メテ得策且必要ナルニ顧ミ愈々ノ場合
ニハ不本意乍ラ楊村事件ノ賠償金ハ約一万弗位ノ減額(即
チ賠償總額約二萬元トナル)ヲ承諾スルコト成ルヤモ計
リ難キカト思考ス就テハ之亦御承認ヲ仰キ度シ尚右様ノ次
第二ニテ兩事件同時ニ迅速解決ヲ了シ難キ虞アルノミナラス
政局今後ノ發展モ殆ント予想シ難キ現状ニ付場合ニ依リ先
方ニ於テ大体異議無キ大沽事件ヨリ先ツ外交部トノ間ニ正
式協定ヲ了スル手順ニ運フヤモ計リ難キニ付御含ミ置キヲ
請フ

五八五 四月二十日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

賀得霖方國民軍ヘノ斡旋差控ノタメ交渉困難
トナリタル旨報告ノ件

第三〇三号(極秘) (四月二十一日接受)

往電第二九四号ニ関シ

唐悦良張之江ニ会見ノ結果賀得霖(目下六国飯店ニ在リ)ヨリ方夢超ヲ経テ通シ来リ右ニ関シ賀ヨリ鹿鍾麟ニ電報シ鹿ヲ経テ張ノ反省ヲ求メシムルコトニ取計置キタル次第ハ御承知ノ通ナル処其後鹿ニ發電方ニ対スル賀ノ心機一転シ予テ同人等ニ於テ奉天軍ノ国民軍攻撃緩和勸告方ヲ日本側ニ内密懇囑シ居タルニ拘ラヌ日本側ニテ充分尽力セサリシヲ遺憾トシ本問題ニ付テモ日本側ト国民軍トノ間ニ居中幹旋ヲ試ムルコトハ差控ヘ度シトテ發電ヲ肯ンセス一方唐悦良モ身辺ノ危険ヲ慮リ引続キ某米国人ノ宅ニ隠レ差当リ同人ノ活動ヲモ望ミ難キニ付已ヲ得ス当初ヨリ本使ト唐トノ非公式交渉ニ干与シ来レル方夢超ヨリ鹿鍾麟ニ打電セシムルノ外無キヤニ認メラレ目下考慮中ナリ

前述ノ次第ニテ誠ニ厄介ナル事態トナリタルカ兎ニ角今明日中本使外交総長ニ面会シ唐悦良トノ間ニ署名セル解決要項ニ基キ迅速解決方交渉ヲ試ムル所存ナリ

五八六 四月二十一日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽事件解決促進ニ関シ胡外交総長トノ会谈

内容報告ノ件

ニ於テハ已ムヲ得サルニ付外交部ヨリ迅速且ツ的確ナル方法ニ依リ鹿ニ此ノ際速ニ本問題完結ノ意ヲ通シ陳謝ノ方法ニ就テハ鹿ヨリ外交部ヲ通シ電報又ハ公文ヲ以テ本使ニソノ誠意ヲ傳達セシムル事トスルモ差支無シ

之ト同時ニ外交部トノ正式交渉公文ノ作製ニ着手セシムル事トシタク右ニ付テハ既ニ樞政務司長ト館員トノ間ニ内談セシメ来タル行懸リアルニ付右行懸ヲ追ヒ促進セシムル事トシタシト提言シタルニ胡総長ハ本使ト国民軍側トノ談合促進ニ付テハ間接ニ大体承知シ居レリ鹿鍾麟ニ対シ然ルヘキ方法ニ依リ本使提言ノ次第ヲ通スル事モ主義上異存無キモ先ツ鹿ノ代表トシテ折衝シ来タル唐悦良ノ所在ヲ明カニシ同人ニ於テ鹿ノ代表トシテ陳謝ヲ実行シ得ヘキヤ否ヤヲ糾明スルヲ得ハ寧ロ簡單迅速ニ処置スルヲ得ヘキカト思考スルニ付今明日中ニ唐ノ所在ヲ確カメ若シ不明ナルニ於テハ明後日外交部ヨリ直接鹿ニ本使ノ要求ヲ通達スル手段ヲ講スル事トスヘシト答ヘタルニ付右ニテ一先ツ会谈ヲ打切り胡総長ノ希望ニ応シ解決要綱ノ写シヲ送付スヘキ旨ヲ約シテ引キ取りタリ

刻下ノ時局ニ照シ敵重胡総長ニ迫ルモ果シテ此際即時満足

第三〇四号(極秘)

(四月二十一日接受)

往電第三〇三号ニ関シ

既ニ内閣総辭職ニ決シ殆ト無政府状態ニ等シキ折柄外交総長トノ交渉モ満足ナル奏効ヲ期シ難カル可シトハ思量シタルモ二十日本使同総長ヲソノ私邸ニ往訪シ長時間ニ亘リ会谈、先両事件、解決促進方ニ付テハ外交部ニ於テ予メ本使ト国民軍側トノ非公式交渉ヲ希望シタルニ鑑ミソノ後鹿鍾麟ノ代表唐悦良トノ間ニ折衝ヲ重ネタル結果本使ト唐トノ間ニ解決要項ニ仮調印ヲシ右要項ニ基キ鹿ハ十六日午後七時親シク本使ヲ来訪シ陳謝ノ答ナリシモ局面急変ノ為メ遂ニ右陳謝実行ノ暇無クシテ当地ヲ去ルノ已ムヲ得サルニ至レルモノソノ間鹿ハ誠意ヲ以テ本問題ノ解決ヲ希望シ居タルハ本使ノ十分之ヲ諒認スル処ニシテ現ニ同人ハ一日モ速ニ陳謝ヲ実行シ度キ意向ニテ本使ニ対スル陳謝ノ日取モ先方ニ於テ頻リニ急キ居タル為メ十六日ト為シタル次第等本件今日迄ノ経過ヲ要述シ唐悦良ハ目下某所ニ避難シツツ在リトノ事ナルニ付此ノ際國際ノ大局ニ顧念シ本問題ノ迅速円満ナル解決ヲ期センカ為メハ一ニ胡総長ノ勇断ニ俟タサル可カラサル旨ヲ力説シ且ツ既ニ鹿鍾麟北京ヲ去レル今日

ナル諒解ニ達シ得可キヤ甚タ憂慮ニ堪エサル処ナルモ御承知ノ通同総長ハ温厚ナル人物ニテ日本トノ關係モ淺カラサルノミナラス若シ政情一変シ内閣更迭シ例ヘハ顧維鈞ノ如キ人物ノ就任ヲ見ルニ於テハ結局本問題ハ未解決ノ儘擱置セララルノ惧アリト認メ最善ノ努力ヲ尽シツツ有ル次第ニテ固ヨリ充分ノ確信ヲ有スル訳ニハアラサルモ兎ニ角外交部トノ交換公文案等作成方ニ就テハ胡総長ニ於テモ強ヒテ異議ヲ唱ヘサリシニ付館員ヲシテ樞政務司長ト談合ヲ促進セシメ度キ所存ナリ

五八七 四月二十三日

在雲南武藤領事館事務代理ヨリ
幣原外務大臣宛

大沽事件ノ反響等ニ関シ報告ノ件

公第七〇号

(五月十三日接受)

大正十五年四月二十三日

在雲南

領事館事務代理 武藤 貞喜(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

大沽事件ノ影響ニ関スル報告ノ件

大沽ニ於ケル日艦砲撃事件ハ三月二十七日政府機關紙民治

日報紙上ニ発表セラレテ始メテ一般ニ知ラレタルカ民治日報ハ例ニ依リ単ニ兩國ノ抗議文反駁文ヲ掲載スルニ止リ四月十四日ニハ大沽事件ハ円満解決セルニ付誤解ナキ様注意スヘキ旨ノ外交部電報ヲ外交司布告トシテ発表セリ次テ大沽事件ニ関連シテ起レル学生惨殺事件ニ付テモ其情況ヲ詳報シ段政府ノ無力ニシテ無暴ナルヲ論スルノミニシテ國際問題ニ関スル論評ハ之ヲ避ケ又他ノ義聲報、均報、社会新報等モ大体之ニ倣ヒ居タルカ如シ只大正四年日支交渉事件ニ憤慨シテ帰国セル留日学生ニ依リテ組織セラレタル復旦報ハ我方ノ抗議ニ対スル支那側反駁文ヲ繰返シ掲載シテ事件ノ責ノ日本側ニアルヲ宣伝シ学生惨殺事件ニ付テハ帝國主義ノ日本ハ國賊段、張等ヲ援助シテ中国ヲ乱ルコト年久シク遂ニ如斯惨案ヲ引起サシメタリ吾人ハ帝國主義及其走狗段祺瑞ヲ倒ササルヘカラス等ト切ニ悲憤慷慨煽動的記事ヲ掲ケ又各地方学生団体ノ通電ヲ載セ宣伝ニ努メタルモ一般市民ニ対シテハ殆ント其影響ナカリシカ如シ只学生等ハ上海学生団ヨリ送付シ来レル一般排外的宣伝ビラト共ニ帝國主義ノ走狗段祺瑞ヲ死刑ニ処スヘシ一切ノ不平等条約ヲ取消スヘシ等言フ宣伝ビラヲ市内要所ニ掲示シ四月六日ニ

第三一七号(極秘)

(四月二十五日接受)

往電第三〇四号ニ関シ

其後四月二十一日外交総長ノ命ニ依リ沈秘書来訪二十日漸ク唐悦良ノ所在ヲ突止メタルカ同人ヨリ聴ク所ニ依レハ張之江ハ楊村事件解決要項第一項及賠償金額ニ異議有リトノ事ニテ斯クテハ外交部トシテ正式手續ヲ了シ難キニ付其辺諒トセラレ度シト申出テタルニ付本使ハ張ニ於テ多少ノ異議有ル趣ハ本使モ仄聞シタルカ右異議ハ我方トシテ到底承認シ難キ処ナリ難波軍曹被害ノ事實ハ其後ノ証憑ニ依リ愈々明白ナリトテ偶々前日楊村現状踏査ノ結果報告ノ為来京セル野副大尉ヨリ聴取セル処ヲ詳細ニ説示シタルニ沈秘書ハ委細胡総長ニ復命其ノ考慮ヲ求ムル事トス可キ旨答ヘテ辞去セリ

爾来一方館員ヲシテ外交部關係当局ト折角連絡ヲ取ラシメ本件促進ノ為努力シ来リタルカ胡総長ニ於テモ相当誠意ヲ以テ考慮シツツ有リ現ニ前記沈秘書本使来訪ノ当夜張家口ニ打電セル趣ヲモ聞キ込ミタルヲ以テ二十四日日本使胡総長ト会見種々問答ヲ重ネタルカ同総長ハ二十一日張家口張之江鹿鍾麟兩人ニ宛テ打電シ唐悦良ト本使トノ間ニ仮調印ヲ

至リ雲南学生連合会ノ名ヲ以テ日本帝國主義ハ砲艦ヲ以テ大沽ヲ砲撃シ為ニ北京ニハ空前ノ惨事ヲ引起シタリ吾人ハ茲ニ結束シテ京学界ヲ援助シ辛丑条約廢除並段祺瑞及反動軍閥ヲ倒スニ努ムヘシト言フ意味ノ通電ヲ發シタリ次テ四月十八日北京慘案遭難者追悼会ヲ開キ午後二時閉会後中等学校以上ノ男女学生約千五百名各帝國主義ノ走狗段祺瑞ヲ殺セ辛丑条約及一切ノ不平等条約ヲ廢止セヨ等ノ文句ヲ書込ミタル紙旗ヲ持チ軍樂隊ヲ先頭ニシ游行ニ移リ別紙ノ如キ伝單ヲ配付シタルカ此日ハ約一間置ニ武装兵ヲ配置シ後部ニハ更ニ約五十名ノ武装兵ヲ付シテ警戒セラレタル為メ游行ハ極メテ静肅裡ニ午後四時解散セリ尚当日ハ支那側当局ニ於テハ万一ヲ慮リ武装憲兵五名ヲ當館ニ特派シテ警備ニ任セシメタリ

右御参考迄報告申進ス

本信写送付先 在支公使

五八八 四月二十四日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

楊村事件ノ解決遷延ノ際ハ大沽事件ヲ先行解決スベキ旨報告ノ件

了セル解決要項ニ対シ適確ナル意思表示ヲ要求シ且右要項ニ基キ国民軍側ノ実行方法如何ヲモ照会シ置キタル旨ヲ答ヘ外交部トシテハ兩事件トモ国民軍側ヨリ正式ニ報告有ルニ非サレハ正式ノ手續ヲ執リ難キ立場ニ在ルハ之ヲ諒トセラレ度シト弁明シ右ニ対シ本使ハ事態遷延ヲ許ササル事ヲ切言シ国民軍側ヨリノ回答督促方ヲ嚴重要求シタル処結局胡総長ハ来週火曜日迄ニ回答ニ接セサルニ於テハ水曜日督促ノ電報ヲ發ス可シト答ヘタルヲ以テ更ニ本使ハ楊村事件解決案ニ多少ノ異議有ルノ故ヲ以テ国民軍側ニテ異議無キ大沽事件ノ正式協定ヲモ荏苒斯ク遅延セララルハ甚タ遺憾ニ付楊村事件解決遷延セハ大沽事件タケノ正式協定ヲ締結スル事トシ度シト説示シタルニ胡総長モ之ヲ諒トシ張家口ニ督促ノ場合ニハ右ノ点ヲモ指摘シテ先方ノ考慮ヲ促ス可キ旨ヲ約セリ楊村事件解決遅延ノ場合大沽事件ヲ先ツ以テ解決スル事ハ貴電第九五号前段ノ御趣旨ニモ副フモノト認メ右ノ通取計ヲヒタル次第ニ付若シ御異存有ラハ折返シ其旨御電報ヲ請フ

五八八

五月一日

在成都樺松總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

成都ニ於テ大沽事件、三・一八事件反対デモ
隊我ガ総領事館内ニ侵入シ破壊暴行シタル件

第四号

(編註 途中郵送ノ為遲者)
(五月十四日接受)

大沽事件ニ基因セル北京惨害事件ニ対スル当地後援会ナルモノノ内国家主義ヲ唱フル一部学生其他一派ハ四月二十八日西練兵場ニ集合ノ上市中示威游行ヲ為セリ例ノ通り排外の標語ヲ高唱シツツ当館前ヲ過リ中城公園ニ至リ散会セリ同游行団全部ノ当館前通過ノ直後約十二時半頃ヨリ群衆ハ当館前ニ留リ当館ニ対シ惡罵ヲ加ヘ居タルカ漸次其數ヲ増シ遂ニ閉門セル門内ニ石塊ヲ乱投セリ本官ハ支那側ニ軍隊ノ派遣ヲ求ムルト同時ニ群衆ニ対シ其要求スル処ヲ聴取スヘキニ付暴行ヲ中止スル様説示セルモ何等之ニ耳ヲ藉サス正門内ニ入ラントスルヤ又々投石ヲ初メ危險極ナキニ付再ヒ閉門ノ上支那側ニ保護方督促セルモ電話不通トナレル為再三入ヲ派遣シ出兵ヲ求メタリ此間約一時間半ヲ經過セリ本官及今巡査ハ事務所ニアリ成行注視シツツアリシニ約二十分ノ後約三百ノ暴徒ハ遂ニ大門ヲ破壊シ構内ニ闖入シ使用人居室窓扉等ヲ破壊シ夫ヨリ本館内ニ闖入階下各室全部ノ窓扉ヲ打破リ室内外ノ器物ヲ手当リ次第打碎シ十數名ハ

二階ニ押上リ窓扉等數ヶ所ヲ破壊シタルカ本官ノ極力阻止ニ依リ階上ハ大破壊ヲ為スニ至ラサル際約三時頃漸ク城防司令派遣兵來館シ暴徒ヲ放逐セリ該兵本官面前ニ於テ三四名ノ暴徒ヲ取押ヘタルモ其後放還シタルモノノ如ク一人ノ被逮捕者ナク且銃床ヲ以テ本官ノ腰部ヲ殴打スル等無智暴戾ニシテ却テ危險ニ付他兵ト交代セシメ目下兵警約二十ニテ警戒中

群衆ハ普通服及軍服ヲ着シ学生服ノ者ヲ發見セス彼等構内闖入後館内人員ニ対シテハ何等危害ヲ加ヘントスルノ状ナク少數被奪品有リタルモ右ハ付近貧民其他カ混雜ニ乗シ持去リタルモノト認メラル闖入ノ目的ハ主トシテ器物破壊ニアリタルモノト思考セラル館内人員ノ身体重要書類等ニハ異状ナシ支那側ニ対シ一応事件ノ顛末ヲ通告シ取締ノ不充分ナリシ点ニ関シ特ニ嚴重抗議シ反面今後(?)本邦人生命財産ノ完全ナル保護ニ対シ深甚ナル注意ヲ喚起シ置ケリ混雜ト人手不足ノ為發電遅延ス御了承アリタシ在支公使ヘ転電シ重慶ヘ暗送セリ

五九〇

五月五日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村両事件解決交渉国民軍トノ連絡不

充分ノタメ遅延ノ件

第三三九号(極秘)

(五月六日接受)

往電三一七号ニ関シ
其後ノ經過大要左ノ通

(一)往電第三〇三号中段方夢超ヨリ鹿鍾麟ヘノ電報ヲ張家口山崎領事ヲシテ鹿ニ然ルヘク伝達セシムル方法ヲ講スルト共ニ一方同領事ニ電訓ノ上鹿ニ対シ張之江ニ於テ異議有リト称スル楊村事件責任ノ問題及弔慰償金額ノ二条件ハ我方ニ於テ既ニ仮調印ヲ了セル解決要項以上ニ到底讓歩シ難キ事ヲ力説シ至急外交部ニ対シ両事件解決要項全部承認ノ旨打電方ヲ交渉セシムル事トセリ

(二)外交部ニ対シテハ絶ヘス接觸ヲ保チ極力解決ノ促進ヲ計リツツアル処同部ニ於テハ四月二十一日張家口ヘ電報セル外往電第三一七号本使ニ対スル約ニ從ヒ二十八日更ニ督促ノ電報ヲ發シタルモ未タ何等回答ニ接セス実ハ対国民軍戦局ノ為電報ノ着否モ明ナラス当惑シ居レリト事ニ付更ニ赤峰經由山崎領事ニ対シ右外交部電報ノ着否ヲ質シ進ンテ一日モ速ニ鹿ヨリ外交部ニ返電方ヲ勧告スヘ

キ旨電訓シ置タリ

五九一

五月十一日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村両事件解決ニ関スル鹿鍾麟ノ意向

報告ノ件

第三四六号

(五月十一日接受)

在張家口領事發本官宛電報

第二三三号

貴電第二二二二号ニ関シ

七日鹿鍾麟ヲ訪問シ詳談シタル処二十八日外交部發ノ電報ニ接シタルヲ以テ既ニ五六日前左ノ意味ノ回電ヲ發シタリ「大沽事件ハ賀財政總長ノ衷情ヲ知悉シ居ル事ニモアリ異存ナキニ付然ルヘク処置アリタシ又楊村事件ハ自分ハ全ク關係ナキモ自分ノ意見トシテハ外交部ニテ適當ト思フ程度ニテ処置シ異存ナシト回電セリ」

トノ応答ナリ

右ニ付両事件トモ此際同時ニ解決方懇談ヲ遂ケタル処勿論同意ナルモ楊村事件ハ張督弁カ事実ノ確証ナキ事ニテ知悉セサルハ全然同意スル事甚タ心苦シト主張シ居ルヲ以テ自

分ヨリモ此上強ヒテ同意ヲ勧告スル訳ニモ行カス依テ前記ノ通外交部ヘ回電シテ其措置ニ任ス外全ク方法ナシトテ寧ロ張ニ同情シ居ル態度ナリ就テハ右外交部ノ措置振何分ノ儀回電アリタシ

五九二 五月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村兩事件解決ニ関シ更ニ鹿鍾麟ノ真

意確認方山崎領事ニ指示ノ件

(編註) 在支公使張家口宛電報 (五月二十日接受)

第二十九号

貴電第四四号ニ関シ

御承知ノ如キ時局ニテ此際自発的ニ責任ヲ以テ本件ヲ解決スルノ勇氣ナク只張家口ヨリノ返電次第ニテ動クヘキカト期待シ居ル実情ナリ然ルニ貴電ニ依レハ鹿鍾麟ノ外交部ニ対スル返電(外交部ニテハ未タ何等返電ニ接セスト称シ居レリ)ノ意味甚タ明瞭ヲ欠キ居ルモ畢竟楊村事件ノ如キ全ク外交部ノ措置振ニ一任セントスル底意ニ非サヤト察セラレステハ当地ニ於テ外交部ニ敵談ヲ試ムルモ解決容易ナラス寧ロ事態ヲ逆転セシムルノ虞有リ要スルニ此際本件促進

五九三 五月二十九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村兩事件ハ先キノ解決要綱ニ基キ迅

速ニ完結スベク鹿鍾麟ヘ交渉方ノ件

第三八二号 (五月三十日接受)

本使張家口宛電報

第三五号

貴電第四五号ニ関シ

鹿鍾麟ノ態度ハ本使ノ頗ル意外トスル処ナリ

(一)鹿ノ代表唐ト本使トノ間ニ調印セル大沽事件解決要項ハ唐ヨリ一応鹿ニ報告後直ニ外交部ニ必要ノ手續ヲ執リ一方慰藉金支払方ニ付テモ早速財政部ニ折衝ス可キ且ツ鹿ノ遺憾表示ノ時日モ遲滞無ク取り纏ムル事トナリ右ノ結果四月十六日夕刻鹿本使來訪遺憾ヲ表示シ終テ本使ノ饗宴ニ移ル可キ打合セヲ遂ケタル次第ナリ將又前記解決要項ニ付テハ鹿ニ於テモ何等異議無カリシ処ナリ

(二)楊村事件ニ関シ本使ノ確聞セル処ニ依レハ張之江ノ異議ハ責任ノ所在及ヒ賠償金ノ二点ニ存シ前者ニ付テハ単ニ失踪又ハ遭難等出来得ル限り字句ヲ緩和シ又賠償金モ若

ノ為ニハ国民軍首脳部ヲ動カスノ外ナキ羽目ニアル次第ニ付現下ノ情勢ニ照シ頗ル困難トハ思考スルモ今一応累次往電ノ次第ヲ鹿ニ説示シ殊ニ左記各項ニ付懇談ヲ遂ケラレ結果電報アリタシ

(一)鹿ノ外交部宛返電ニ依レハ大沽事件ニ関シテハ本使ト唐悦良ト調印スル要項全部ヲ確認セルモノト認ム

(二)同事件ニ関シ鹿ノ本使ニ対スル遺憾表示ハ電報(又ハ書面)ニ依ルカ又ハ有力ナル代表者ヲシテ実行セシムルヤ

(三)楊村事件ニ関スル鹿ノ外交部宛返電ノ趣旨明確ナラス唐悦良ハ全權代表トシテ本使ト解決要項ニ仮調印ヲ了セル次第ニテ而モ当時唐カ一応西北督弁ノ承認ヲ求メタシト云ヘルハ解決要項中責任者処罰ノ一項ニ過キス今回鹿ノ外交部宛返電ノ趣旨モ勿論解決要項ノ根本義ニ付テハ異議無キモノト確信スルモ本事件ニ対スル先方ノ真意ニ付鹿ノ率直淡泊ナル説明ヲ求メタシ

(四)楊村事件ニ関スル遺憾表示ハ前記大沽事件ニ関スル分ト共ニ此際一日モ速ニ実行ノ方法ヲ講セラレタシ
外務大臣ヘ暗送セリ

編註 電番不明

干減額シ度シトノ意向ナリシ由(以上ハ勿論吾方ノ容易ニ承服シ難キ処ナリ)ナルカ最近ニ於テハ全然責任ヲ回避スルノ態度ニ出テツツ在ル次第ニシテ三月下旬吾駐屯軍調査班(在天津總領事館員参加)ヲ楊村ニ派遣シタル際国民軍側ノ立会検査ヲ求メタルニ拘ラス同軍側ニテ言ヲ左右ニ託シテ之カ参加ヲ回避シ然モ徹頭徹尾事件ノ責任無シト強弁スルカ如キ全然ソノ誠意ヲ認メ難シ当地方ニ在ル国民軍側關係者ハ何レモ吾陸軍側ノ説明ヲ首肯シ解決要件ノ妥当ナルヲ認メツツ在ルニ拘ハラス独リ張之江ノミ責任回避ノ強弁ヲ繰リ返シツツ在ル次第ナリ

右様ノ次第ニ付貴官ヨリ今一応鹿ニ対シ以上ノ事實ヲ告ケ苟モ一國代表者ト鹿ノ全權代表トノ間ニ一旦調印ヲ了セル解決要項ノ根本義ハ斷シテ変更ヲ許シ難キ旨ヲ力説シテ先方ノ反省ヲ促シタル上大沽事件ニ関シテハ鹿ニ於テ異議無キ旨明確ニ外交部ニ打電スルト同時ニ一日モ速ニ本使ニ対シ電報ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表ス可キ旨又楊村事件ニ関シテモ前記ノ事實ヲ告ケ且ツ別電第三六号ノ次第ヲ適宜説示シ且ツ又張之江ニモ勧告シテ速ニ解決要項ヲ承認シ以テ遲滞無クコノ不快ナル事件ヲ完結スル事トシ度旨御交渉ノ上結果

電報有り度シ別電ト共ニ大臣へ転電セリ

五九四 六月一日 在成都稱松総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

我が総領事館破壊暴行事件ニ対シ成都官憲ト

折衝経過報告ノ件

第六号

(六月七日接受)

機密第六九号拙信ニ関シ

当地交渉員代理ヨリ城防兵ノ暴行者放還及本官ニ対スル暴行ニ関シ城防司令ハ関係兵ヲ懲戒免職セル旨通知アリ又交渉員^{ブリュッセル} 帰来二十七日日本官来訪本件発生ニ関シ遺憾ノ意ヲ表シタルカ本官ハ同員ニ対シ本件ハ帝国政府ニ稟申中ノ処解決条件ニ付テハ未タ訓令ニ接セス不明ナル処其条件ノ如何ニ拘ラス支那カ当然進シテ採ラサルヘカラサル必要事項ト認メラルル点ニ関シ先ニ劉湘等ニ警告シ置キタル次第ニ付改メ注意ヲ喚起セル処同員ハ本件ニ関シ帰来直ニ劉湘等ト懇談ヲ遂ケタル次第ナルカ(一)暴行者有無取調へ検査直接暴行者検査等目下極力実行中ニテ(二)損害賠償(三)今後保障ハ無論之ヲ実行スヘク目下省財政不如意ノ際ナレハトテ先ニ通告セル概算額五千元ヨリ多少減額セシメントスル意向

本使発張家口宛電報

第三七号

鹿鍾麟ヨリ貴官ニ託送セル呂習敦宛書面大沽事件ハ唐悦良交渉ノ結果ニ基キ先ツ処理スル様日本公使ニ転達アリタシトアリ就テハ貴官ハ鹿ニ対シ右ノ点ヲ指摘シ右同様ノ趣旨ヲ明確ニ外交部ニ打電スルト同時ニ速ニ本使ニ対シ電報ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表明スル様嚴重交渉有度
外務大臣へ転電セリ

五九六 十一月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村両事件解決促進ノタメノ具体策ニ

付キ上申ノ件

第七七三号

楊村大沽事件ニ関シテハ一ハ政情ノ変転ニ累セラレ容易ニ最終的解決ヲ告クルニ至ラス一方在張家口領事段々ノ尽力ニモ不拘逐ニ国民軍ノ撤退ト共ニ同領事ノ努力モ差当リ水泡ニ帰スルニ至リ殊ニ遺憾ニ堪ヘサルモ然リトテ此ノ上永ク未解決ノ儘ニ放任シ難キ次第ナルニ付テハ四月十二日本使唐悦良協定ノ建前ヲ変セサル程度ニ於テ此ノ際左ノ各項

四大沽事件 五九六

ヲ仄メカシ四陳謝ニ付多少遜色アリシカ本官ハ右損害高調査中ニシテ未タ正確ノ数不明ナルモ右ハ実損害ニ過キサリ旨並ニ陳謝ニ関シテハ吾方ニ対シ支那側ノ誠意ヲ示スヘキ最緊要事項ナルコトヲ懇説シ置キタルカ(五)交渉員ハ支那側派兵ノ緩慢ナリシ点ニ関シ命令ノ徹底セサリシモノアリシハ遺憾ナル処当地ハ群雄割拠ノ有様ニテ各軍隊及諸機關所屬混乱シ且劉湘ノ地位動揺シ居ル際ノコトナレハ此点充分洞察有度キ旨ヲ以テセリ(六)尚本官ハ暴行者中支那兵加入シ且一般ニ当地方支那兵ノ素質極メテ不良ニシテ右ハ恐ラク何人モ認メ居ル処ナレハ之カ取締上今後劉湘等ニ於テ各軍領袖トモ充分協議ノ上必要ナル措置ヲ講シ適宜ノ安全保障ニ任セラレ度キ旨申入レタル処同員該詳細劉督弁等ニ報告スヘキ旨ヲ以テ辞去セリ
在支公使、漢口、重慶へ転電セリ

五九五 六月四日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

鹿鍾麟ニ対シ大沽事件ハ解決要綱ニテ処理ス

ベク外交部ニ打電方等交渉ノ件

第三九一号

ニ準シ外交部トノ間ニ實際的解決ヲ試ムル方然ルヘキカト思考ス

(一)楊村事件ノ責任者カ国民軍第一軍ナリヤ否ヤニ関シテハ支那政府ハ均シク支那軍隊ノ所為トシテ其ノ責ニ任スルヲ至当トストノ建前ニテ交渉スル事

(二)日本側ニ交付スヘキ両事件ニ関スル賠償金ハ分割支払ノ方法ニ依ルヲ妨ケス且例ヘハ之ヲ塩税剰余ヨリ支弁スルニ付日本側ニ於テ相当好意的斡旋ヲ辞セサル事(大沽事件ニ関シ日本側ヨリ贈与スヘキ金員ハ差引勘定ノ事)

(三)責任軍隊長官ノ陳謝ハ当然ノ事ニシテ国民軍当局ニ於テモ何等異議無カリシ処ナルモ之カ実行ハ差当リ不可能ノ事態ニアルニ付実行ハ将来ノ機会ニ於テ適當ノ方法ヲ講スル事トスル事

(四)外交部ハ此ノ際正式ニ文書ヲ以テ日本公使ニ対シ両事件ニ付深甚ナル遺憾ノ意ヲ表シ且ツ将来ニ対スル保障ヲ為ス事

(五)以上各項ノ内此ノ際(二)及(四)ヲ速ニ実行シテ両事件ノ實際的一段落ヲ計ル事
尤モ御承知ノ如キ政局ニテ現政府ノ基礎モ甚タ確固ナラス

從テ外交部ニ於テ以上實際の解決ノ促進ニ對シ責任ヲ以テ之ニ応スヘキヤ否ヤハ確知シ難キ次第ナルモ前記ノ方針ニ依リ善後措置ヲ図ルニ御異存無之ハ適當ノ機会ヲ捉ヘ會談ヲ試ムル事ト致シタク尚賠償額モ多額ヲ求メテ時日ノ遷延ヲ見シヨリハ寧ロ少額ニ甘ンシ即決セシムル方得策ナリト思考ス

何分ノ儀御電訓ヲ請フ

張家口へ暗送セリ

五九七 十二月十六日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大沽、楊村兩事件解決条件ヲ顧外交總長ニ開
示シタル旨報告ノ件

付記 昭和二年十二月亜細亞局第一課作成調書

楊村事件及ビ大沽事件交渉経過概要

第八一六号

貴電第四二四号ニ関シ(大沽楊村事件)

其後顧維鈞ノ辭職通電等ニ依リ時局安定セサル為一時支那側ヘノ交渉ヲ差控ヘ居リタルカ余リニ遷延ノ虞モアルニ付十五日日本使顧ニ會見ヲ求メ先ツ兩事件ノ経過ヲ述ヘタル後

同軍曹一行ハ翌十日楊村ニ到着シタル歩兵大尉野添昌徳以下三名ト落合ヒ交通班ヲ組織セリ

右十名ノ交通班ハ楊村停車場附近ノ民家ニ寄寓シ同所ヲ根拠地トシテ作業ニ着手シ十日夜半ニ至リ辛フシテ電線連絡ヲナシ得タルモ十一日早朝以來楊村駅ノ南方ニ於テ再ヒ切断セラレタルヲ以テ同班員ハ之カ補修ニ焦慮シタルモ恰モ当日ハ對峙中ノ兩軍ノ交戦酣ニシテ其機會ヲ得ス越エテ十二日戦況稍閑散トナリタルヲ以テ再ヒ作業ヲ開始セルニ同日正午頃同班員タル駐屯軍雇員通訳日高為雄、同猪上清四郎ハ軍用電線破壊ノ嫌疑ヲ以テ突然国民軍ノ為ニ付近ノ民家ニ拉致監禁セラレ又同日十時頃單身北倉方面ノ電線視察ニ向ヒタル難波軍曹ハ途中一度電話連絡ヲ行ヘルモ爾後全ク行衛不明トナレリ

野添大尉ハ右報告ニ接スルヤ日高、猪上兩雇員ノ釈放方ト共ニ難波軍曹ノ搜索又ハ日支共同調査ヲ同地国民軍司令部ニ對シ交渉シタルモ司令部當局ハ言フ左右ニ托シテ之ニ応セス交渉全ク絶望トナリタルヲ以テ同大尉ハ止ムナク十五日北京ニ帰還セリ

(二)難波軍曹殺害現認

往電第七七三号ニテ御打合ノ条件ヲ具シタル覚書(別途送付ス)ヲ手交シ同時ニ本件ヲ此上未解決ノ儘ニ放置シ得サル次第及特ニ支那側ノ事情ヲ斟酌シ事件ノ速急解決ヲ期スル為其条件モ緩和シアル次第等篤ト説明ヲ加ヘ顧ノ尽力ヲ要望スル旨申入レタルニ顧ハ早速書類等ニ就キ研究ヲ為スヘシト答ヘタルカ本使ヨリ更ニ成ルヘク速ニ研究ノ上何分ノ意見回示方要求シタルニ對シ顧ハ之ヲ承諾セリ

張家口へ暗送セリ

(付記)

昭和二年十二月亜細亞局第一課作成調書

楊村事件及ビ大沽事件交渉経過概要

楊村事件及大沽事件交渉経過

第一、楊村事件

(一)難波軍曹行衛不明

大正十四年十二月初旬国民軍及李景林軍カ楊村及北倉一帯ニ對峙シ衝突ヲ開始シタル以來北京天津間ノ日本軍用電線ハ屢々故障ヲ生シ通信困難トナリタルヲ以テ我カ天津駐屯軍司令部ハ該電線ノ修理及保線作業ニ当ラムル為工兵軍曹難波徳雄以下七名ヲ同月九日夕天津出發楊村ニ向ハシメ

在支帝國公使館ニ於テハ十二月十二日同地帝國駐屯歩兵隊ヨリ日高猪上兩雇員逮捕ノ通報アリタルヲ以テ直チニ館員ヲ京畿警衛總司令部ニ派シテ右兩名ノ即時釈放方ヲ要求シ又翌十三日難波軍曹行衛不明ノ報告ニ接シタルヲ以テ再ヒ同司令部ニ對シ同軍曹ノ搜索方並兩雇員ノ釈放方ヲ要求シタルカ何レモ要領ヲ得ルニ至ラス

依ツテ芳沢公使ハ十二月十五日馮玉祥ニ電報シテ右三名ノ釈放方ヲ要求スルト共ニ十七日外交部ニ對シテ事件ノ要領ヲ述ヘ至急當該軍憲ヘ訓達ノ上右三名ヲ速時釈放セシメ且將來此ノ種違法行為ヲ繰返サシメサル様適切ナル措置ヲ講スルコトヲ要求スル旨並將來事件ノ調査ヲ俟ツテ何分ノ解決方法ヲ提議スヘキ旨ノ覚書ヲ交付シ之ト同時ニ北京ヨリ前線ニ向ヒタル国民軍側外交員等ヲ介シ嚴談スル所アリタルモ釈放セラルルニ至ラス依ツテ帝國政府ハ同月二十二日芳沢公使ニ對シ更ニ嚴重交渉スヘキ旨訓令セリ

然ルニ十二月二十六日午後ニ至リ日高、猪上ノ兩雇員ハ突如釈放セラレ北京警衛司令部ヨリ其ノ身柄ヲ引取りタルカ難波軍曹ノ行衛ニ関シテハ我方ノ釈放方嚴談ニ對シ同部ハ交渉ヲ回避シ其ノ消息依然不明ナルヲ以テ芳沢公使ハ同月

二十七日館員ヲ張家口ニ派遣シ馮玉祥ニ会见セシメ難波軍曹ノ行衛嚴重捜査方申入レシメタル処馮ハ部下ニ命シテ至急捜索ヲナサシメ追テ何分ノ回答ヲナスヘキ旨答ヘタルヲ以テ同館員ハ本事件ノ重大ナルヲ念ヲ押シ引取りタルカ越エテ本年一月十三日芳沢公使ハ王外交総長ト会见ノ際本件ニ言及シ卒直ニ事実ヲ發表セシムル様取計ヲハレ度キ旨申入レタルニ同総長ハ兩國ノ国交上及人道上ノ見地ヨリ徹底的ニ調査セシム可ク取計フ可キ旨答ヘタリ

其後難波軍曹ノ行衛捜査方ニ付支那側ヨリ何等ノ回答無カリシヲ以テ芳沢公使ハ一月十五日付ヲ以テ京畿警衛總司令部ニ対シ同軍曹ノ身柄引渡方照会ヲ發シタルカ同部ハ四月十八日付ヲ以テ同軍曹逮捕ノ事実ヲ否認シ来リ次イテ二月五日沈秘書外交総長ノ意ヲ受ケ在支公使ヲ訪問シ同総長ヨリノ照会ニ対シ本件直接ノ責任者タル前敵司令官張之江ヨリ難波軍曹ニ付テハ何等知ル所ナキ旨回答ニ接シタル趣申出タリ

他方我カ駐屯軍側ニ於テハ公使館側ノ正式交渉ト相呼応シテ裏面ヨリ本件ノ穩便解決ノ得策ナルコトヲ以テ支那軍憲側ヲ説得シ之ヲシテ難波軍曹ノ遭難ニ関スル支那側ノ責任

井副領事ハ金ト共ニ再ヒ楊村ニ赴キタルニ同科長ハ難波軍曹ノ遺骸及之ニ関スル証拠品ヲ現認シタルヲ以テ白井副領事、湯淺副官及金在業ノ三名ニテ現認狀ニ署名セリ

(二)北京ニ於ケル善後交渉

難波軍曹ノ行衛不明トナレル以來芳沢公使ハ國民軍ノ總指揮者タル馮玉祥及京畿警衛總司令タル鹿鍾麟並北京外交部ニ対シ本件ノ徹底の調査方ニ関シ夫々嚴重ナル要求ヲ為シ来レルモノモ實現スルニ至ラス然ルニ他方我カ駐屯軍側ノ蒐集シ得タル情報ニ依リ同軍曹カ楊村ニ於テ國民軍々隊ノ為メニ殺害セラレタルコト殆ント疑フノ余地無キモノアルニ至レルヲ以テ帝國政府ハ善後措置ニ関スル対支交渉上ノ腹案トシテ(一)支那側ニ於テ難波軍曹ノ殺害ヲ告白スルニ至レル場合ニハ

- 一、不法抑留者加害者等直接責任者ヲ処罰スルコト
- 二、第一軍(張之江軍)代表者ヲシテ我カ軍司令官又ハ張家口帝國領事ニ対シ遺憾ノ意ヲ表セシムルコト
- 三、将来ヲ保障セシムル為メ第一軍司令官ヨリ管下一般ニ訓令ヲ發シ戒飭セシムルコト

四、難波軍曹ニ対シ弔慰金一萬元、日高猪上兩名ニ対シ慰

ヲ告白セシムルニ努メ他方同軍曹ノ遭難ニ関スル証拠品ノ蒐集ニ努力スルト共ニ支那側責任者タル張之江ニ対シ極力解決方ヲ懇懇スル所アリタルモ張ハ依然事件ヲ関知セサルコトヲ以テ応酬シ三月中旬ニ至ルモ何等誠意ノ徴スヘキモノヲ見サリキ

茲ニ於テ天津帝國駐屯軍ニ於テハ三月二十九日湯淺高級副官、野添大尉等一行十余名ノ調査班ヲ楊村方面ニ派遣シ之ニ対シテハ天津帝國總領事館ヨリモ白井副領事ヲ出張セシメ右駐屯軍側ノ証人喚問並証拠品捜査ニ立会ハシムルコトトナレリ

右ノ調査班カ楊村ニ於テ調査ノ結果遂ニ難波軍曹カ一支那人家屋ニ監禁セラレタル事実判明シ同人家屋カ種々ノ点ヨリ張之江軍ノ司令部タリシヲ推知シ得タルノミナラス翌三十日楊村付近ノ塹壕内ニ於テ同軍曹ノ遺骸ト確認スヘキモノヲ発見シ且右支那人家屋付近ニテ其他之カ有力ナル証拠トナル可キ品多数ヲ集メ得タルヲ以テ其ノ機ヲ失セス外交部及國民軍側ノ立會檢査ヲ求メタルモ支那側ヨリハ何等明確ナル意思表示ニ接セス依ツテ天津交渉員ニ交渉ノ結果同署ヨリ科長金在業ヲ派スルコトトナリ四月七日右調査班並白

藉金各一千元乃至二千元ヲ支出スルコト

ヲ要求シ(二)若シ支那側ニ於テ同軍曹ノ殺害ヲ否認シ単ニ逮捕後行衛不明トナレルコトヲ主張スル場合ニハ前案各項中(一)乃至(三)ハ其儘之ヲ存統シ並(四)慰藉金トシテ合計一萬元ヲ支出シタル上之カ配分方ヲ我方ニ一任スルコトヲ要求スルコトニ決定シ二月十三日之ヲ芳沢公使ニ訓令セリ

北京ニ於テハ芳沢公使ハ小泉駐屯軍司令官ト協議ノ結果支那側ヲシテ難波軍曹ノ逮捕ヲ自認セシムルコトヲ以テ先決問題ト認メ此ノ点ニ付極力努力ヲ続ケ来レルモ依然要領ヲ得サリシニ付張家口領事並駐屯軍ヨリノ代表員ヲシテ支那側責任軍憲ト交渉ヲ遂ケシメ其ノ發展如何ヲ見タル上適當ト認メタル時機ニ於テ前記要求条件ヲ提出スルコトニ打合セレリ

然ルニ其後張家口領事ニ於テ駐屯軍派遣員ト共ニ有ラユル手段ヲ講シテ支那側ノ解決空氣ヲ醸成セシムルニ努メタルモ何等著シキ効果ヲ見ルニ至ラス此上ハ我方ニ於テ現場ニ就キ同軍曹遭難ノ確証ヲ挙げタル上中央ニ於テ交渉ヲ進ムルノ外無シト認メタルヲ以テ駐屯軍側ヨリ調査班ヲ派遣シ三月末楊村ニ於テ同軍曹ノ死体及多数ノ証拠品ヲ発見シタ

ルコト前項記述ノ如シ

偶々三月十二日大沽ニ於ケル国民軍ノ帝國駆逐艦射撃事件
發生シ在支公使ニ於テ同伴解決方ニ関シ国民軍側並外交部
ニ対シ交渉ヲ開始スルニ至レル際ナルヲ以テ両事件ニ共通
ノ責任者タル国民軍当局ノ在京中ヲ機トシ両件ヲ同時ニ交
渉スルコトナリ四月一日外交総長ニ対シ大沽事件ニ関ス
ル覚書ト共ニ本件ニ関シテモ難波軍曹ノ運命ハ幾多ノ確証
ニ依リ之ヲ断定スルニ難カラサル次第ヲ言明シタル上

一、直接責任者ヲ処罰スルコト

二、遭難者ニ対シ賠償金ヲ贈ルコト

三、責任アル支那軍隊ノ最高代表者ニ於テ駐支日本代表者
ニ対シ親シク謝罪ノ方法ヲ講スルコト

四、支那政府ハ駐支日本公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺
憾ノ意ヲ表スルト同時ニ將來此種事件ヲ發生セシメサル
為メ適確ナル保障ヲ為スコト

等ノ要求事項ヲ列記セル覚書ヲ手交セリ

楊村ニ於ケル我方現場調査ノ結果ニ対シ天津交涉署員カ四
月七日現認狀ニ署名セルコト前記ノ如クニシテ更ニ外交部
及国民軍側ヨリノ調査員派遣ニ付テモ折角督促中ナリシ処

北京方面ノ政局ノ急変転ニ顧ミ大沽事件ト共ニ速カニ本件
ノ解決要綱ヲ協定シ置クヲ必要ト認メタルヲ以テ四月十二
日芳沢公使ハ外交総長ト右両事件ニ付談合ノ結果我方ニ取
リ多少ノ不満足ナル点ハ此際之ヲ隱忍スルコトト為シ大沽
事件ニ関スルモノト共ニ本件解決要綱トシテ次ノ諸項ヲ打
合ハセ同公使及鹿總司令代表唐悅良ノ名義ヲ以テ同総長ト
ノ間ニ仮調印ヲ了シタリ

一、難波軍曹ハ事実上ノ証明ニ依リ国民軍第一軍ニ於テ殺
害セラレタルコトヲ認定ス但シ同軍曹ヲ誤殺セル者ニ付
テハ戰爭中ニテ糺明シ難ク右承認方ニ関シテハ在支公使
ヨリ日本政府ニ請訓シ一方張之江、及鹿鍾麟ニ対シテハ
唐悅良ヨリ請訓スルコト

二、日本側遭難者ニ対シ撫恤金トシテ總額銀三萬元ヲ贈ル
コト

三、在支公使ニ対シ鹿鍾麟ハ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルコ
ト

四、在支公使ニ対シ支那政府ハ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ
意ヲ表スルト同時ニ將來此ノ種事件ヲ發生セシメサル様
保障スルコト

(一) 国民軍ノ帝國駆逐艦射撃

客年三月山東軍ノ一部カ海路大沽方面ヨリ天津ヲ衝カムト
スルヤ同地ノ国民軍ハ同月八日以来大沽「シグナル」ステ
ーション」ヲ占領シ夜間標識ヲ消燈シ水先案内ノ港外ニ出
ツルヲ禁スル外南砲台ノ水道ニ水雷ヲ沈没スル等全ク船舶
ノ交通ヲ杜絶シ在天津日英兩國總領事ノ抗議ニ拘ハラス国
民軍側ニ於テ速ニ之ニ応スルノ模様無カリシヲ以テ天津議
定書關係國領事協議ノ結果各国海軍力ヲ以テ山東軍団側及
砲台側ヲ制止シ各国船舶ノ通航ヲ安全ナラシムルコトニ決
定シ更ニ北京公使団ニ於テハ右ノ報告ニ基キ三月十二日
英、米、仏、伊、日、五国公使會議ヲ開キ討議ノ結果在大
沽各自国海軍軍憲ヲシテ同地支那軍憲ニ対シ

一、大沽天津間戰鬪行為ノ停止

二、水雷其他障礙物ノ除去

三、航海標識ノ現状回復

四、支那軍用艦船ノ大沽外退去

五、税関吏ニ依ル外国船ヲ検査セサルコト

ノ五項ヲ要求シ十六日朝迄ニ満足ナル保障ヲ得サル場合ニ
ハ一九〇一年最終議定書ニ基キ必要ナル措置ヲ執ルヘキ旨

ルコト前項記述ノ如シ

偶々三月十二日大沽ニ於ケル国民軍ノ帝國駆逐艦射撃事件
發生シ在支公使ニ於テ同伴解決方ニ関シ国民軍側並外交部
ニ対シ交渉ヲ開始スルニ至レル際ナルヲ以テ両事件ニ共通
ノ責任者タル国民軍当局ノ在京中ヲ機トシ両件ヲ同時ニ交
渉スルコトナリ四月一日外交総長ニ対シ大沽事件ニ関ス
ル覚書ト共ニ本件ニ関シテモ難波軍曹ノ運命ハ幾多ノ確証
ニ依リ之ヲ断定スルニ難カラサル次第ヲ言明シタル上

一、直接責任者ヲ処罰スルコト

二、遭難者ニ対シ賠償金ヲ贈ルコト

三、責任アル支那軍隊ノ最高代表者ニ於テ駐支日本代表者
ニ対シ親シク謝罪ノ方法ヲ講スルコト

四、支那政府ハ駐支日本公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺
憾ノ意ヲ表スルト同時ニ將來此種事件ヲ發生セシメサル
為メ適確ナル保障ヲ為スコト

等ノ要求事項ヲ列記セル覚書ヲ手交セリ

楊村ニ於ケル我方現場調査ノ結果ニ対シ天津交涉署員カ四
月七日現認狀ニ署名セルコト前記ノ如クニシテ更ニ外交部
及国民軍側ヨリノ調査員派遣ニ付テモ折角督促中ナリシ処

第二、大沽事件

次イテ同日芳沢公使ハ国民軍司令鹿鍾麟代表唐悅良トノ間
ニ右解決要項ノ儘調印ヲ了シ右ニ基キ鹿鍾麟ハ四月十六日
親シク芳沢公使ヲ訪問シ大沽事件ト共ニ本件ノ發生ニ対シ
深甚ナル遺憾ヲ表明ス可キ約ナリシモ戰局急変シ同司令及
国民軍ハ十五日北京ヲ撤退シタル為其ノ約ヲ実行スルニ至
ラス鹿ノ代表トシテ前記解決要綱ニ調印シタル唐悅良ノ如
キモ国民軍ノ引揚以來身辺ノ危険ヲ虞レ某所ニ隠レテ其ノ
活動モ望ミ難キ状態ニ立到レルヲ以テ同二十日芳沢公使ハ
外交総長ヲ往訪シテ鹿ヲシテ前約ヲ実行セシムルニ付勇斷
ナル措置ニ出テムコトヲ申入レタルニ同総長ハ差当リノ便
法トシテ唐悅良ヲシテ陳謝セシムルヲ得策トスヘキニ付鹿
ノ所在ヲ突止ムヘキ旨ヲ申出テタルニ付同公使モ之ニ同意
シ置キタリ

然ルニ其後唐悅良ノ所在判明セルモ張之江ニ於テ本件解決
案ニ付異議アリトノ理由ニテ外交部ニテモ夫レ以上ノ措置
ニ出ツルヲ厭ヒタル為メ中央ニ於ケル本件解決交渉ハ後記
大沽事件ニ関スル交渉ト共ニ遂ニ停頓スルニ至レリ

ヲ通告セシムルコトトセリ之ト共ニ右大沽方面ノ事態ニ鑑ミ帝國政府ハ大沽水道ニ於ケル船舶ノ自由航行ヲ確保センカ為旅順ヨリ第十五驅逐隊藤、薄、萩、蔦ヲ大沽方面ニ派遣シ右四隻ノ内藤、薄ノ二隻ハ三月十二日天津ニ遡行セントシ之ニ関シ在天津帝國總領事ハ京畿警衛總司令鹿鍾麟ニ對シ予メ誤解ナキ様出先軍憲ヘ訓令方ヲ要求シ一方塘沽出張中ノ帝國總領事館員ニ於テモ砲台当局トノ間ニ必要ナル打合ヲ遂ケタリ然ルニ帝國驅逐隊司令カ前記二驅逐団ヲ率ヒ軍団旗及予テ支那側ト協定シアリタル「信号」旗ヲ掲ケ且國民軍士官ノ搭乘セル小蒸汽ヲ先頭トシテ大塘砲台下ニ至リ國民軍士官カ報告ノ為下降スルヤ突如河口突堤ニ配備セラレタル國民軍ノ猛烈ナル射撃ヲ受ケタルヲ以テ止ムナク機関銃ヲ以テ応戦シタル上大沽沖ニ引返セリ右砲撃交換ノ結果我方ニ重傷一名（主計大尉辻忠臣）輕傷一名（二等兵曹服部義明）微傷一名（中佐蒲田靜三）計三名ヲ生シタリ

前記議定書關係國最後通牒交付ノコトアルヤコレ日本カ奉天側ヲ援助シ列國ヲ率イテ其侵略政策ヲ実行セントスルモノナリトナシ殊ニ帝國驅逐艦被射事件發生スルヤ発砲ノ責

ニ交渉ヲ進ムルヲ有利ナリト認メ三月十七日有田總領事ニ對シ其旨訓令シタルカ三月十九日鹿鍾麟ハ使ヲ以テ同總領事ニ對シ前記高震龍ヲ全權代表トナシ本件交渉ニ当ラシムヘキ旨並可成之ヲ地方的ニ解決シ度旨申述ヘタル趣報告ニ接シタルヲ以テ帝國政府ハ三月二十日同總領事ニ對シ速ニ鹿又ハ其ノ代表ヲシテ本件ノ事實及其ノ責任ヲ承認セシムル様交渉ヲ促進スヘキ旨重ネテ訓令セリ然レトモ此ノ時高ハ既ニ天津ニ在ラス鹿又私ニ天津引揚ヲ決意セルモノノ如ク有田總領事カ帝國政府ノ訓令ヲ齎シテ熱心ニ面会ヲ求メタルニモ拘ラス種々ナル口実ノ下ニ会见ヲ避ケ居タルカ遂ニ二十二日早朝張之江等ト共ニ北京ニ引揚クルニ至レリ茲ニ於テ有田總領事ハ止ムナク二十三日祝交渉員ヲ往訪本件事実ヲ略述シ既ニ高震龍ニ於テ本件事実ヲ認メタル以上交渉員ニ於テモ之ヲ確認シ之ニ基キ速ニ本件解決ノ途ヲ講スルコトトシ度旨ノ書面ヲ交渉員ニ与ヘ同交渉員ヨリ本件事実ニシテ既ニ高總領^{（震龍）}ノ承認ヲ經タル以上同交渉員自ラ否認ノ余地ナキ旨ノ復答ヲ發セシムルコトトシ即時之カ交換ヲ了セリ

(三)北京ニ於ケル善後交渉

任ヲ帝國方ニ帰セムトスルモノアリ各地ニ排日運動勃発ノ兆アリ就中三月十八日北京ニ於テ排外示威運動ヲ行ヘル學生団カ國務院衛隊ト衝突シ死傷者数十名ヲ出シヤ段政府反對、帝國主義打破ヲ絶叫スル國民黨系ノ煽動益々甚タシク北京張家口ヲ初メ上海、南京、杭州、蘇州、蕪湖、長沙等長江筋ニ於テ排日ノ氣勢稍昂リ長沙ニ於テハ暴漢帝國領事館並ニ邦人商舖ニ侵入シ器物ヲ破壊セルノ事件アリサレト支那官憲ノ警戒概シテ嚴重且又帝國政府モ各地領事ニ訓令シテヨク事件ノ真相ヲ知ラシムルニ力ムル所アリ為ニ其他ノ各地共格別重大ナル事端ヲ醸スコトナク經過シタリ

(二)天津ニ於ケル交渉經過

在天津有田總領事ハ事件ノ發生後直チニ岡本副領事ヲ大沽ニ派シ事件ノ拡大ト再発ヲ避クル為鹿鍾麟側代表高震龍ト打合ヲ為サシムル所アリタルカ三月十七日高ハ同副領事ヲ來訪シ本件日本側ノ主張ハ之ヲ認メサルヲ得サレ共命令ノ不徹底ニ因ル誤解ニ基クモノナレハ日本側ニ於テモ之ヲ認メラレ円満解決ヲ図ラレ度旨申述ヘタリ帝國政府ハ中央ニ於ケル交渉ヲ促進スル為メニハ鹿鍾麟又ハ其ノ全權代表ヲシテ其ノ責任並我主張事實ヲ承認セシメ其ノ基礎ニ依リ更

在支芳沢公使ハ本件勃發後三月十三日外交總長代理ヲ往訪シ覺書ヲ手交シテ事件ノ大要ヲ述ヘ之カ善後措置ニ関シテハ追テ更ニ何分ノ申入ヲナスヘキモ不取敢此種不祥事件ノ再發嚴遏ノ為最有効ナル手段ヲ講セムコトヲ要求セリ帝國政府ニ於テハ本件カ支那軍憲ノ北清事變最終議定書ニ對スル重大ナル違反行為ナルト共ニ帝國海軍ニ對スル看過ス可ラサル不法行為トシテ本件ヲ重大視シ三月十七日芳沢公使ニ對シ帝國政府ノ要求トシテ

一、砲台責任者ノ嚴罰

二、負傷者ニ對スル賠償（金參万円）並軍艦ノ損害ニ對スル賠償

三、軍ノ責任者タル鹿鍾麟自ラ天津帝國總領事館若クハ北京公使館ヲ來訪シ謝罪スルコト又ハ射撃部隊指揮官ニ於テ同隊ヲ引率シ我國旗ニ對シ捧銃ノ礼ヲ以テ謝罪ノ意ヲ表スルコト

四、支那政府ニ於テ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ將來ノ保障ヲ為スコト

ノ四項ヲ支那政府ニ提出シ率直且迅速ノ解決ヲ計ル可キ旨訓令ヲ發シタリ

右訓令ニ接スルヤ芳沢公使ハ刻下北京中央政府ハ無力ニシテ交渉ノ相手方タル外交部ニモ責任者空位ノ状態ナルニ鑑ミ本事件善後措置トシテハ先ツ鹿司令ヲシテ事件ノ真相ヲ認識セシメタル上鹿トノ間ニ大体ノ諒解ヲ遂ケ置クノ必要アルヲ以テ天津ニ於ケル帝国総領事ト鹿司令トノ間ノ接洽ノ経過ヲ見タル上右訓令ヲ執行スルノ事宜ニ適スルヲ認メタルヲ以テ天津ニ於ケル交渉経過ヲ注視中ナリシ処前記ノ如ク三月二十二日鹿司令ハ天津ヲ引揚ケ北京ニ到レルヲ以テ翌二十三日芳沢公使ハ時機ヲ逃セス鹿ヲ往訪シ帝国政府ノ立場及態度ヲ述ヘ鹿ニ於テ率直淡白ニ其ノ責任ヲ明ニシ以テ事件ノ解決ヲ図ルノ得策ナル所以ヲ切言シタルニ鹿ハ日本軍艦トノ間ニ誤解ヲ生シタルニ付一応遺憾ノ意ヲ表セシモ之カ原因及真相ニ関シテハ種々ナル詭弁ヲ弄シテ其ノ責任ヲ自認スルコトヲ避ケタル上委曲ハ報告ヲ微シタル上何分ノ回答ヲ為スコトヲ約セリ

然ルニ其後鹿鍾麟ヨリハ何等ノ申出無ク却ツテ外間ニ対シ大沽事件ノ責任カ日本側ニ在ルカ如キ口吻ヲ洩シ我方ニ対スル誠意ノ認ムヘキモノ全然無カリシヲ以テ芳沢公使ハ此上右帝国政府ノ訓令執行ヲ遅延セシムルヲ不可ナリト認メ

一方芳沢公使ト其後種々ナル方面ヨリ鹿鍾麟ノ真意ヲ探查シタルニ鹿モ条件次第ニテハ交渉ヲ纏ムルヲ辞セサルノ意アルコト判明シタルヲ以テ三月十日国民軍外交署長ノ来訪ヲ求メ長時間ニ亘リ討議シタル処他ノ条件ニハ大ナル難色ヲ見サリシモ責任者ノ処罰ニ関シテハ種々ナル口実ノ下ニ固ク反対ノ態度ヲ固執シテ纏マルニ至ラス結局同署長ニ於テ鹿司令ト協議スヘキ旨ヲ約シテ会见ヲ終レルカ其際看取シ得タル所ニ依レハ帝国軍艦ノ損害ニ対スル賠償ハ肯セサルモ重傷者ニ対シテハ二万弗以内ノ範囲ニテ賠償ヲ承諾スヘキ模様ニシテ又支那側ニ於ケル死傷者ニ対シ弔慰金等ノ名義ニテ五千弗内外ノ贈与ヲ受ケタキ希望ヲ有シタルモノノ如シ

次イテ四月十二日芳沢公使ハ外交総長ト長時間会见シテ本件解決ニ付談合ヲ遂ケタル結果帝国政府ノ訓令ニ比シ不満足ノ点多キモ時局ノ変転ニ顧ミ隱忍スルヲ有利ト認メタルヲ以テ次ノ如キ解決要綱ヲ取纏メ同公使及鹿総司令代表唐悦良ノ名義ヲ以テ同総長トノ間ニ仮調印ヲ了セリ

(一)日本軍艦ニ対シ射撃ヲ加ヘ軍艦ノ溯江ヲ阻止シタル支那兵ハ負傷後既ニ死亡シタル為メ之ヲ処罰スルコト能

事ノ成否ハ兎ニ角トシ四月一日胡外交総長ニ会见シ右訓令ニ基キテ次ノ五箇条ノ要求条件ヲ列記セル覚書ヲ手交シタル上時局ニ鑑ミ本件交渉ヲ秘密ニ付スルコトニ打合ヲ遂ケタリ

(一)直接責任者ヲ処罰スルコト

(二)日本側負傷者ニ対シ賠償金トシテ相当額ヲ支払フコト

(三)日本軍艦ノ損害ニ対スル賠償ヲ為スコト

(四)射撃ヲ為セル支那軍隊ノ最高代表者ニ於テ駐支帝国代表者ニ対シ親シク謝罪ノ方法ヲ講スルコト

(五)支那政府ヨリ駐支帝国公使ニ対シ公文ヲ以テ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ将来ヲ保障スルコト

此時ニ当リ天津ニ於ケル支那側交渉ノ相手方再三更迭シ支那外交総長モ何人カ天津ニ於ケル正当ナル交渉員ナルヤニ付明答ヲ与ヘス曩ニ天津ニ於テ岡本副領事ニ対シ本件ニ関スル我方主張ノ事実ヲ承認セル高震龍モ其後前言ヲ取消スノ態度ヲ示シ天津ニ於ケル交渉力其ノ目的ヲ達スルノ可能性極メテ鮮キ状況トナレルヲ以テ帝国政府ハ此上ハ一意中央ニ於ケル交渉ヲ進捗セシムル様四月七日重ネテ芳沢公使ニ電訓スル所アリタリ

ハス

(一)日本側負傷者ニ対シ慰藉金トシテ総額二萬元ヲ贈ルコト

ト

(二)日本軍艦ニ対スル損害賠償ヲ免除スルコト

(三)鹿鍾麟ハ在支芳沢公使ニ対シテ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルコト

(四)支那政府ハ公文ヲ以テ在支芳沢公使ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ将来此ノ種事件ヲ発生セシメサル旨保障スルコト

(五)日本政府ハ支那側死傷者ニ同情ヲ表スル為メ銀七千元ヲ撫恤スルコト

以上ノ交渉ニ於テ北京外交部ハ同部トノ正式交渉ヲ纏ムルニ先チ差当リ我方ト国民軍側トノ非公式談合ヲ希望シタルヲ以テ芳沢公使ハ他方鹿総司令代表唐悦良ト折衝ヲ重ネタル末四月十二日付ヲ以テ前記解決要綱ニ仮調印シ之ニ基キ鹿鍾麟ハ四月十六日親シク帝国公使ヲ来訪シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表明スコキ約成ルニ至レリ

帝国政府ハ右解決要綱ニ対シ大体ニ於テ満足シタルモ第六項ニ対シテハ将来同様ノ事件ニ際シテ惡例ヲ貽スノ惧アル

ノミナラス今次事件ニ於テ我方ノ応射ヲ何等不当ナルカ如キ印象ヲ与フル懸念アルヲ以テ之ヲ右要綱中ヨリ削除シ之カ為メ要スレハ我方負傷者ニ對スル慰藉金ヲ輕減スルモ可ナル可ク但シ若シ之カ為メ解決案全部ノ不成立ヲ来スカ如キ惧アルニ於テハ右第六項ノ撫恤金ハ本件ト切離シ別途ニ解決スルノ方法ニ於テ協定ヲ遂ケシムルヲ妥當ト認メ四月十三日右ノ趣ヲ芳沢公使ニ電訓セリ然ルニ恰モ北京方面ノ政情戦局共ニ急転シ鹿司令以下国民軍ハ四月十五日北京ヲ撤退シテ張家口方面ニ移レル為メ鹿ノ約束ハ遂ニ実行セララルニ至ラス鹿ノ代表トシテ右解決要綱ニ調印シタル唐悅良モ身辺ノ危険ヲ虞レ某米國人ノ宅ニ隠レ同人ノ活動ヲモ望ミ難キ彼は甚シク遺憾ナル状態ニ陥リタルヲ以テ同二十日芳沢公使ハ外交總長ヲ往訪シテ此際外交部ニ於テ迅速且的確ナル方法ニ依リ鹿ヲシテ陳謝セシムルノ手配ヲ講セムコトヲ申入レタルニ同總長ハ差当リ唐悅良ノ所在ヲ突き止メ同人ヲシテ鹿ノ代表トシテ陳謝ヲ為サシムルヲ便利ナル可シト為シ芳沢公使モ之ニ同意シ置キタルカ其後外交部ヨリノ申越ニ依レハ唐悅良ノ所在ハ判明セルモ張之江ニ於テ大沽事件ト同列ニ交渉中ナル楊村事件ノ解決要綱ニ付異議

江ニ於テ楊村事件ノ解決条件ニ異議アリトノコトナルモ右ハ既ニ仮調印ヲ了セルモノナル以上我方ニ於テ到底譲歩シ難キ次第ナルコトヲ力説シタル上至急外交部ニ對シ兩事件ノ解決要綱全部ヲ承認スル旨打電方ヲ交渉セシムルコトトセリ

外交總長モ我方ノ申出ニ對シ相当誠意ヲ示シ四月二十一日張家口ニ在ル張之江及鹿鍾麟兩人ニ宛テ前記仮調印済ノ兩事件解決要綱ニ對スル適確ナル意思表示ヲ要求シ且右要綱ニ基ク国民軍側ノ実行方法ヲ照会セル電報ヲ發シ二十八日更ニ督促ノ電報ヲ發シタルカ五月初旬ニ至ルモ何等ノ回電ニ接セサル趣ナリシヲ以テ芳沢公使ハ張家口山崎領事ヲシテ鹿鍾麟ニ就キ右外交部照電ノ著否ヲ訊シ速ニ外交部ニ返電ヲ要望セシムルコトトセリ

依ツテ五月七日山崎領事ハ鹿ヲ往訪シ談合ヲ遂ケタルニ外交部ノ電照ニ對シテハ数日前既ニ「大沽事件ニ付テハ異存無キヲ以テ可然処置アリタク楊村事件ハ自己ノ全ク關係無キ所ナルモ外交部ニ於テ適當ト認ムル程度ニテ処置方異存無キ」旨回電済ナル趣ナリシカ他方外交部ニテハ鹿ヨリノ回電ニ接シ居ラサルノミナラス楊村事件ノ善後処置ニ関ス

アリトノコトニテ遂ニ要領ヲ得ルニ至ラサリキ

第三、張家口ニ於ケル兩事件交渉經過

(一) 外交部及国民軍ノ照覆

北京ニ於ケル楊村大沽兩事件ノ交渉カ四月十二日芳沢公使及鹿鍾麟代表唐悅良ノ間ニ於ケル解決要綱仮調印ニ依リ殆ント解決ニ達セムトシ之ニ基キ同十六日鹿司令カ親シク芳沢公使ヲ訪問シテ兩事件ニ對スル遺憾ヲ表スルノ約ナリシニ拘ハラス事前ニ於テ同方面ノ時局急転シ鹿司令等ノ北京撤退トナリタル為メ右ノ約束ハ遂ニ実行セララルニ至ラス極メテ遺憾ナル状態ニ立チ到リタル次第ハ既ニ述ヘタル所ノ如シ

依テ芳沢公使ハ果シテ唐悅良ノ所言ノ如ク国民軍側ニ於テ楊村事件ノ解決案ニ多少ノ異議アル次第ナラハ之ニ依リ同軍ニ異議無シト認メラルル大沽事件ノ正式協定迄遷延セララルカ如キコトアラハ甚タ遺憾ナルヲ以テ此際事宜ニ依リテハ先ツ大沽事件ヲ單獨ニ解決スルヲ得策ト認メ右ノ方針ニ依リ交渉繼續方本省ノ承認ヲ求ムルト同時ニ爾來外交部ニ對シ張家口ニ滞在スル鹿鍾麟ト交渉ノ上兩事件ノ解決促進方要望シ更ニ在張家口山崎領事ニ對シテハ鹿ニ對シ張之

ル鹿ノ返電ノ意味極メテ曖昧ナルヲ以テ芳沢公使ハ折返ヘシ山崎領事ヲシテ鹿ニ對シ大沽事件ニ對シ鹿力前記解決要綱ニ異存無キコトニ念ヲ押スト共ニ右楊村事件ニ對スル鹿ノ真意ヲ突止メタル上鹿ヲシテ兩事件ニ関スル遺憾表示ノ約束ヲ速ニ実行セシムル様尽力方電訓セリ

然ルニ五月十五日山崎領事力再ヒ鹿鍾麟ヲ訪問シテ種々談合スルヤ大沽事件ニ付テハ曩ニ芳沢公使唐悅良間ニ仮調印ヲ了シタル取極ハ目下全文ヲ暗記セサルヲ以テ概括的ニ確認シ得サルノミナラス右取極ノミニテハ本件ノ解決案成立スルモノニ非ス更ニ同公使ト鹿自身トノ間ニ往復文書ヲ交換スルヲ要シタルモ其ノ遑無クシテ北京ヲ引揚ケタル次第ナリト為シ楊村事件ニ付テハ張之江ノ所管事項ナルヲ以テ意見ヲ述ヘ難シトテ默シテ語ラス又四月十六日芳沢公使ヲ訪問シテ遺憾ノ意ヲ表ス可キ約束ニ付テハ右ハ同日晚餐ニ招カレタルモノナリト為シテ責任ヲ回避スルノ態度ヲ示シ其ノ言ニ全然誠意無ク兩事件解決ノ趨勢ハ却ツテ逆転シタルノ形勢ニ立チ到レリ

鹿鍾麟ノ如上ノ態度当初ノ交渉事情ニ照ラシ芳沢公使ノ頗ル意外トスル所ナリシヲ以テ重ネテ山崎領事ヲシテ鹿ト接

洽シ苟モ一國代表者ト鹿ノ全權代表トノ間ニ一旦調印ヲ了シタル解決要綱ノ根本義ハ断シテ変更ヲ許シ難キ旨ヲ力説シテ其ノ反省ヲ促シタル上大沽事件ニ関シテハ鹿ニ於テ異議無キ旨明確ニ外交部ニ打電スルト共ニ一日モ速カニ電報ヲ以テ遺憾ノ意ヲ表ス可ク又楊村事件ニ関シテハ北京ニ在留スル国民軍側関係者カ何レモ我方ノ説明及解決条件ノ妥当ナルヲ認メツツアルニ鑑ミ鹿ヨリ張之江ニ勸告シテ速カニ解決要綱ヲ承認セシムルコトナレリ

(二) 国民軍ノ撤退ト交渉不成立

当時鹿鍾麟ハ大同方面ニ赴キテ未タ帰來セサリシヲ以テ六月十七日山崎領事ハ先ツ張之江ト面談シ楊村事件ニ付交渉ヲ試ミタルニ本件ニ関スル解決要綱中他ノ条件ニ付テハ別段異議アル次第ニハ非サルモ難波軍曹カ国民軍側ニテ殺害セラレタルトノ一項ハ(一)国民軍側ニテ現場ノ調査ニ立会ハサルコト(二)同軍曹遭難ノ当時ハ戦局ノ変転ニ伴ヒ軍ハ絶エス移転シツツアリタルヲ以テ同軍曹ノ監禁セラレタリト称セラルル家屋カ張軍ノ司令部タリシモノト断定スルコトヲ得スト為ス等種々ナル口実ノ下ニ之カ承認ヲ拒絕シ四月十二日ノ取極ニ付テモ国民軍カ唐悦良ヲ代表ニ任シタルニ非

事件ノ当面ノ責任者タル鹿鍾麟及張之江ニ対スル再三ノ交渉モ結局無意義ニ終ハリ兩事件ハ茲ニ懸案ノ儘国民軍ハ程無ク西方ニ撤退スルニ至レリ

第四、北京ニ於ケル兩事件經過

(一) 在支公使ノ善後案

楊村大沽兩事件カ政情ノ變転ニ累セラレテ北京ニ於ケル交渉成立スルニ至ラス其後張家口ニ於ケル山崎領事ノ段々ノ尽力ニ拘ハラス国民軍ノ西方撤退ト共ニ我方ノ努力ハ差当リ水泡ニ帰シタル次第ハ上來記述ノ如クナル処兩事件ノ解決ハ此上永ク遷延セシムルヲ得サル所ナルヲ以テ其後在支公使ニ於テ善後策ニ付折角考究ノ結果次ノ方針ヲ以テ外交部トノ間ニ交渉ヲ再開スルニ決シタリ

一、楊村事件ノ責任者カ国民軍第一軍ナリヤ否ヤノ問題アルモ支那政府ハ之ヲ支那軍隊ノ行為トシテ其ノ責任ニ任スルヲ当然トストノ建前ニテ交渉スルコト

二、兩事件ニ関シ支那側ヨリ支払フヘキ賠償金ハ分割支払ノ方法ニ依ルヲ妨ケサルコト

三、責任軍隊長官ノ陳謝ハ差当リ実行不可能ナルニ付将来

ス唐ニ於テ私人的交渉ヲ遂ケタル迄ナルヲ以テ其ノ妥当ナラサル点ニ付事後ニ於テ承認ヲ拒絕スルモ何等國際信義ニ抵触セサル旨ヲ強弁シタリ

其後六月下旬鹿鍾麟大同方面ヨリ張家口ニ帰來セルヲ以テ山崎領事ハ同二十九日之ト面談シタルニ鹿ハ案外ニモ唐悦良ヨリノ報告ニ依レハ楊村事件ニ付テハ解決要綱第一条中「国民第一軍ノ範圍内ニ於テ殺害云々」トアルヲ「京津戦線ニテ殺害」ト改メ又兩事件トモ鹿ノ代リニ唐代表ヨリ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ改メテ兩事件共同時ニ解決スルコトナリタル旨ヲ答ヘタルカ右ハ単ニ鹿ノ一時的遁辭ナルコト後日ニ至リテ判明シタルヲ以テ更ニ之ヲ糾明セムトシタルモ七月中旬以來鹿ハ東路軍總司令トシテ大同懷來方面ノ軍事ニ忙殺セラレタリシ為メ其ノ機ヲ得サリシ処八月中旬愈々国民軍撤退ノ期迫リタル為メ鹿ハ同十四日張家口ニ帰來シタルニ付十六日山崎領事ハ之ヲ部統署ニ訪問シ長時間ニ亘リ押問答ヲ繰返ヘシ前回会见ニ於ケル鹿ノ所言カ全然虚言ナリシコトヲ責メタルモ唐悦良ヨリノ報告ヲ口実ニ遁辭ヲ弄スルノミニンシテ何等手応無ク鹿ノ態度依然全ク誠意ヲ欠キ同日ノ会谈モ遂ニ得ル所無カリキ斯クノ如クニシテ

適當ノ機會ニ於テ適當ノ方法ヲ講スルコト

四、外交部ヲシテ在支帝國公使ニ対シ正式ニ文書ヲ以テ兩事件ニ関スル遺憾ノ意ヲ表セシメ且將來ニ対スル保障ヲ為サシムルコト

五、此際先ツ賠償金ノ支払及遺憾表示ヲ速ニ実行セシメテ兩事件ノ實際的一段落ヲ計ルコト

但シ中央政府ノ基礎甚タ不確實ナル政府ニ在リテ外交部カ果シテ責任ヲ以テ我方トノ交渉ニ応スヘキヤ否ヤ頗ル疑問視セラレタルモ芳沢公使ハ前記方針ヲ以テ外交部ニ開談スルノ機會ヲ待ツコトナレリ

(二) 外交部ニ対スル在支公使覚書

其後北京ニ於ケル時局依然安定ヲ欠キタル為メ兩事件ノ交渉再開ハ実施ノ機容易ニ到ラサリシモ余リニ之ヲ遷延スルヲ得サルヲ以テ十二月十五日芳沢公使ハ顧外交總長ニ会见ヲ求メ兩事件ノ經過ヲ説明シ前記善後方針ニ基ク解決条件ヲ具シタル覚書ヲ交付シタル上兩事件ヲ此上未解決ニ放置シ得サル次第並我方ニ於テハ支那側ノ事情ヲ斟酌シ其ノ条件ヲモ緩和シテ本件ノ速決ヲ期待シツツアル次第ヲ縷説シ同總長ノ尽力ヲ要望スル旨申入レタルニ顧總長ハ書類等ニ

就キ早速研究ヲ為スヘキコトヲ約シ其後芳沢公使ヨリノ督促ニ対シ成ル可ク速カニ何分ノ意見ヲ回示スヘキコトヲ承諾セリ

右芳沢公使ノ覚書ノ全文次ノ如シ

覚書

一、本年三月十二日大沽ニ於テ支那軍隊ノ日本軍艦射撃事件勃発スルヤ事態ノ甚大ナルニ顧ミ速カニ円満公正ナル解決ヲ期セムカ為メ天津駐在日本総領事ハ当時ノ前敵総司令鹿鍾麟氏トノ間ニ交渉ヲ開始シタルカ当時事件ノ真相ニ付テハ鹿司令ノ代表タル高震龍氏モ射撃ノ事実ナルヲ認メ次テ直隸特派交渉員祝惺元氏モ之ヲ認メタリ然ルニ其ノ後国民軍ノ天津撤退ト共ニ同地ニ於ケル国民軍側トノ交渉ヲ促進スルニ由無キニ至リ一切ノ善後措置ハ北京ニ於テ之ヲ講セサルノ止ムヲ得サルニ至レリ。

二、楊村ニ於ケル難波軍曹等遭難事件ハ実ニ十四年十二月中旬ニ発生セル不祥事ニ係リ爾來當時支那軍隊統帥ノ任ニ当レル西北督弁張之江氏ニ対シ直接間接非公式交渉ヲ重ネ以テ迅速且ツ円満ナル解決ヲ期図シタルモ支那側ニ於テハ日本側ノ挙示セル幾多ノ確証ニモ拘ハラス動モス

件解決要綱ニ調印ヲ了セリ。

五、而シテ右解決要綱ニ基キ鹿鍾麟氏ハ四月十六日親シク日本公使ヲ来訪シ両事件ノ発生ニ対シ深甚ナル遺憾ヲ表明スヘキ約ナリシモ政情戦局共ニ急転シ鹿鍾麟氏及国民軍ハ同十五日ヲ以テ北京ヲ撤退シ為之前記四月十二日調印ヲ了セル解決要綱ハ爾來実行ヲ見ルニ至ラス其儘トナリ居レリ。

六、本件ノ経過前頭ノ通りニシテ極メテ重大ナル懸案カ已ニ大体ノ協定ヲ経タルニ拘ハラス未タ之カ実行ヲ見ルニ至ラス荏苒擱置セラルルハ日本公使ノ最モ遺憾トスル処ナリ。仍テ茲ニ本懸案ノ實際的解決ヲ期シ以テ国際睦誼ヲ完ウスルノ見地ヨリ左ノ方針ニ依リ差当リ本件ノ妥結ヲ図ラムコトヲ提議ス。

(1) 両事件ハ共ニ支那軍隊ノ所為タルコト明白ナルヲ以テ外交部ハ此際文書ヲ以テ日本公使ニ対シ両事件ニ付深甚ナル憾ノ意ヲ表シ且ツ将来ニ対スル保障ヲ為スコト。

(2) 四月十二日芳沢、唐調印楊村事件解決要綱第二項及大沽事件解決要綱第二項ニ協定セル弔慰金及慰藉金ハ分

レハ其ノ責任ヲ回避セムトスルノ態度ニ出テタルヲ以テ三月下旬在天津日本駐屯軍ハ特ニ將校其ノ他適任者ヲ楊村ニ特派シ更ニ証憑ノ蒐集ニ努メタル結果遂ニ故難波軍曹ノ遺骸其ノ他多数ノ証拠品ヲ得タルヲ以テ其ノ機ヲ逸セス外交部及国民軍側ノ立会検査ヲ求メタルモ是亦支那側ヨリ明確ナル意思表示ニ接セス仍テ已ムヲ得ス直隸督弁署員ノ立会ヲ求メタルニ同署員ニ於テモ右証実ヲ認メタリ。

三、前叙ノ如ク日本側ニ於テハ出来得ル限り地方的交渉ニ依リ若シクハ先ツ非公式交渉ニ依リ両事件ノ簡易且円満ナル解決ヲ期待シタルモ遺憾乍ラ満足ナル進展ヲ見ルニ至ラス仍テ日本公使ハ両事件解決要項ヲ開示セル三月三十一日付覚書ヲ外交総長ニ交付シテ本件ノ促進ヲ要望セリ。

四、然ルニ外交部ニ於テハ同部トノ正式交渉ヲ纏ムルニ先チ差当リ日本側ト国民党側トノ非公式談合ヲ希望スルノ意向ヲ示シタルヲ以テ日本公使ハ右外交部ノ希望ニ副ヒ国民軍側ト非公式談合ヲ試ルノ方法ヲ講シ鹿総司令代表唐悦良氏ト折衝ヲ経タル結果四月十二日別紙ノ通り両事

割支払ノ方法等適宜ノ方法ニ拠ルヲ妨ケサルコト。

(大沽事件ニ関シ日本側ヨリ贈与スヘキ金員ハ差引勘定スルコト)

(3) 責任軍隊長官ノ陳謝ハ差当リ実行不可能ノ事態ニアルヲ以テ右実行ハ将来ノ機会ニ於テ適當ノ方法ヲ講スルコトトスルコト。

(二) 楊村事件解決方ニ関スル北京外交部申出

昭和二年一月十五日王外交次長ハ部員ヲ在北京帝國公使館ニ派シ楊村事件解決方ニ関スル同次長個人ノ意見ナリトテ左ノ二点ヲ申出デシメタリ

(一) 日本側ニ対シ外交部ヨリ遺憾ノ意ヲ表スルコトハ異存ナキニ付其旨何時ニテモ公文ヲ以テ日本公使館ニ表示スヘシ

(二) 慰藉金又ハ賠償金ノ名義ヲ以テ支出ヲ為スコトニハ同意シ難キモ慈善事業ニ対スル寄付等ノ名義ヲ以テスルニ於テハ一万円ヲ限り支出スヘシ

仍テ芳沢公使ハ堀参事官ヲシテ同月十八日王次長ヲ往訪意見ヲ交換セシメタル処同次長ハ支那側ニ於テ支出スヘキ金銭ノ名義ヲ賠償金トスルトキハ財政部所管事項ニ關係スル

コトトナルニ依リ其ノ支払ニ付テハ閣議ヲ経ルヲ要シ閣議ニ於テハ反对者一人アルモ決定ヲ見サルヲ以テ解決困難ナルモ寄付トスルトキハ外交部限リニテ処置シ得ル見込ナル旨説明セルヲ以テ堀参事官ハ寄付ノ名義ニテハ我方ニ於テ考慮ノ余地ナク撫恤金ノ名義トナルニ於テハ本質上慈善事業ニ対スル寄付ト差異ナク閣議提出ノ必要ナカルヘキ旨指摘シ結局右ニ付テハ王次長ニ於テ顧總長ト篤ト相談シ置クコトトナリ又金額ニ付堀参事官ヨリ一万円ハ我方要求額ト逕庭甚シキ旨ヲ述ヘタルニ対シ王外交次長ハ北京政府財政ノ現状ヲ理由トシテ成ルヘク減額方希望シタルモ堀参事官ハ一万円以下ニテハ到底承認困難ナル旨ヲ述ヘ同日ノ会見ニ於テハ何等決定ヲ見ルニ至ラサリキ

四 北京外交部ノ楊村事件解決案

王外交次長ハ前記堀参事官トノ会見後芳沢公使ニ対シ左ノ二点ヲ申出テ来レリ

(一)我方解決要綱(大正十五年四月十二日芳沢公使唐悦良調印)第一項中国民第一軍ノ範圍内ニ於テ殺害云々ノ点ハ閣議ノ通過困難ナルニ依リ右ヲ京津区域内ニ於テ殺害云々ト改ムルコト

対アリタル結果否決セラレタル趣ニシテ同月二十二日同次長ハ芳沢公使ニ右ノ趣ヲ語レルヲ以テ同公使ハ支那現内閣ハ日本ニ対シテ好意ヲ有シ居ルモノト信シ居タル処此種事件解決ニ誠意無キハ意外トスル所ナル旨ヲ述ヘテ支那側ノ誠意ヲ反問シタルニ王次長ハ兎モ角本件解決案ニ反对ノ三總長ヲ自ラ往訪ノ上其ノ諒解取付方努力スヘキ旨ヲ約シタリ尚同日ノ会見ニ於テ芳沢公使ハ前記閣議ニ楊村事件ノミ提出アリタルコトヲ指摘シテ大沽事件モ亦楊村事件ト一併解決ノ要アルコトニ付王次長ノ切実ナル注意ヲ促シタリ然ルニ其後顧總長ノ因循姑息ナルト閣議開催ノ機無カリシ為本件交渉ハ再ヒ遷延スルニ至レリ

(六)交渉再開

其後顧内閣倒壊シ一時交渉ノ相手方ヲ失ヒタルカ次イテ六月二十日潘内閣ノ成立ヲ見王蔭泰、外交總長ニ就任シタルヲ以テ堀代理公使ハ同月二十七日同總長ヲ往訪シ本件解決方ヲ督促シ前記王外交次長ノ解決案ヲ至急閣議ニ提出方努力アリ度又其ノ際ニハ大沽事件ヲモ一併解決ノ事ニ取計ハレ度旨申入レタル処王總長ハ其ノ就任ト同時ニ本件交渉ヲ受クヘキコトハ予期シ居レル所ニシテ大沽楊村両事件ハ一

(二)第二項ニ関シ撫恤金ノ名義ニテ現銀二万元即時支払ノ条件ニテ折合度キコト(原案ニテハ銀三万元)

仍テ芳沢公使ハ右第二ノ現銀支払トスル点ハ昨年十二月十五日付同公使覚書第二項ノ条件ヨリ我方ニ有利ナルノミナラス此ノ機会ヲ逸シテハ本件解決ノ望ミモ薄ラク虞アリト認メ一応同公使一個ノ意見トシテ右王次長ノ意見通りニテ支那側閣議通過方努力シテ差支ナキ旨挨拶シ置クト同時ニ右王次長提案ニ依リ楊村事件ヲ解決シタキ旨請訓シ越セリ依テ本省ニ於テハ二月三日右請訓ニ承認ヲ与フルト共ニ楊村事件ト一併解決ノ方針ナル大沽事件ニ関スル其後ノ成行並其ノ解決方ニ関スル同公使ノ意見回電方訓令セリ而シテ大沽事件ニ関シテハ王外交次長ハ二月五日堀参事官ニ対シ前記解決案ノ趣旨ニテ楊村事件ヲ解決ヲ見ル上ハ大沽事件モ大正十五年十二月十五日付芳沢公使覚書ノ趣旨ヲ以テ同時ニ解決スルコト困難ナラサルヘシト信スル旨ヲ述ヘタリ

(五)王次長解決案ノ閣議否決

然ルニ前記我方ト内協議ヲ経タル王次長ノ楊村事件解決案ハ三月二十日ノ閣議ニ於テ陸軍、財政及司法三總長ヨリ反

併解決スヘク最近ノ閣議ニ提出スル予定ナル旨ヲ答ヘ同日ノ会見ニ於テハ何等具体的ニ纏マル所無カリシモ茲ニ本件交渉ハ再開ノ緒ニ就クニ至レリ

次イテ七月六日堀代理公使王外交總長ヲ往訪シタルニ同總長ハ楊村及大沽両事件ハ目下支那側ニ於テ原案作成中ナレハ同案ニ付我カ公使館トノ間ニ協定成立ノ上閣議提出ヲ省略シテ外交總長、軍事部長及財政總長ヨリ直接張大元帥ノ裁可ヲ得ル手筈トナシ居レル旨ヲ語リタルカ翌七日陳外交部秘書重光書記官ヲ来訪シ楊村事件解決ニ関スル外交部ノ書簡案ヲ示シタルカ右ハ全然支那側ニ責任無キ旨ノ辭句ヲ使用シ唯友邦軍人ノ不幸ナル結果ニ対シ遺憾ノ意ヲ表シ遺族ニ対シ銀二万銀ヲ給スルノ趣旨ナリシヲ以テ彼此論議ノ結果本件解決案ニハ単ニ難波軍曹遭難ノ事実ヲ記シ支那側ニ於テ之ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ救恤金ヲ支払フヘキコトヲ記シ以テ本件ヲ簡單ニ解決スルノ方針ニ一決シ日本側ヨリ之カ案ヲ追テ支那側ニ送付スルコトト為セリ尚右会談ノ際支那側ニ於テハ楊村事件ト共ニ大沽事件ヲ解決スノ意向ナキヤノ感触ヲ与ヘタルカ同日本庄中将力王外交總長ト会談セル際ニモ王總長ハ両事件ノ一併解決ノ困難

ナル旨ヲ語レリト云フ

(C) 兩事件解決ニ関スル我方提案

七月十一日重光書記官外交部ニ至リ左ノ如キ楊村事件及大沽事件ニ関スル解決案（支那側ヨリ日本公使館宛覚書案ノ形式トス）ヲ私案トシテ外交部陳秘書ニ提出シ我方トシテハ大沽事件ヲモ同時ニ解決シタキ意向ナル旨ヲ申入レタリ

(一) 楊村事件ニ関スル日本公使宛支那側覚書案

民国十四年十二月中旬国民、直隸兩軍交戦ノ際日本支那駐屯軍所屬難波軍曹外二名ハ楊村付近ニ於テ電線ノ修理ニ從事中不幸遭難シ同軍曹ハ横死ヲ遂ケタリ中国政府ヘ右不祥事件ニ対シ日本政府ニ向ヒ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト同時ニ将来再ヒ此種事件ヲ発生セシメサルコトヲ保障ス中国政府ハ聊カ其ノ衷恤ノ意ヲ表スル為特ニ当該遭難者並遺族ニ対シ銀二萬元ヲ贈呈シ救恤ニ資セムトス右御了承ノ上何分ノ儀回答アラムコトヲ希望ス

(二) 大沽事件ニ関スル日本公使宛支那側覚書案

民国十五年三月中旬塘沽方面ヨリ大沽砲台付近ニ溯江シ来レル日本軍艦ニ対シ中国兵カ砲撃シタル結果其ノ乗組員中負傷者ヲ出シタル不祥事件ニ対シ中国政府ハ茲ニ深

甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ将来此種事件ノ再発セサル様保障スルコトヲ声明ス

中国政府ハ又日本政府カ右不祥事件ニ依ル日本軍艦ノ損害ニ対シ之カ賠償ヲ要求セサルノミナラス中国死傷者ニ対シ銀七千元ノ撫恤金ヲ贈与セントスルノ好意ヲ深ク感佩シ茲ニ日本政府ニ対シ右不祥事件ノ直接關係者タル中国員カ負傷後既ニ死亡シ処罰スルニ由ナキヲ遺憾トスル旨通報スルト共ニ日本側負傷者ニ対シ銀二萬元ヲ贈呈シ聊カ慰藉ノ資ニ供セムトス

(六) 支那側修正案

其ノ後帝國公使館ニ於テハ支那側ニ対シ本件解決方督促ヲ続ケ七月二十五日重光書記官楊宇霆ニ面会ノ際更ニ懸案解決ノ必要ヲ説述シタルカ同月二十七日外交部陳秘書ハ重光書記官ニ対シ前記楊村事件ニ関スル七月十一日外交部ニ提出セル我方解決案ハ支那側ニ於テ大体異議ナシトテ左ノ如キ修正案ヲ提出セリ

楊村事件ニ関スル支那側修正案

民国十四年十二月中旬国民軍ト直隸軍ト交戦ノ際日本ノ駐支軍隊所屬難波軍曹ノ楊村付近ニ於テ電線修理中遭難

失絲セルノ事件ハ曩ニ容易ニ判明セサルニ依リ解決遷延

シ居リタル処次テ楊村付近ニ於テ遺骸ヲ搜索発見シタルヲ以テ同軍曹ノ確実ニ死亡セルコト証明セラレタリ中国政府ハ友邦軍人ノ此ノ不祥ナル結果ニ遭遇セルニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ聊カ慰藉ノ意ヲ表スル為メ特ニ同軍曹遺族ニ対シ銀二萬元ヲ贈リ救恤ス

右御了知ノ上何分ノ儀御回答アラシコトヲ希望ス

尚大沽事件ニ関シ陳秘書ハ楊村事件ト同時ニ解決スルコトノ困難ナルコトハ從來同様ナルモ外交部ニ於テモ必スシモ大沽事件ノ解決ヲ急カストノ趣旨ニアラサル趣ヲ以テ同事件解決ノ準備トシテ左ノ如キ支那側覚書案並之ニ対スル日本側回答案ヲ提出シタル上支那側トシテハ大沽事件ニ関スル責任ハ必スシモ支那側ノミ之ヲ負フヘキモノニアラストノ意見ナル旨ヲ述ヘテ我方ノ考慮ヲ求メタリ

大沽事件ニ関スル支那側修正案

(一) 外交部覚書案

民国十五年三月中旬大沽守備中ノ中国軍艦ト入港シ来レル日本軍艦トノ間ニ誤解ニ依リ相互砲撃シ日本軍艦ニ数名ノ負傷者ヲ出シ中国軍艦亦数十名ノ死傷者ヲ出セリ中

国政府ハ此ノ不祥事件ニ対シ深ク遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ日本側負傷者ニ対シ銀一萬元ヲ贈リ撫恤ス就テハ右御了承ノ上何分ノ儀回答アラシコトヲ請フ

(二) 同シク日本側回答案

、、、、日付外交部覚書ヲ以テ、、、、、ノ旨回答ニ接シ之ヲ閱悉シ同時ニ日本政府ヘ転達セリ査スルニ本事件ハ双方ノ誤解ニ依リ発生セルモノニシテ日本政府ハ此ノ不祥事件ニ対シ深ク遺憾ノ意ヲ表スルモノナリ中国政府ハ厚意ヲ以テ日本側負傷者ニ対シ銀一萬元ヲ贈与シタルニ付日本政府モ亦自発的ニ支那側死傷者ニ対シ撫恤金トシテ銀五千元ヲ給与ス

右諒承相成度シ

右ニ対シ重光書記官ハ何レ篤ト研究ノ上回答スヘキモ我方トシテハ兩事件ヲ至急一括解決シ度キ希望ナルヲ以テ成ルヘク妥協ノ精神ヲ以テ文句ノ修正ハ支那側ノ希望ニ副ヒタキモ大沽事件ニ関シ日本側ニ於テモ遺憾ノ意ヲ表スルコトハ絶対ニ削除ヲ要スヘク慰藉金ノ額モ原案ノ半額以下トナリ居リ不備ヲ免レサル次第ヲ指摘シタルニ陳秘書ハ財政窮乏ノ折柄慰藉金ニ付テハ成ルヘク日本側ノ好意の考慮ヲ希

望スル旨申述ヘタリ

(ハ)我方再修正案(確定案)

前記支那側修正案ニ付我カ公使館ニ於テハ陸海軍武官ト協議シタル結果同修正案ニ対シ更ニ左ノ如キ修正ヲ加ヘ支那側カ右ニ同意シ現金ノ授受ヲ即時取運フニ於テハ金額ハ支那側申出ニ譲歩スヘキ旨ヲ申入レ本件解決促進ヲ試ミルコトニ意見一致シ右ノ趣請訓シ来レルヲ以テ本省ニ於テハ之ヲ承認スルニ決シ關係省ト協議ノ上其ノ同意ヲ得テ八月四日堀代理公使ニ対シ其旨回訓セリ

(一)楊村事件解決案

民国十四年十二月中旬国民軍ト直隸軍ト交戦ノ際日本ノ駐支軍隊所屬難波軍曹等楊村付近ニ於テ電線修理中遭難シ右ノ内難波軍曹ハ遂ニ行衛不明トナレリ為ニ事実容易ニ判明セス解決遷延シ居タル処次テ楊村付近ニ於テ遺骸ヲ搜索発見シタルヲ以テ同軍曹ノ確実ニ死亡セルコト証明セラレタリ中国政府ハ友邦軍人ノ此ノ不祥ナル結果ニ遭遇セルニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ聊カ慰藉ノ意ヲ表スル為特ニ遭難者ニ対シ銀二萬元ヲ贈リ救恤ス

右御了承ノ上何分ノ儀御回答アラシコトヲ希望ス

(二)大沽事件解決案

甲、支那側覚書案

民国十五年三月中旬大沽守備中ノ中国軍艦ハ入港シ来レル日本軍艦ニ対シ誤解ニ依リ発砲シ其ノ結果日支双方ニ負傷者ヲ出セリ中国政府ハ此ノ不祥事件ニ対シ深く遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ日本側負傷者ニ対シ銀一萬元ヲ贈リ撫恤ス就テハ右御了承ノ上何分ノ儀御回答アラシコトヲ請フ

乙、日本側回答案

、、、、日付外交部覚書ヲ以テ、、、、、、、、、、、、、、、、(支那側覚書全文)、、、、申越ノ趣ヲ了承セリ日本政府ニ於テモ支那側死傷者ニ対シ撫恤金トシテ銀何元(五千元)ヲ給与ス

(イ)其後ノ経過

在支帝國公使館ニ於テハ八月五日重光書記官ヲシテ外交部陳秘書ヲ往訪セシメ前記我方修正案ヲ手交セシメ両事件ノ一併解決ノ必要ヲ力説セシメ同十七日堀代理公使王外交総長ヲ往訪本件其後ノ模様ヲ尋ネタルニ両事件ハ国民軍時代

ノモノナリトノ理由ニヨリ閣議ニ於テ否決セラレタル旨ノ返答ナリシヲ以テ同総長ニ対シ更ニ其ノ猛省ヲ求メ置キタルカ其後支那側ニ於テ本件解決案ハ総理及外交、軍事財政三総長間ニ合議決定ヲ見ルニ至レルモノノ如クナルモ正式

閣議ニ提出セラルルヤ或ハ直接張大元帥ノ允許ヲ請フモノナルヤ未定ノ状態ニ在リ